

認定NPO法人
市民セクターよこはま

■ 事業報告 2016 ■

2016年度（2016年4月～2017年3月）



～誰もが自分らしく暮らせるまち～

一人ひとりの市民が主人公として、
幸せと豊かさを実感できる市民社会の実現を目指して...

2016 年度事業報告書 目次

◆ 2016 年度を振り返って	P 4
-----------------------	-----

◆ 運営に関する事項（法人総務）

（1）会員〔会員数・会員総会〕	P 6
-----------------------	-----

（2）理事会〔開催日・議題〕	P 6
----------------------	-----

（3）各団体・行政機関等の委員の受任	P 6
--------------------------	-----

（4）他団体の会員として	P 8
--------------------	-----

.....

◆ 事業に関する事項

◇ 市民活動支援事業

横浜市市民活動支援センター運営事業	P 9
-------------------------	-----

※別紙「事業報告 2016」参照



にしく市民活動支援センター運営事業	P 9
-------------------------	-----

※別紙「事業報告 2016」参照



◇ 地域活動支援事業

- よこはま食事サービス連絡会 P 10
- 認知症ケア関連事業 P 12
 - ・ 認知症サポーターキャラバン P 14
 - ・ 認知症カフェ事業 P 19
 - ・ 認知症ケア実務者向け研修 P 20
 - ・ 一般（家族）向け「認知症ケア講座」（栄区） P 21
- よこはま地域づくり大学校
 - ・ 第 5 期 泉区まちづくりみらい塾 P 22
 - ・ 第 5 期 西区地域づくり大学校 P 25
 - ・ 第 2 期 神奈川区地域づくり大学校 P 28
- ヨコハマ市民まち普請事業 P 31

◇ 第三者評価事業 P 33

- ・ 福祉サービス第三者評価 P 33
- ・ 障がい者保養施設宿泊モニタリング P 34

◇ クロスセクター事業

- ・ スタディツアー（NPO・企業編） P 35

◇ その他

特定非営利活動法人横浜市小規模多機能居宅介護事業者連絡会の事業事務局代行・P 37

・ ・ ・ ・ ・

◆ 資料編

- (1) 会員数の推移 P 38
- (2) 収入額の推移と内訳 P 38
- (3) 市民セクターよこはま沿革 P 39
- (4) 2016 年度の役員・事務局スタッフ P 40

1. 地域の中の居場所づくり支援に重点的に取り組みました。

介護保険の見直しにより、「生活支援コーディネーター」が配置され、「つなぐ役割」「活動を後押しする役割」が期待され、また、経済的な困窮のある人、障害のある人を支援する制度の考え方も「自らの力が発揮しやすい環境づくり」に向けて大きく舵がきられました。

そのような中であって、わたしたち市民活動・地域活動を担うものは、地域の中のコーディネーターとして、上記制度的なコーディネーターとともに、お互いをパートナーとして、「つなぐ役割、つくる役割」を積極的に果たしていく必要があると計画冒頭に書かせていただきました。

そこで当法人では、市民活動・地域活動団体の後押しとして、「地域の中の居場所づくり」を意識した取り組みを積極的に進めていきました。

具体的には、区役所と協働し、「西区地域づくり大学校 居場所のつくり方」連続講座や、「都筑区シニア★スター養成講座」、「認知症カフェ情報交換会」、「認知症カフェフォーラム」などに取り組みました。

また、横浜市市民活動支援センターでは、「地域ささえあいフォーラム」を開催し、さらには、「情報誌アニマート 20 号」において、居場所づくりを特集、事例や助成金・制度の紹介を行いました。

この取り組みは、積み上げが大事になりますので、2017 年度も力を入れて取り組みます。

2. 企業との関係づくりに積極的に取り組みました。

協働のあり方が、変化の潮目を迎えている中、2016 年度は主に企業との関係づくりに積極的に取り組みました。

具体的には、地域づくり大学校本校を企業と協働で実施するべく、横浜地場で CSR に熱心な企業をまわり、企業ニーズにも応えることで、参画へのご理解を得ることができました。

また横浜市市民活動支援センター「管理者による専門相談」には、これまでになく多くの企業からの相談があり、企業の CSV（本業を通じた社会貢献活動）の流れが本流になりつつあることを感じました。

3. 包摂の幅を広げ、活動の幅を広げるために、子どもの貧困対策に関するフォーラム、にしく市民活動支援センターや地域づくり大学校に取り組みました。

市民活動や地域活動がもともともっている「包摂」の幅を、もっともっと広げ、とすれば孤立しかねない人たちと、地域の仲間として、ともに活動を広げていくことができるよう、「子どもの貧困対策マッチングフォーラム」や区役所等と協働して区域（西区・泉区・神奈川区）の地域づくり大学校に取り組みました。

また、にしく市民活動支援センターにおいては、生涯学習グループの支援に力を入れて取り組みました。

4. 職員のプロ意識の醸成を図りました。

市民活動や地域活動の中間支援組織、福祉サービスの第三者評価事業を行う機関として、企業・行政・大学研究者など多様な主体と協働していく際に身に着けておくべき知識やスキル、マナーがあることを意識しながら、業務にあたりました。

具体的には、日本 NPO センターの市民セクター全国会議、日本ファンドレイジング協会のファンドレイジングジャパンなどの多数のセッションに手分けして参加し、合宿等で内容を共有しました。

また、4 人の職員が講座講師やファシリテーターとして実践を積み重ねました。

さらには、協調的に対話しながらも、芯をもって組織としての意見を伝えていくことや、信頼と好感につながりやすい服装や言葉遣いなどを磨くことを意識するなど、職員のプロ意識の醸成を図りました。

運営に関する事項（法人総務）

(1) 会員

● 会員数

2016年3月31日時点：138

【正会員 125】団体 48/個人 77、【準会員 7】団体 3/個人 4、【賛助会 6】団体 2/個人 4

↓

2017年3月31日時点：134

【正会員 122】団体 48/個人 78、【準会員 6】団体 3/個人 3、【賛助会 6】団体 2/個人 4

● 社員総会（会員総会）

日 時：2016年5月29日（日）14:30～16:30

会 場：BUKATSUDO

参加者：正会員：74名（うち書面表決6名、委任状43名）

第14回 通常総会

※各担当者による事業説明会を実施。

(2) 理事会

● 開催日

2016年：4月27日、5月25日、6月29日、7月27日、8月31日、9月28日、10月26日
11月30日、12月21日

2017年：1月25日、3月22日、3月29日

● 議 題： 総会企画・議案、予算・決算、事業報告・計画、横浜市支援センター事業 にしく支援センター事業、次年度組織体制、役員人事、職員の採用・給与・賞与、等

(3) 各団体・行政機関等の委員の受任

行政や社会へ提言、市民参画の拡大のため、さまざまな団体等の委員を引き受けています。

〔横浜市・健康福祉局〕

- ・ 横浜市社会福祉審議会 委員（中野）
- ・ 横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 委員（中野）
- ・ 横浜市福祉有償移動サービス運営協議会 委員（中野）
- ・ 横浜市福祉サービス第三者評価推進委員会 委員（吉原）

〔横浜市・政策局〕

- ・ 横浜市男女共同参画審議会 委員（齋藤）

〔横浜市・こども青少年局〕

- ・ 横浜市親と子のつどいの広場事業選定委員会 委員（中野）

〔横浜市・温暖化対策統括本部〕

- ・ 横浜市環境未来都市推進会議 委員（中野）

〔横浜市・各区役所〕

- ・ 横浜市青葉区福祉保健活動拠点 指定管理者選定委員会委員（中野）
- ・ 〔横浜市・各区役所〕横浜市青葉区地区センター 指定管理者選定委員会委員（中野）
- ・ 〔横浜市・各区役所〕横浜市青葉区ユートピア青葉 指定管理者選定委員会委員（中野）
- ・ 〔横浜市・各区役所〕横浜市港南区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会委員（中野）
- ・ 〔横浜市・各区役所〕瀬谷区地域福祉保健計画策定懇談会委員（中野）
- ・ 横浜市青葉区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会委員（山野上）

〔横浜市社会福祉協議会〕

- ・ 横浜市社会福祉協議会企画委員（中野）
- ・ 横浜市社会福祉協議会よこはまふれあい助成金運営委員会 委員（吉原）
- ・ 横浜市社会福祉協議会「福祉よこはま」編集委員（山野上）
- ・ 横浜市社会福祉協議会福祉ボランティア・市民活動部会 委員（関尾）

〔その他〕

- ・ かながわ福祉サービス振興会 理事（中野）
- ・ 男女共同参画公募事業 選定委員会 委員（中野）
- ・ 横浜移動サービス協議会 評議員（中野）
- ・ I D E Cコミュニティビジネス助成金 審査員（吉原）
- ・ 横浜市芸術文化振興財団ヨコハマアートサイト選考委員（松本）
- ・ かながわ協働推進協議会および、条例検討部会委員（樋山）
- ・ 横浜市こども青少年局ユースプラザ選定委員（吉原）
- ・ 綾瀬市市民活動応援補助金（きらめき補助金）選考委員会委員（吉原）
- ・ 男女共同参画センター横浜市民運営協議会 委嘱委員（井上）

〔講師等の受任〕

- ・ 横浜市新任課長・課長補佐・係長研修「協働とは」 講師（中野）
- ・ 瀬谷区地区社協研修「女のボランティア」ファシリテーター（中野）
- ・ 瀬谷区地域ケア会議 ファシリテーター（中野）
- ・ 旭区「小中学生を地域で見守るために」講師（中野）
- ・ 旭区社協「子ども達の未来のために～今わたしたちにできること～」講師（中野）
- ・ 旭区社協「子どもの見守り応援研修 ファシリテーター（中野）
- ・ 地域ケアプラザ地域交流事業事例検討会ファシリテーター（中野）
- ・ NPO 法人税理士による公益活動サポートセンター主催 NPO 法人基礎講座 講師（吉原）
- ・ 市民局地域活動推進課主催「協働研修基礎編」講師 3 回（吉原）
- ・ 富士市社会福祉協議会・地区社協連絡協議会主催 公開福祉講演会 講師（吉原）
- ・ 青葉区主催 区民施設交流会 講師・ファシリテーター（吉原）

- ・ 西区地域づくり大学校第 2 回 講師（吉原）
- ・ 神奈川区地域づくり大学校第 1 回 講師（吉原）
- ・ 横浜市市民活動支援センター主催 プロ NPO 講座第 4 回 講師（吉原）
- ・ 横浜市市民活動支援センター主催 地域支え合いフォーラムコーディネーター（吉原）
- ・ 都筑区主催 シニア☆スター養成講座 講師・ファシリテーター6 回（吉原）
- ・ 泉区市民活動支援センター主催 NPO 法人設立講座 2 回 講師（吉原）
- ・ 南区主催 施設間連携事業「まるごとみなみ」全体会講師・ファシリテーター2 回（吉原）
- ・ 神奈川県・横浜市市民活動支援センター主催パートナーシップミーティングファシリテーター（吉原）
- ・ 内閣府主催 子どもの貧困対策マッチング・フォーラム コーディネーター（吉原）
- ・ 神奈川区施設連携会議 講師・ファシリテーター2 回（吉原）
- ・ 市民局横浜市市民活動センター主催 みんなの協働フォーラム全体会Ⅱパネラー（吉原）
- ・ 金沢区主催 施設連携会議 講師・ファシリテーター（吉原）
- ・ 旭区災害ボランティアネットワーク主催 防災減災につながるまちづくり講座（吉原）
- ・ 西区施設間連携会議 講師・ファシリテーター（吉原）
- ・ 南区主催 団体発表会 ファシリテーター（吉原）
- ・ 横浜市危機管理センター主催 地域活動をすすめるためのプロセス講座 2 回（吉原）

(4)他団体の会員として

下記の団体に会員として参画しています。

- ・ 認定 NPO 法人 日本 NPO センター
- ・ NPO 法人 シーズ・市民活動を支える制度をつくる会
- ・ 日本ファンドレイジング協会
- ・ 認定 NPO 法人 市民福祉団体全国協議会
- ・ 全国老人給食協力会
- ・ 公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会
- ・ 社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会
- ・ NPO 法人税理士による公益活動サポートセンター
- ・ 神奈川県居住支援協議会

事業に関する事項

【 支援センター部門 】

■ 横浜市市民活動支援センター運営事業

(横浜市市民局市民活動支援課との協働事業)

別紙「2016（平成 28）年度横浜市市民活動支援センター事業報告書」をご覧ください。

子どもの貧困フォーラム



みんなの協働フォーラム



中間支援力アップ研修



■ にしく市民活動支援センター（にしとも広場）運営事業

(横浜市西区役所との協働事業)

別紙「2016（平成 28）年度にしく市民活動支援センター事業報告書」をご覧ください。

本から始まる出会いの場づくり



にしとも広場の外観



【 地域支援部門 】

■ よこはま食事サービス連絡会 ※赤い羽根募金助成事業

成果と課題

● 成果（経緯）

市内の食事サービスグループ同士の連携や情報共有、学びあいの場としての活動を行いました。

2000 年に始まった連絡会は、開始以来ほぼ月 1 回の開催を続けています。

毎年 2 回開催している「食事サービスを考えるつどい」、今年度は一回目にキューピー株式会社が
行っている健康講演会「おいしく食べて健康に！」を受講し、高齢期に必要な栄養や健康寿命を少し
でも長く保つために必要なことを楽しく学びました。2 回目は、関心の高い薬膳について学びながら、
旬の食材を無駄なく使い体にやさしいメニューを実際に調理しながら学びました。いずれも交流の時
間を持ち、食事サービス団体が長く活動を続けるモチベーションをあげるための情報交換や意見交換
をする場となっています。

さらに、2012 年度から地域で「食」を通してまちづくり等を行っている現場を訪問し、主催者の
話を聞き、課題や問題点を共有する新しい試みを始めました。2016 年度は、5 月に戸塚区でコミュ
ニティカフェとして根付いている「ふらっとステーションとつか」と「こまちカフェ」を訪問し、9
月には川崎市武蔵新城の「メサ・グランデ」を、2017 年 2 月には旭区希望が丘の自宅開放型のカフ
ェ「ハートフルポート」を訪問し、それぞれ代表者から成り立ちから現在、そしてこれからに向けて
の展望までお話を伺いました。

いずれも地域の中の居場所として開いているカフェはとても大きな意味を持ち、食を通じた交流の
場として活用されていました。地域の課題解決や今後の活動を継続・発展させていくためのヒントが
たくさんありました。

また、食事サービス活動も高齢者だけを対象にするものから、地域の子どもや障害者、外国につな
がる人など孤立しがちな方々を対象にした「食」を通じた地域の居場所づくりへと広がりを見せてい
ます。そのため連絡会として多くのセミナーや研修会に参加し、メンバーの皆様にその情報を届ける
ことができました。

● 課題

多くの食事サービス団体の若い担い手の不足=高齢化が問題となっています。これからますます必
要となる地域での高齢者への見守りとしての配食サービスや会食、サロン・カフェといった居場所に
「食」をキーワードに関わっていくことが、担い手自身の介護予防や生きがいとなることを広く知っ
ていただき、活動を元気にしていくために連絡会として何ができるかを考えていく必要があります。

事業の概要と実施したこと

市内の食事サービスグループ同士の連携や情報共有、学びあいの場としての活動を行いました。

1) 定例会：年間 10 回実施

2) 食事サービスを考えるつどい：2 回実施

○ キューピー講演会「おいしく食べて健康に！」

講師：キューピー講演会事務所講師：妻谷勝弘氏

(2016 年 12 月 3 日 於：横浜市杉田地区センター研修室 / 参加者：32 名)

○ 薬膳講座①「季節の食材を食べて元気になろう！」

講師：料理研究家・国際薬膳食育師 1 級：長谷川さとみ氏

(2017 年 3 月 25 日 於：JA クッキングサロン ハマッ子 / 参加者：26 名)

3) 現場訪問：3 回実施

○ 戸塚区「ふらっとステーションとつか」「こまちカフェ」

(2016 年 5 月 24 日 (火) / 参加者：4 名)

○ 川崎市武蔵新城「メサ・グランデ」(2016 年 9 月 27 日 (火) / 参加者：6 名)

○ 旭区「ハートフルポート」(2017 年 2 月 21 日 (火) / 参加者：4 名)



▲ 食事サービスを考えるつどいの様子



▲ 現場訪問

■ 認知症ケア関連事業

「認知症になっても住み慣れたまちで本人も家族も安心して暮らせるようなまちづくり」をめざして、ご本人と家族を温かく見守ることができるよう、認知症を正しく理解する場をつくるとともに、地域における居場所としての認知症カフェの取組みの推進に取り組みました。

成果と課題

【1】認知症サポーターキャラバン（横浜市健康福祉局との協働事業）

● 成果

- ・ 当事業の方向性の検討や内容の検証をするため、市内で認知症に関する取組みを実施している方々とともに、まちかどケア推進会議を4回実施しました。
- ・ 2016年度と同様に、認知症キャラバン・メイト養成研修を3回実施し、188名の新しい認知症キャラバン・メイトを養成しました。
- ・ 本年度、市内で実施された認知症サポーター養成講座は、850回、合計36,372名の認知症サポーターが養成されました。
- ・ 例年、全キャラバン・メイトに対して行ってきたフォローアップ研修を見直し、「認知症キャラバン・メイト交流会」を実施しました。

● 課題

- ・ まちかどケア推進会議の持ち方やあり方を再検討する必要があります。
- ・ より一層、認知症サポーターキャラバン事業を発展させるために、実際に活動できる認知症キャラバン・メイトを増やす必要があります。認知症キャラバン・メイト養成研修の開催方法の工夫や、認知症キャラバン・メイトが研修を受けた直後に、地域の支援者や先輩メイトとつながるきっかけづくりを検討します。

【2】認知症カフェ事業

● 成果

2015年度の認知症カフェフォーラムに引き続き、認知症カフェ実践者が集い、学び合う場として情報交換会、フォーラムを実施しました。取組みが徐々に広がるなか、互いの活動について知り合い、自らの場を振り返る機会となりました。また、これからカフェに取り組みたいと考えている方のきっかけの場となりました。

● 課題

「歩いて行ける範囲に認知症カフェがある」ためには、その取組みが広がるとともに、場が継続していくことが大切です。ゆるやかにカフェ同士が繋がりが合い、認知症の当事者本人が輝ける場について考え合う場づくりに引き続き取り組むことが課題です。

【3】認知症介護実務者向け研修

介護の専門職を対象とした研修は、昨年同様、入職後、日が浅い方を主な対象とした連続講座としました。今回は、研修初日の基調講演に、認知症介護研究・研修東京センターの中村孝一氏をお招きしました。認知症の中核症状やそれに起因する生活障害、そして「ケア」することの考え方や方法について、大変分かりやすく講義いただきました。初日に講演でしっかりと基本を理解した後、現場で活躍している講師陣による講義やグループワークで学んだ3日間は、施設での毎日のケアに直結するものとなりました。本人本位の視点をきちんと理解し、介護実務者としての軸に気づくきっかけとして、今年度も、大変有効な研修になったと思われます。

また、本研修終了後のアンケートでは、施設内利用者との関係が以前と比べて「大変よくなった」「よくなった」という回答が14名(82%)ありました。研修で学んだことがすぐに現場に生かされ効果を得ていたことがわかります。しかし、日頃の課題や成果を共有し、より良い介護を考える場として、フォローアップ研修やステップアップ研修を望む声もあり、今後は、受講者に対する継続的なフォロー方法を検討する必要があります。

【4】一般（家族）向け「認知症ケア講座」（栄区）

認知症という病気は、本人はとても不安で辛いし、家族や周囲の人間には、病気が引き起こす様々な言動や行動に、戸惑い・困惑しがちです。しかし認知症についての正しい知識や対処方法を知っていると、そうした困惑や感情が和らぎ、さらに本人に寄り添ったケアは、本人の安定・安心にも繋がります。介護専門職がもつノウハウは暮らしの中のケアにも生かせると考え、栄区高齢・障害支援課の共催を得、栄区シニアクラブ後援で実施しました。

● 成果

事前申込15名に加え、当日参加8名の計23名の参加がありました。当初想定していた50人より少ない結果となりましたが、会場のスペースの面では丁度よい人数でした。また、「家族に認知症の方がいる」受講者も半数近くいて、「これからの家族との関わり方を考える良い機会となった」「今日の話を家族と共有します」「介護者の方も休みましようと言われたのが印象的だった」「非常に助かり参考になった」などの感想が寄せられました。

● 課題

公会堂を会場とした関係で、実質2時間40分の講座となりました。区役所からの情報提供、医師による講演、介護のプロによるケーススタディ・ワークと組み入れたため、参加者同士のアイスブレイクや相談にのるなどの時間がもてませんでした。高齢の方も多く参加されることや、皆さん初対面であることに配慮し、気負わずゆったりと受講できるような工夫が必要と実感しました。

次年度は、プログラム構成そのものの検討や軽食付きとして参加者同士が気軽に話ができるような時間をつくるなど検討していきます。

事業の概要と実施したこと

【1】認知症サポーターキャラバン

横浜市との協働事業として、認知症サポーターキャラバンの横浜市の事務局を担っています。日常的には、認知症キャラバン・メイトが認知症サポーター養成講座を実施するにあたってのサポートと計画書と報告書のとりまとめを行い、3回認知症キャラバン・メイト養成研修を実施しました。また、全認知症キャラバン・メイト対象のフォローアップ研修を見直し、各区から認知症キャラバン・メイトと区役所担当職員と地域ケアプラザまたは区社会福祉協議会職員の3名が一緒に参加していただく「認知症キャラバン・メイト交流会」を実施しました。

当事業の方向性の検討や内容の検証をするため、市内で認知症に関する取り組みを実施している方々とともに、まちかどケア推進会議を4回実施しました。



<認知症キャラバン・メイト養成研修プログラム>

	第 1 回	第 2 回	第 3 回
日程	8 月 3 日（水）	8 月 30 日（火）	9 月 14 日（水）
時間	9：30～16:30	9：30～16:30	9：30～16:30
場所	横浜市市民活動支援 センターWS 広場	横浜市市民活動支援 センターWS 広場	横浜市市民活動支援 センターWS 広場
参加者	64 名	66 名	58 名

時間	内容及び講師等		
5 分	オリエンテーション ・養成研修の目的と研修内容について及び事務局挨拶		
10 分	「認知症サポーターキャラバン」とは		
15 分	DVD「認知症を知り地域をつくるキャンペーン」視聴		
60 分	講義「認知症の理解と認知症の人との接し方」		
	宮澤由美氏 汐田総合病院 医師	俵 美河氏 あさひの丘病院	古川良子氏 横浜市総合保健医療センタ ー医長
30 分	家族の体験談（公益社団法人 認知症の人と家族の会 神奈川県支部より）		
	小林裕子氏	窪倉真由美氏	石毛久子氏
60 分	休憩		
160 分	グループワーク ・こんな時、どこにつなげたらいいか考えてみよう ・講座に協力してもらえそうな機関はどこだろう ・受講者に合わせたカリキュラムをつくってみよう		
	グループホーム そまやま の里 成田則子氏	グループホーム横浜ゆう ゆう 井上義臣氏	グループホーム横浜ゆうゆ う 井上義臣氏
30 分	認知症キャラバン・メイト実践報告		
	劇団ポレポレ（磯子区） 今野久氏・東洋子氏	ロバの会（金沢区） 岡田明夫氏・工藤章氏・ 山田正之氏	南区オレンジリングの会 大塚千恵子氏・鈴木敏子氏・ 山本裕子氏
10 分	休憩		
15 分	サポーター養成講座開催の流れ		
15 分	横浜市の認知症に対する取組・相談窓口紹介		
15 分	まとめ 認知症キャラバン・メイト登録、活動の仕方について		

<認知症キャラバン・メイト交流会 実施内容>

日 時：2017年1月31日(火) 14:00～17:15

会 場：横浜市市民活動支援センター 4F WS 広場

参加者：認知症キャラバン・メイト+区役所職員+CP 包括職員・区社協職員 (合計 55 名)

そのほか、まちかどケア推進委員 9 名もオブザーバ参加

プログラム

はじめに

趣旨説明・推進委員の紹介

各区の取組紹介・自己紹介

事例紹介

●区における認知症キャラバン・メイト活動支援について

泉区高齢・障害支援課 認知症支援事業担当 深澤 美香さん

●港南区野庭エリア キャラバン・メイト活動報告

(港南区認知症キャラバン・メイト支援状況)

横浜市野庭地域ケアプラザ 地域包括支援センター 靱山 敦子さん

港南区高齢・障害支援課 認知症支援事業担当 田宮 不二野さん

●戸塚区認知症キャラバン・メイト連絡会について

戸塚区認知症キャラバン・メイト連絡会 金子 浩さん

グループワーク

「認知症キャラバン・メイトの活動を、より活発にするためにできること」

～どんな情報や仕組みが必要？それぞれの立場で何ができるかを考えよう！～

切り口① 新人メイトや現在活動していないメイトに活動してもらうためには？

切り口② 活動しているメイトが、より活動しやすくなるには？



＜まちかどケア推進会議＞

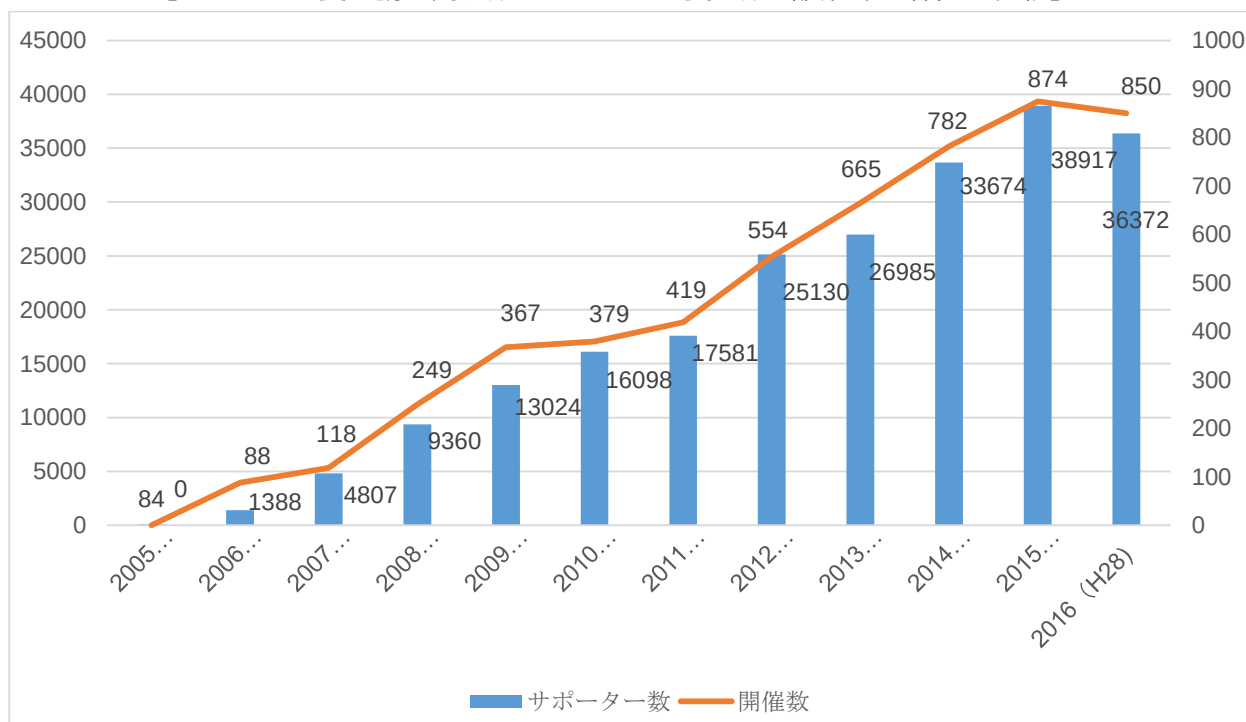
○ 推進委員

氏名	所属
小林裕子氏	(社) 認知症の人と家族の会 神奈川県支部
石井正文氏	上飯田ワイワイ仲間
河住明美子氏	旭区ひまわりの会
竹下淳子氏	西区在宅介護者のつどい あげぼの会
山中和子氏	かなざわささえ隊
井上義臣氏	グループホーム 横浜ゆうゆう(横浜高齢者グループホーム連絡会)
内田介二氏	高齢者グループホーム ことぶきの里(横浜高齢者グループホーム連絡会)
増子利子氏	グループホーム あかり(横浜高齢者グループホーム連絡会)
富田克利氏	小規模多機能型居宅介護施設 のぞみ
西迫愛氏	横浜市新子安地域ケアプラザ 地域包括支援センター
村井キヌ工氏	横浜市常盤台地域ケアプラザ 地域包括支援センター
佐藤幸子氏	横浜市日野南地域ケアプラザ 地域包括支援センター
樋口誠氏	横浜市十日市場地域ケアプラザ
相羽則子氏	中区高齢・障害支援課
関堂文代氏	中区高齢・障害支援課
小林朋子氏	磯子区社会福祉協議会

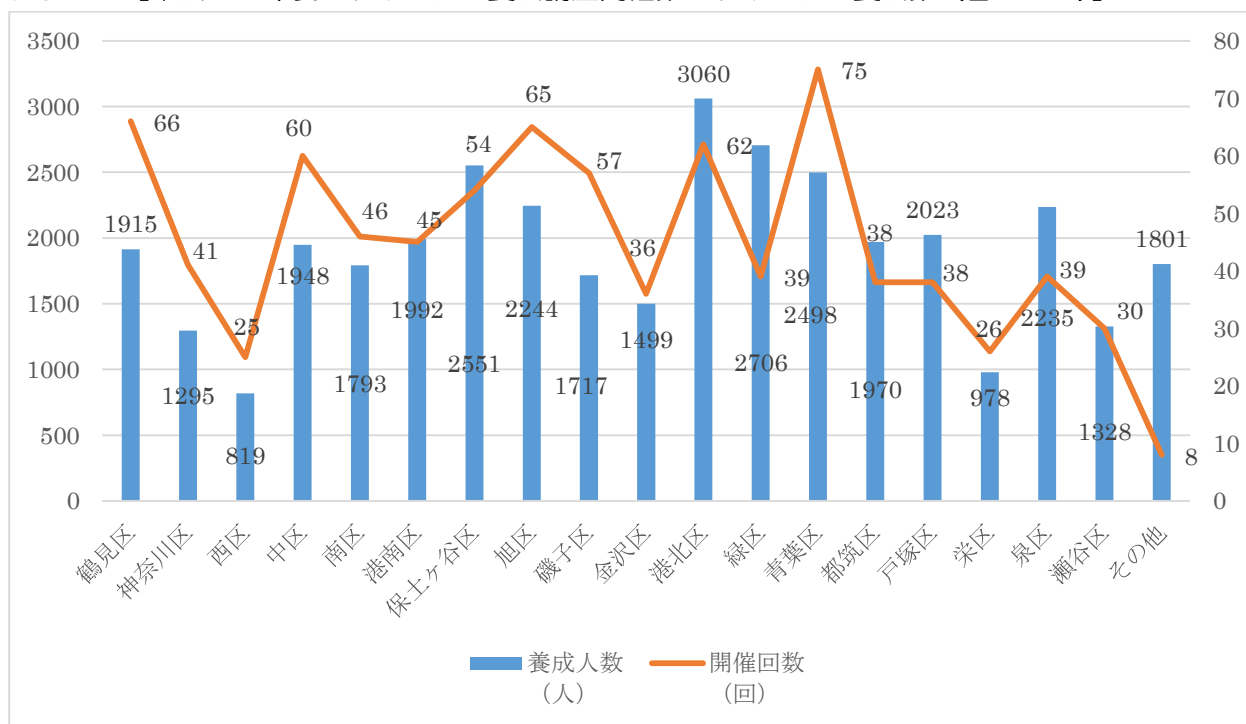
○ 実施内容

回	内容
第 1 回	2016(平成 28)年 6 月 30 日(木) 15:00~17:00 ＜検討内容＞ ○2015(平成 27)年度振り返り ○2016(平成 27)年度展望の共有(認知症キャラバン・メイト養成研修の日時・内容・対象者などの確認、その他の事業について)
第 2 回	2016(平成 28)年 10 月 7 日(金) 15:00~17:00 ＜検討内容＞ ○認知症キャラバン・メイト養成講座の報告 ○認知症キャラバン・メイト市域連絡会の検討(内容について)
第 3 回	2016(平成 28)年 12 月 13 日(火) 15:00~17:00 ＜検討内容＞ ○認知症キャラバン・メイト市域連絡会の検討 (参加メンバー構成の確認・内容・役割分担)
第 4 回	2017(平成 29)年 3 月 7 日(火) 15:00~17:00 ○認知症キャラバン・メイト市域連絡会の振り返り (アンケートの検証・感想など) ○2017(平成 29)年度事業の検討

グラフ1 【サポーター養成講座開催数とサポーター養成数（横浜市全体）の推移】



グラフ2 【平成 28 年度 サポーター養成講座開催数とサポーター養成数（各区ごと）】



【2】認知症カフェ事業

1) 横浜市内認知症カフェ情報交換会の実施

【日時】2016年9月9日（金）18:00～20:50

【会場】横浜市民活動支援センターワークショップ広場

【参加者数】32名（23カフェ）

【内容】各カフェの活動紹介、お悩み解決シートを使ったワークショップ



2) 「認知症カフェフォーラムもっともっとⅡ」の実施

昨年度のフォーラムと9月の情報交換会をうけ、認知症カフェの取り組みがさらに横浜で広がっていくことを願い、認知症ご本人の声を聞き、横浜市内の4つのカフェによる報告から学び合うフォーラムを開催しました。

【日時】2017年3月17日（金）10:00～16:00

【会場】横浜情報文化センターホール

【参加者数】157名（登壇者・運営スタッフ含む）

【プログラム】

講演1 『あらためて認知症カフェとは何か？基本と運営のアイディア』

矢吹 知之 氏（認知症介護研究・研修仙台センター・東北福祉大学）

講演2 『認知症になった私達から伝えたい事』

生川 幹雄 氏、松本 礼子 氏（認知症とともに歩む人・本人会議）

実践報告1 『居場所を作りたい！夢の駄菓子屋&認知症カフェ！』

小島 華子 氏、泉 今日子 氏「鶴見区・いちばいきいきサロン」

実践報告2 『若年性認知症カフェ 当事者夫婦と異業種友人たちが発起人』

杉本 欣哉 氏、杉本 智穂 氏（神奈川区・あみけるひろば横浜）

実践報告3『都筑区内初の認知症カフェ発展と地域への広がり』

佐藤 寛 氏（荏田南ほほえみ交流カフェ）

実践報告4『子育て支援のコミュニティカフェから多世代交流のカフェへ』

山崎 雅子 氏（戸塚区・NPO法人こまちぶらす）

コーディネーター：鈴木 智香子 氏（NPO 法人街カフェ大倉山ミエル）



3)「市民まちづくり応援ファンド」による助成

前年度の寄付金より拠出した「市民まちづくり応援ファンド」のうち、用途を指定されていないものを、「ひばり会（下和泉住宅自治会）」に助成しました。

【3】認知症ケア実務者向け研修

「認知症ケアの基本 ～日々のもやもや、これで解決！～」(全3回講座)

(2016年8月31日、9月16日、10月5日)

第1回 基調講演「その人を中心にした認知症ケアとは」 中村 考一 氏

(認知症介護研究・研修東京センター研修企画主幹)

○認知症ケアの基本 ～人と接するということ～

第2回 ○本人本位の考え方 ～5つの視点～

○本人本位が見える化する ～視点を確認できるツール～

○自分の課題を振り返る ～現場での自分を客観視～

第3回 ○課題解決に向けて ～ケース検討と思考の転換の実践～

○認知症ケアの基本+α ～認知症ケアに必要な知識・技能～

○本人&家族に寄り添い支える力 ～絆を大切に～

＜メイン講師＞

・ 井上義臣 氏 高齢者グループホーム横浜ゆうゆう

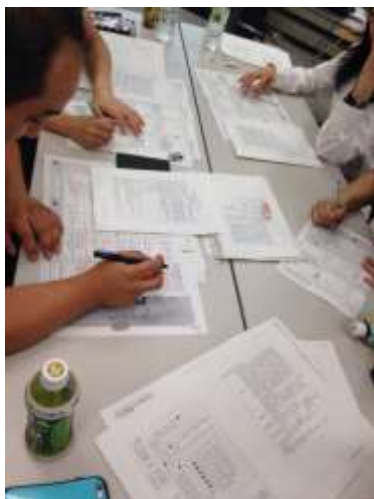
＜スーパーバイザー＞

・ 富田 克利 氏 看護小規模多機能施設ゆい青葉

・ 中澤 美如 氏 グループホームあいおい

・ 長本 節子 氏 高齢者グループホーム横浜はつらつ くらき

・ 村井 キヌエ 氏 常盤台地域ケアプラザ



【4】一般（家族）向け「認知症ケア講座」（栄区）

「認知症本人により添う暮らしの中のケア～住み慣れた地域で暮らし続けるために～」
 病気としての認知症を正しく理解し、介護現場のプロから対応の仕方を学びましょう

実施日時：2017年3月7日（火） 9：10～11:50

会場栄区公会堂 第一会議室

内容：1）地域からの情報発信 「地域で支える認知症」

- ・地域包括ケアシステムの説明／栄区高齢・障害支援課
- ・地域での事例紹介

2）長谷川 洋 先生 講演 「認知症という病気を正しく理解する」

3）講義&ワーク・ケーススタディ「暮らしの中の本人に寄り添ったケアを考える」

メイン講師 横浜ゆうゆう施設長 井上 義臣 氏

サポート講師 シェフズデイサービス青空 村上 美佳 氏

// グループホームあいおい 中澤 美如 氏

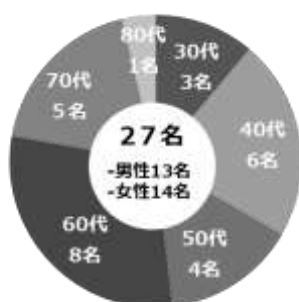
■ 第5期 泉区まちづくりみらい塾（横浜市泉区役所との協働事業）

自分の住む地域の困りごとを「何とかしたい！」と思っている方（自治会・町内会の役員、地域活動の担い手、地域活動に興味関心のある方）のための半年間の研修プログラムである本事業は、今年が5年目となります。泉区まちづくりみらい塾は、地域課題に取り組んでいる自治会・町内会の事例見学や講座・グループワークを通して学び合い、地域のさまざまな問題を協力し合いながら解決していく「自治の力」を身につけるためのカリキュラムを実施しました。

成果と課題

● 成果（経緯）

■ 定員 25 名のところに 27 名の応募がありました。（男性：13 女性：14 名）



・ 現場に即した学び合い

自治会・町内会、NPO、行政など、多様なメンバーによる人材のネットワークを活かして、テーマ毎に適切な講師をお呼びし、講座を開催する事ができました。

・ 講座前にタイムスケジュールや役割分担の確認のための詳細な打ち合わせを行い、全体的な流れの共通認識、役割認識ができており、そのため当日も状況に合わせて柔軟に対応できました。

- ・ 実践者が多かったためか、受講者同士の相互アドバイスが有効だったという意見が学びのまとめで多くみられました。
- ・ マイブランの発表や、最終講のアンケートにおいて、自らのまちは自分たちで良くしていくという住民主体の考え方が多くの受講生に浸透したことが確認でき、講座のねらいが達成できました。

学びのまとめシートより全体の感想

- ・ ジュピのえんがわ、さくら茶屋にししばさんに伺って、ボランティアさんが楽しそうに活動されているのが印象的でした。運営されている方々の気持ちが伝わっているんでしょうね。
- ・ いざ災害が起きた時、誰が地域を支えるのか、阿久和の見守り活動をみて参考になりました。防災だけでなく、必要なのは日頃のコミュニケーション。とても大切な視点に気づかされました。まさに住民自治の取り組み、参考にさせていただきたいです。
- ・ 活動されている方々の楽しそうな笑顔にはまいりました。同じボランティアでも、町内会の役員とはまったく違うので、何か共通するものはないかと考えさせられました。

● 課題

- ・ 講座終了後、現場と具体的につながっていない受講生を地域での活動にどのようにつなげていくかについてはまだ見いだせていないところがあります。

第1講

「地域づくりの5つの手順」を学ぶ

日時： 2016年8月27日（土） 10:00 ～ 15:00

場所： 泉区役所4階会議室

＜プログラム＞

- 開校式
- 講義「ドボク的なまちのみかた」
・・・下村 直 泉区長
- 講義「地域づくりの5つの手順」
・・・佐久間 幹雄 泉区まちづくりみらい塾塾長
- ランチ交流会
- グループワーク～課題共有ワーク～
オリエンテーション（まち歩きに向けた準備）



第2講

まちづくり初めの一歩「区内方面別まち歩き/マップづくり」

日時： 2016年9月10日（土） 10:00 ～ 15:00

場所： A 新緑園・新橋・岡津コース B いずみ中央・本郷コース
C 下和泉住宅・下和泉コース D 中田・白百合コース

＜プログラム＞

- 泉区の歴史・魅力再発見
講師：松本敏氏（泉区歴史の会 前会長）
- まちの歩き方レクチャー
講師：内海宏氏（まちづくりコーディネーター）
- いざ、まち歩きへ出発！ ～まち歩き スタート！～
- グループワーク



第3講

現地見学会 Part1 ～小さな力を寄せ合って～

日時： 2016年10月15日（土） 10:00 ～ 15:00

会場： 横浜市泉区社会福祉協議会 多目的研修室 ほか

＜プログラム＞

- 第2講 区内方面別まち歩きの報告
- 活動実践者からの報告
「せやキッズ愛護会の設立経緯、経過」
・・・井上 八寿子 氏（元公園愛護会コーディネーター）
- 「サロンおあしす」の会場見学・活動紹介
・・・横内 菊代 氏（富士見が丘地区、みらい塾第1・2期生）
- 「だんだんの樹」の会場見学・活動紹介
・・・服部 恵津子 氏（みらい塾第3期生）
- 「いこいの家」の会場見学・活動紹介
・・・村山 節子 氏（和泉中央地区）



第4講

現地見学会 Part 2

～阿久和北部地区コース・ジュピのえんがわ・さくら茶屋コース～

日時： 2016 年 11 月 26 日（土） 10：00 ～ 15:00

プログラム：

■ジュピのえんがわ・さくら茶屋コース

～気軽な居場所づくり・認知症カフェの取組み～

高橋 秀子 氏（ジュピのえんがわ代表）

阿部 茂男 氏（NPO 法人さくら茶屋にししば 事務局長）

■阿久和北部地区コース

～見守り・減災・担い手 阿久和北部地区の取組み～

清水靖枝 氏（瀬谷区阿久和北部地区社会福祉協議会会長）



第5講

地域課題解決を学び、私のまちの『マイプラン』を描く

日時： 2017 年 1 月 21 日（土） 9：30 ～ 14：30

<プログラム>

- 地域の課題解決の方法
佐久間 幹雄 氏
- まちづくりに関する支援制度について
- マイプラン作成（個人ワーク）
- 各班で発表
- ブラッシュアップ（個人修正ワーク）
- 総評



第6講

夢プラン発表会&まちづくりトークライブ

日時：2017 年 2 月 12 日（日） 9：30 ～ 12：30

<プログラム>

- マイプラン全員発表（各4分）
- 卒業式（修了証・皆勤賞授与等）
- 卒業生代表あいさつ
- はなむけの言葉
- 懇親会



■ 第5期 西区地域づくり大学校 （横浜市西区役所との協働事業）

第5期西区地域づくり大学校は、昨年度のアナケート結果で、多世代交流への関心が高かったこと、また、日頃より身近な地域でつながる必要性が高まっていることを背景に、「いろんな居場所のつくり方」をテーマとしました。各講義では、地域での居場所づくりの実現に向けた実践的な学びの場として、講座・グループワーク・現地見学会等、居場所について自分の思いを問い直すところから、実行プランの作成まで活動への一歩をサポートしました。また、昨年に引き続き、区政推進課との協働で開催しました。

講師には 26 年間子どもの居場所・あそび場づくりの活動に携わっている、NPO 法人れんげ舎代表の長田英史さんをお招きしました。

成果と課題



■受講生の属性

定員 15 名のところ 21 名の応募がありました。今年度は、受講生同士のつながりや、受講後のフォローアップ体制を密にするため、17 名の少人数開催としました。

●成果

卒業式終了後にアンケートのアンケートでは、講座の平均点は 93.77 点となりました。受講後の感想では「講座に参加したことで、想いは形にできる事を知り、自信につながった」「仲間に恵まれた」という声がありました（回答数：13 名）

また、どのように講座を活かせそうか、という問いでは、「今まで自分の中で沸々としていた想いが実現できるかもしれないという実感に変わった」などの声がありました。

学びのまとめより、各講座の感想

- ・（第3講：見学）ショックでした。今まで自分がやってきたことは何だったんだろう？と思いました。どうして人が来ないんだろう、どんなイベントをやればいいだろう…そればかり考えていました。「場」「居場所」をつくるという観念ではありませんでした。
- ・（第5講：プラン作成）みなさんからいろいろご意見をいただき、参考となる点が多かった。自分一人だけではここまでたどり着くこともできなかったように思う。地域づくり大学校に入らせていただいて、本当に良かったです。次で最終回となってしまうのが残念です。

●課題

講座の中では、プラン作成までとなっており、受講生の中には、「どうにか一歩踏み出して勉強会をスタートした。今後どうやってネットワークを広げていくか課題が山積み」という声もありました。講座後には、区とのサポート体制強化のため、プラン一覧をリーダー会議（課を横断する会議）にて共有を行いました。今後のサポート体制の強化について、さらに検討を進めていきます。

第1講

どんな「居場所」をつくりたい？

日時：2016年9月3日（土）13：00～17：00

講師：長田 英史 氏（NPO 法人れんげ舎代表）

＜プログラム＞

- 講義「居場所ってなんだろう？」
- ワーク①自己紹介タイム、②思いの棚卸
- 生きているうちにやりたいこと 100
- ガイダンス

長田氏より、居場所づくりの基礎となる考え方が共有されました。また、ワークでは、参加者同士の意外な共通点等の発見があり、それぞれが深く知り合うきっかけとなったほか、自分の思いを再確認する機会になりました。



第2講

地域でつくる、居場所のいろいろ

日時：2016年10月8日（土）10:00 ～ 16：00

講師：吉原 明香

＜プログラム＞

- 講義「自分の体験、身近なつながりの場をふりかえる」
- ワーク「自分のこれまでをふりかえる」
- 第3講の見学先紹介＆希望票記入

過去と未来の自分（私・活動・大事にしていたことや考え方・社会的なトピック）について書き出し、それを基に少人数のグループ内などで共有しました。聞いてもらうことの大切さと共に、これまでを踏まえた今の気持ちを認識する機会となりました。



第3講

実践者に聞く！運営のキモ

日時：各見学先により実施

（5カ所から選択をして訪問）

＜プログラム＞

- ① 紅梅気楽カフェ（西区）
- ② Café ハートフル・ポート（旭区）
- ③ 朝市サロン・野外サロン（南区）
- ④ さかみち文庫（南区）
- ⑤ 芝の家（東京都港区）
- ⑥ 藍染子ども広場（東京都文京区）

自分の作りたい居場所に近い見学先を5カ所から最大2つ選択し、見学に行きました。少人数での見学により、活発な質問が飛び交い、参加者や協力者の集め方、資金や打ち合わせの仕方、大切にしている考えなど、実践に結びつく具体的なノウハウを知る機会となりました。



第4講

これからどうする？活動のステップ

日時：2016年12月10日（土）10:00～16:00

講師：長田 英史 氏（NPO 法人れんげ舎代表）

プログラム：

- ワーク「見学先での体験を共有しよう！」
- 講義「どんな組織で活動していく？」
「コミュニケーションとしての会議のやり方」



長田氏より個人と組織の違い、組織のカチ（トップダウン型/フラット型）を決める重要性等について説明がありました。後半の会議のやりかたでは、具体的な例を挙げて説明があり、参加者からは同意の声が起きるなど、積極的な反応がありました。

第5講

実行プラン応援します

日時：2017年1月14日（土）13:00～17:00

講師：三木 渉 氏（西区社会福祉協議会事務局次長）

吉原 明香

＜プログラム＞

- 講義「実行プランの活かし方」
- 助成金情報ほか
- 実行プラン作成・グループで共有



これまでの学びを振り返り、「実行プラン」を①長期プランと、②トライアルプランの2種類作成しました。講座での学びを活かし、一歩でも具体的に行動に起こす事の重要性を共有しました。その後、グループでプランを発表し合い、良かった点やアドバイス等の意見を提供し合い、地域の視点やターゲットの絞り込み等様々な意見が出されました。

第6講

実行プランの発表&修了式

日時：2017年2月13日（土）14:00～17:00

＜プログラム＞

- 実行プラン発表会
- 修了式
- 講座を振り返っての感想共有

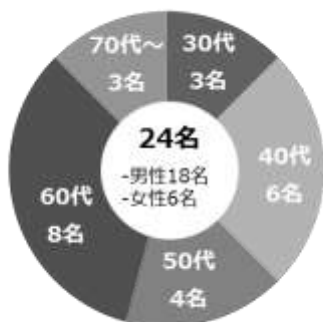


1人ずつ実行プランを発表し、長田氏（ビデオレター）及び吉原氏から個別にコメントやアドバイスを受けました。全体へのコメントでは、集客数でなく、その場をきちんと作ることに注視すること、お金は必ず予算書をつくり、具体的に額を出すことなど、具体的なアドバイスがありました。

■ 第 2 期神奈川区地域づくり大学校（横浜市神奈川区役所等との協働事業）

自治会町内会等の地域組織で活動しており、地域で今後活動の中心となっていく方たちを対象として、神奈川区区政推進課と神奈川区連合町内会自治会連絡協議会との三者協働（協力：神奈川区社会福祉協議会）で開催しました。

成果と課題



● 成果（経緯）

参加者：34 名 市民 24 名（うち、自治会町内会推薦 20 名）
行政職員 10 名（区長及び区政推進課・地域振興課・生活衛生課職員）
卒業生：24 名（卒業要件：夢プランの提出）
※うち皆勤賞 8 名（全回出席 + 第 1～4 講の学びのまとめシート提出 + 夢プランの提出）

- ・ 第 1 期のふりかえりを踏まえて、プログラムの内容や構成を変更しました。区内の身近な取組みを知ることで（第 3 講・第 4 講）、自分たちも工夫次第で色々と活動が始められるという実感を持ってました。
- ・ メインターゲットである、今後、地域活動の中心を担っていく世代の方たちの参加が約半数あり、それらの方たちが、区社協（第 1 講）や地域ケアプラザ（第 3 講）の取組みを知ることができたり、自治会町内会長との接点ができました（第 6 講）。
- ・ 受講生の中には、店舗や空家等、独自の資源やネットワークを持つ方がおり、自治会町内会活動に関わる他の受講生や、第 1 期卒業生とのつながりができたことで、より地域に根差した活動に展開していくきっかけをつくることができました。

学びのまとめシートより全体の感想

- ・ 地域の中でお話や接点がなかった方々と交流することができ、知らなかったことやアドバイスをたくさんいただきました。全体を通して、最初に考えていた夢プランがどんどん現実的なプランへ変更になりました。可能性が地域づくり大学校で広がりました。
- ・ 2～3 名の小規模で開始することができ、子どもを対象にして、お父様方の協力を得られる事業を行うのがポイントと理解しました。（全体を通じては）自治会とサロン見学が大変参考になり、特に西柴団地自治会で、小グループに分かれ、西柴の役員の方と直接質疑応答できたので、活動の実態がよくわかりました。

● 課題

- ・ 先行事例を訪問するタイミングや訪問先（若手を主体として自治会町内会活動など）の選定など、全体プログラムにおける改善点が見えてきました。また、夢プランの作成を最終目標であることを受講生としっかり共有しながら、カリキュラム自体もプラン作成に沿った形で構成していくことも検討課題として挙がっています。

第1講

「地域づくりの5つの手順」を学ぶ

日時： 2016年9月25日（日） 9:30 ～ 13:30

＜プログラム＞

- 開校式・オリエンテーション
- 講義「神奈川区の地域づくりに向けて」
…富井 亨 事務局長（神奈川区社会福祉協議会）
- 講義「地域づくりの5つの手順」
…吉原 明香
- ランチ交流会
- グループワーク～今、気になる地域のことを出し合ってみよう～



第2講

地域づくりの現場①～人が集う地域活動の事例から学ぶ

日時： 2016年10月30日（日） 9:30 ～ 16:00

会場：西柴団地自治会／さくら茶屋にししば

＜プログラム＞

- 活動紹介：西柴団地自治会の取組みについて
テーマ①自治会紹介／自治会館の利用状況／事務局運について … 森本 豊 会長
テーマ②自治会による防災活動について
… 小櫃 副会長 会長
テーマ③西柴団地福祉サービスの活動について
…成澤 利江（西柴団地福祉サービス協会前会長）
※活動紹介後、各テーマごとに分かれて、質疑応答
- 活動紹介：さくら茶屋にししばの取組について
…岡本 滙子 理事長、阿部 茂男 事務局長



第3講

～地域づくりの現場②～野菜をきっかけにしたい地域交流から活動のヒントを得る

日時： 2016年11月27日（日） 9:30 ～ 15:30

会場：子安台地域ケアプラザ／子安台第二公園

＜プログラム＞

- 活動見学：青空サロン・野菜マーケット@子安台第二公園
- 活動紹介：かなっぱ畑の会
…山田 牧美 会長（かなっぱ畑の会）
- サロン「アーデル」の会場見学・活動紹介



・・・山田 齊 会長（新子安北部自治会）

- お話「新子安自治会の取組について」

・・・秋馬 正弘 会長（子安台自治会）

- グループワーク・質問タイム ※終了後、懇親会を開催



第4講

自分たちの手で始めるまちづくり

日時： 2016 年 12 月 11 日（日） 9：30 ～ 12:30

プログラム：

- 活動紹介：さくらサロンの取組について
・・・岐部 文明 会長（羽沢地区自治連合会）
- 第1期神奈川区地域づくり大学校卒業生による活動発表
「町内をガラガラポン」・・・斉藤 隆 さん
「ちょっとよってみ亭」・・・黄 淳子 さん
「東神奈川公園を使った月例イベント
地域住民と一緒に『何か』やりましょう」
・・・ 中川 晋一 さん
- 講義「夢プランづくりに向けて」
・・・山路 清貴 さん（横浜市まちづくりコーディネーター）
- ワーク：夢プランシートを作ってみよう



第5講

自分の地域で実現したい「夢プラン」作り

日時： 2017 年 1 月 15 日（土） 9：30 ～ 12：30

<プログラム>

- 導入～夢プランシート作成に向けて～
- 作業：夢プランシートの記入
- グループ内発表&アイデア交換



第6講

夢プラン発表会&まちづくりトークライブ

日時： 2017 年 2 月 12 日（日） 9：30 ～ 12：30

<プログラム>

- 夢プラン発表会（全員発表：24名）
- 卒業式（修了証・皆勤賞授与等）



■ ヨコハマ市民まち普請事業

（横浜市都市整備局地域まちづくり課、横浜市指定 NPO 法人アクションポート横浜との協働事業）

三者協働によるヨコハマ市民まち普請事業の事務局運営を行いました。

成果と課題

● 成果（経緯）

横浜市指定 NPO 法人アクションポート横浜、横浜市都市整備局地域まちづくり課との三者による協働運営は 8 年目に入りました。とくに、事業の周知では、横浜市市民活動支援センターを管理運営している立場から、区の市民活動支援センター職員が集う研修の場で、事業紹介の機会をつくりました。

● 課題

まち普請事業では、2015 年度から企業マッチングの取り組みが始まり、企業との連携を通じて成果を上げる整備箇所も見られるなど、市内におけるまちづくりの実践が積みあがってきました。今後も、市民主体のまちづくりにつながる制度として、多くの市民がチャレンジできるよう、事業の周知方法や、コンテストの実施方法等について検討を続けていくことが課題です。

事業の概要と実施したこと

「私たちのまちを、私たちがつくる！」そんな思いをカタチにするための地域協働のきっかけづくりとなる事業です。身近なまちのハード整備に関する提案を募集し、2 回の公開コンテストで選考された提案に対して最高 500 万円の整備助成金が交付されます。

今年度、当法人では、主に、コンテストの運営補助（記録、設営・備品）および広報を行いました。

◆ 公開 1 次コンテスト

【日時】2016 年 7 月 2 日（土） 【会場】西地区センター体育室

14 グループからの提案のうち、6 グループが 2 次コンテスト対象提案として選考されました。

◆ 公開 2 次コンテスト

【日時】2017 年 1 月 29 日（日） 【会場】横浜市市民活動支援センター 4 階

公開コンテストの結果、以下の 3 提案が整備助成対象提案として決定しました。

提案名	グループ名
【戸塚区】 地域のインテリジェンス「ぷらっと谷矢部」づくり	谷矢部池公園愛護会
【港北区】 太陽とコミュニティで耕すもろおかエコステーション	熊野の森もろおかスタイル
【保土ヶ谷区】 上星川の「ひと」「まち」「こと」のふれあい広場	FM 上星川

※ コンテスト業務のほか、まち普請事業部会や関連イベント（活動懇談会／企業マッチング会、H27 整備成果報告会／市民向けバスツアー／まちづくりびと全員集合）に参加しました。

◆まち普請事業に関する広報の取組み

制度やコンテストをはじめとする関連事業の広報として、以下の取組みを行いました。

○横浜市市民活動支援センターにおける事業を通じた広報

- ・ 区版支援センター職員新任者研修：まち普請事業の制度紹介（地域まちづくり課より）
- ・ 第5回ネットワーク会議：まちづくりびと全員集合のチラシ配付
- ・ NPO 法人知っとクセミナー：まちづくりびと全員集合
- ・ メールマガジン「アニマートピコ」：各イベント・応募案内
- ・ アニマート 20 号：まち普請事業の制度紹介
- ・ みんなの協働フォーラム：情報コーナーの設置

○法人事業を通じた広報

- ・ 西区地域づくり大学校：まちづくりびと全員集合のチラシ配付
- ・ 神奈川区地域づくり大学校：まち普請事業の制度紹介・市民向けバスツアーチラシ
- ・ 泉区地域づくり大学校：2 次コンテストおよび関連事業のチラシ配付
- ・ 認知症カフェフォーラム：まちづくりびと全員集合のチラシ配付

■ 第三者評価事業

● 福祉サービス第三者評価事業・指定管理者第三者評価事業

● 障がい者保養施設宿泊モニタリング

成果と課題

● 成果（経緯）

今年度は、障害者通所施設2件・GH2件（1法人）、療育センター5件、保育分野も16件実施しました。第三者評価事業を法人事業の柱の一つとし、事務局体制を厚くして臨んだ結果、合計25件実施することができました。

指定管理者第三者評価では、残念ながら依頼がなく実施にいたりませんでした。

● 課題

今年度は、療育センターが5年に一度の受診の年であったことや、1法人で複数の依頼を受けたことから障がい分野での実績が多くありました。しかし、横浜市では、障がい分野や高齢分野での実施がいまだ少ないのが現状です。福祉サービスの中でも保育に目が行きがちな横浜市の昨今にあって、サービスの質の向上のために障がいや高齢施設で第三者評価を実施してもらうために、どのようにニーズを掘り起こすか、引き続き検討課題と考えます。

また、第三者評価を実施する調査員の質を維持・向上するには、正当な調査員報酬が必要と考えます。当法人では毎年報酬額を見直してきましたが、今後も調査員の高度な実力にみあう適正報酬を考えていく必要があります。

事業の概要と実施したこと

<福祉サービス第三者評価事業・指定管理者第三者評価事業>

福祉サービスの質の向上のために、横浜市の評価基準を使用して福祉施設の評価を行いました。評価の結果は公表するとともに、事業者（施設）との対話の中から、次のステップへの「気づき」が生まれることを目指しました。

【評価完了案件（順不同）】

分野	施設名	運営主体
保育	小山保育園	社会福祉法人やまゆり会
	やまゆり中山保育園	
	ハガツ新横浜保育園	
	ハガツ夜間保育園	
	横浜すきっぷ保育園	(株)俊英館
	金沢ふたば保育園	社会福祉法人黎明会
	ハネッ市ヶ尾駅前保育園	(株)ベネッセスタイルケア
	ハネッ日吉保育園	
	わかくさ保育園	社会福祉法人恩寵財団済生会

	ムーミン保育園	NPO 法人ムーミンの会
	あそびの杜保育園	
	あっぱるきっずつるがみね	社会福祉法人東京愛成会
	ひびき保育園	社会福祉法人そだちの杜
	ナーサリーつづき	社会福祉法人和泉福祉会
	オハナ上永谷保育園	社会福祉法人葵友会
	屏風ヶ浦保育園	社会福祉法人神奈川県社会福祉事業団
障がい	通所えみ	社会福祉法人恵和
	GHやわらぎ	
	通所やまぼうし	
	GHめぐみ	
	地域療育センターあおば	社会福祉法人十愛療育会
	港南地域療育センター	社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団
	戸塚地域療育センター	
	北部地域療育センター	
	西部地域療育センター	

※指定管理者第三者評価は、今年度は実施なし。

<障がい者保養施設宿泊モニタリング>

障がいのある方にとって、生活の質（ＱＯＬ）の向上を図る上で、「障がいのある方とその家族が安心してご利用いただけるくつろぎの空間」（パンフレット・HP より）である当該施設の存在は、地域社会の貴重な社会資源です。当該施設には、宿泊施設としての機能のほか、研修やレクリエーションなどを行う設備もあり、障がい者及び障がい教育・障がい福祉等の関係機関への周知が行き届き活用への意識が広がることは、施設の社会資源としての価値がより向上すると思われます。

昨年に引き続き、横浜移動サービス協議会にモニタリング調査を依頼し、障害ある方が、お一人で、またはヘルパー同行で２回に分けて実施されました。また今年度初めての取組として、当事者の方による職員研修を実施しました。職員の方お一人お一人がよかれと思ってやっていたことが、実は当事者の方には好ましくなかったり、施設内の整備が実は当事者の方には邪魔になっていたりと、職員の方それぞれに発見がありました。障がいの方とひとくくりに考えず、障がいの種類や程度にあわせた対応をするためには、何より、直接のコミュニケーションが大事であると実感した研修となりました。

また、より地域社会に貢献できる施設として、障がいのある方と一般の方が親しめる企画（例えば施設祭り）を施設と共に考えてほしいと要望を受けていましたが、残念ながら実施に至りませんでした。次年度も、モニタリング調査や研修とともに、社会資源としての施設活用に協力していきます。

■ クロスセクター事業

NPO・企業・行政がお互いに垣根を越えて、ともに取組むことで、社会課題の解決や新しい価値の創造を目指します。2016 年度は、NPO・企業・大学等による社会貢献活動や協働事業の事例訪問（バスツアー）を通じて、互いに学び合うスタディツアーを実施しました。

成果と課題

スタディツアー（企業・NPO 編） ※神奈川県 NPO 協働推進課との協働事業

神奈川県が実施しているパートナーシップ支援事業の一環として実施された事業、バスツアー形式で、地域・社会貢献活動に取り組む企業、企業や大学との協働事業に取り組む NPO を訪問しました。

● 成果（経緯）

訪問した 2 つのプロジェクトより、飲食店を中心とするチャリティイベントや、協働による空き家活用やリビングラボなど、仕組みやそのプロセスから学ぶことが多くありました。また、ランチ交流会やバス移動する間を通じて、参加者同士の深いコミュニケーションが生まれ、今後につながる出会いのきっかけや、学び合いの機会になりました。

※詳細な実施内容や、参加者の声は、神奈川県ホームページからご覧いただけます。

URL : <http://www.pref.kanagawa.jp/uploaded/attachment/873868.pdf>

● 課題

今後は、事業の成果を明確にしていくとともに、パートナーシップ支援事業として実施している他の事業（パートナーシップミーティング等）との連動を図り、支援事業を通じて NPO・企業・大学による協働を推進していくことが課題となります。

事業の概要と実施したこと

スタディツアー（企業・NPO 編）

日時：2017 年 2 月 5 日（日）9：00～16：00

訪問先：＜プロジェクト 1＞熊本復興支援 湘南イートチャリティ
＜プロジェクト 2＞長寿社会に向けたまちづくりプロジェクト

参加者：17 名（市民活動団体 9 名、企業関係者 2 名、行政 4 名、その他 2 名）

内容：本ツアーでは、以下の 2 つのプロジェクトについて、現地訪問を行いました。

＜プロジェクト 1：食べるでつながる笑顔『熊本復興支援 湘南イートチャリティ』＞

会場：Dolce far niente（チャリティ参加店舗）

内容：

○プロジェクト概要

○プロジェクトに参加した毛利さん・緒方さんへのインタビュー／質疑応答

毛利 健 さん（株式会社メルカード・ポルトガル代表）

緒方 雄正 さん（Dolce far niente 店主）

○ランチ交流会

<プロジェクト2：いつまでも住み続けたい 長寿社会のまちづくりプロジェクト>

会場：いずみサロン（空き家活用により生まれた鎌倉市今泉台のサロン）

内容：

○プロジェクト紹介

「長寿社会のまちづくりプロジェクトの概要と今泉台町内会紹介」

田島 幸子 さん（今泉台町内会会長）

「地域まちづくりと空き家活用の実践研究」

大原 一興 さん（横浜国立大学大学院教授）

「今泉台における企業としての取り組み」

木戸 誉 さん（株式会社 LIXIL 渉外部）

「NPO活動紹介と空き家の調査・活用事例」

丸尾 恒雄 さん（NPO 法人タウンサポート鎌倉今泉台理事長）

○質疑応答

○まち歩き

- ・今泉台町内会館（無線等、充実した防災機器を備えています。）
- ・みらいずみ工房（株式会社 LIXIL が空き家を改修して開設したマーケットリサーチ拠点）
- ・6 丁目クラブ（一軒家を整備して運営しているコミュニティカフェ）

■ その他

● 特定非営利活動法人横浜市小規模多機能居宅介護事業者連絡会の事業事務局代行

特定非営利活動法人横浜市小規模多機能居宅介護事業者連絡会は、横浜市内の小規模多機能居宅介護事業者の連絡連携ならびにその職員の資質の向上に資する事業をおこなっています。しかし、法人のメンバーが皆、各々の事業所に属しているため、NPO法人の事務局としての業務は、活動時間の捻出や作業場所の確保などの点から、スムーズな運営がしにくい状況にありました。今年度、理事長より依頼があり、事業運営事務局の一部を受託しました。

成果と課題

● 成果

前年度に作成されていた連絡会のホームページをアップしたり、セミナーの申込み受付の仕組みを整えるなど、連絡会の役員と連携して運営することができました。

● 課題

連絡会の正会員の状況確認や次年度に向けての更新が不十分です。次年度は、事業運営に加え、正会員の管理も担うことを検討します。

事業の概要と実施したこと

○ 連絡会

年5回の開催に関し、会場予約、参加申込受付、参加者名簿作成などを実施しました。

○ 横浜市委託事業のセミナー

年5回の開催に関し、会場予約、セミナー案内チラシの作成、参加申込受付、参加者名簿作成、セミナー使用資料の印刷等準備などを実施しました。

○ ホームページ更新作業

連絡会やセミナーの開催日程・内容等について、ホームページを都度更新。更新に当たっては、役員と内容確認しながら進めました。

資料編

(1) 会員数の推移

	99	00	01	02	03	04	05	06	07	08
合計	136	141	125	176	145	184	195	216	204	192

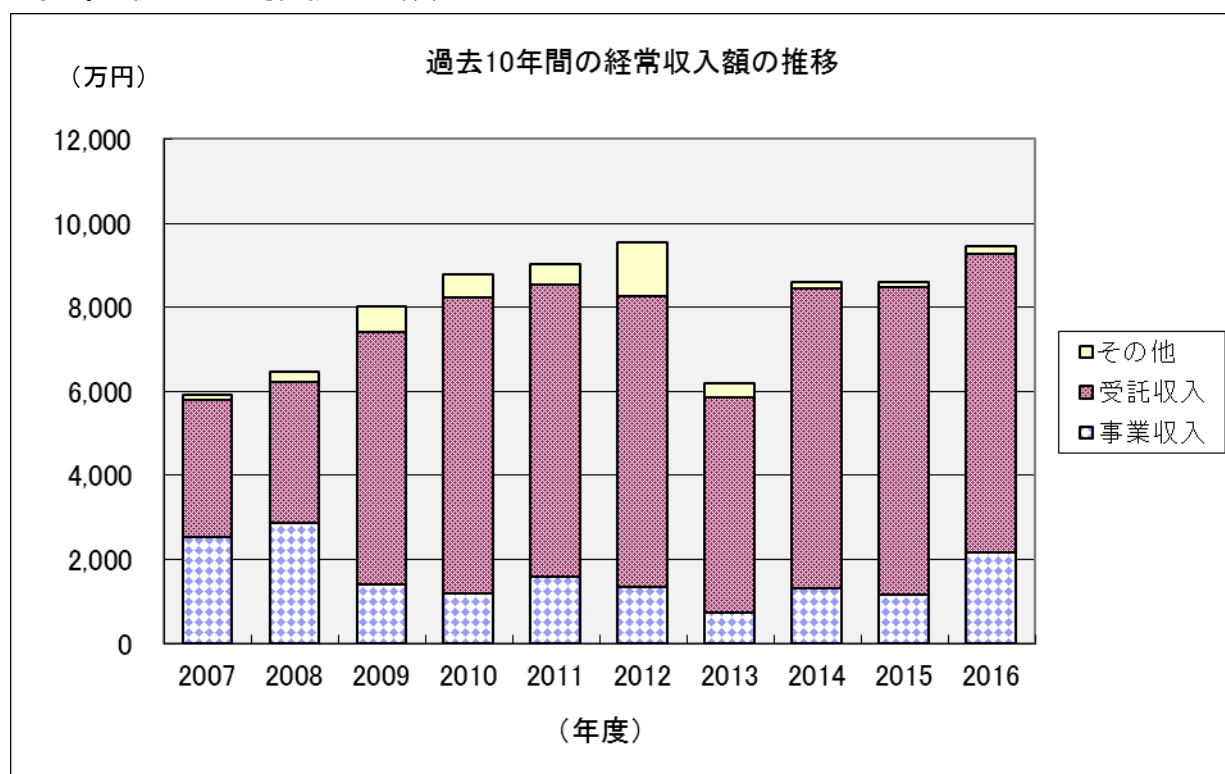
	09	10	11	12	13	14	15	16
合計	186	196	193	150	147	146	138	134

※ 1998年度は9月時点の数値、それ以外は各年度末（3月末）の数値です。

※ 正会員・準会員・賛助会員を合計した数値です。

※ 数年以上会費納入のない会員について、2012年度に整理作業を実施しました。

(2) 収入額の推移と内訳



※ 受託収入＝行政からの委託事業（行政との協働事業）

※ その他＝会費収入・助成金収入・寄付金収入など

※ 借入金収入や前期繰越金は含めていない

※ 2013年度、第2事業部が独立

(3) 市民セクターよこはま 沿革

1998.7	「市民セクター構築のための研究会」発足
1999.9	市民セクターよこはま 設立 (9/28) 横浜ワールドポーターズに店舗兼事務所「こらぼ」開設
1999.12	横浜市への要望書提出「新しい公共の創造へ向けて」
2000.1	配食サービス連絡会発足
2000.9	横浜移動サービス協議会発足（移動プロジェクトより独立）
2001.7	デイサービス・サロン連絡会、事業型 NPO 連絡会発足
2002.2	横浜ワールドポーターズに「NPO スクエア」開設 同所に事務所移転
2002.7	NPO マネジメント支援プロジェクト発足（～2005.9）
2002.10	横浜市市民活動共同オフィスの管理運営を受託（～2009.3） 協働のありかた研究会参画
2003.4	NPO 法人「市民セクターよこはま」設立・登記（認証 4/1） 精神保健連絡会発足
2003.5	設立総会、NPO 法人設立記念パーティ
2004.5	理事長松本和子退任、服部一弘就任
2004.7	横浜会議で研究テーマを提案、採択される 『「暮らしを支える生活術マトリクスモデル」作成と市民力を活かした新システムの研究』
2004.8	認知症ケアマネジメント推進事業開始 訪問介護員養成研修 1 級課程 開始（～2005.11）
2004.11	事務局内に評価事業部設置、福祉サービス第三者評価事業開始
2005.6	地域福祉コーディネーター養成研修開始
2005.8	NPO 等に対する相談・アドバイス事業開始（～2008.3）
2006.5	「介護サービス情報の公表」に係わる調査事業開始（～2009.3）
2006.12	理事長服部一弘退任、松本和子就任
2007.1	横浜市指定管理者第三者評価事業開始
2007.10	コミュニティビジネス支援事業開始
2007.11	横浜市中区住吉町（関内）に事務所移転 地縁型組織とテーマ型組織の協働モデル事業開始
2008.5	理事長松本和子退任、中野しずよ就任
2008.7	区役所窓口サービス向上支援事業開始（～2010.3）
2009.4	組織改編（事業ユニット制の導入）
2009.5	定額給付金の代理受領および横浜市への寄附手続き開始（～2009.11）
2009.7	横浜市市民活動支援センター運営開始
2012.7	認定特定非営利活動法人（認定 N P O 法人）として国税庁より認定
2013.4	横浜市中区太田町（馬車道）に事務所移転
2014.4	横浜市市民活動支援センター運営（2 期目） にしく市民活動支援センター運営開始
2016.10	神奈川県指定特定非営利活動法人（県指定 NPO 法人）指定
2017.4	横浜市認定特定非営利活動法人（横浜市認定 NPO 法人）認定

(4) 2016 年度の役員・事務局スタッフ

● 役員（理事・監事）

理事長	中野 しずよ
副理事長	竹谷 康生、松本 道雄
理事	井上 義臣、加世田 恵美子、齋藤 保、田尻 慎太郎（2016.6～） 山野上 啓子、吉原 明香、 石井 大一郎（～2016.5）岡部 祥司（2016.6～2017.5）
監事	西尾 敦史、大塚 宏（2016.6～）、横山 悠（～2016.5）、

● 事務局スタッフ

常勤・非常勤 アルバイト	吉原 明香（事務局長） 加世田 恵美子、関尾 潤、薄井 智洋、宮澤 勝子、山田 素子 樋山 麻子、松田 香、小山 紳一郎（～2016.12） 内田 智美、松原 優佳、今村 理恵子、落合 貴美恵 石川 亜紀子（2016.6～）、徳増 友紀（2017.3～） 村上 万麗子（～2016.6） 大河原 正人、奥井 利幸（2017.1～）神田 廣志、田中 田人、撞井 静雄 原田 姫子、村田 育男、
ボランティア スタッフ	勝田 泰輔、山戸 一弥

2016（平成 28）年度横浜市市民活動支援センター事業報告書

管理運営：認定 NPO 法人市民セクターよこはま

I. 2016 年度（平成 28 年度）事業の振り返り

テーマ 1.

社会的な課題の解決や、市民の力がより良く活きる環境づくりに向けてネットワークづくりを多様に進めました。

現在懸案となっている、（2014 年度実施した活動団体アンケートでも明らかになった）社会的な問題・課題について根本的な解決につながるよう、市民活動実践者や所管する行政セクション、テーマごとの中間支援機関、大学研究者などで、「協働型の学び合いの場（パブリック★スクール）をつくる」ことに引き続き取り組みました。

2016 年度は、市民の力がより良く活きる環境づくりに向けて、市民局市民活動支援課と協働し、以下のことを新規に取り組みました。

- 課題解決や、より活動しやすい環境づくりに向けて、横浜の市民セクターの核となるつながりをつくるため、横浜市エリアの市民活動団体、企業、行政等が、互いに育ち合うことを目指し、地域支え合いフォーラムを実施、パートナーシップミーティングでは、NPO と企業等がつながるきっかけをつくりました。
- 「横浜市市民協働条例」施行後 3 年の機会に、協働に関わるさまざまな主体が、実行委員会を組織し、これからの時代にふさわしい協働のあり方について考え、話し合う機会を市民局と協働でつくりました。

テーマ 2.

各区の市民活動支援センターのさらなる中間支援力の向上を目指し、重層的に働きかけました。

- 18 区の支援センター職員・地域振興課職員を対象としたネットワーク会議、および区版センターをはじめとする中間支援機関職員を対象とした中間支援力アップ研修では、センターの実務に関連したテーマを設定し、日頃の取り組みの見直しにつながるよう働きかけました。
- 上記のネットワーク会議や研修に加え、4 つの区（神奈川区・港北区・青葉区・金沢区）においては、地域の課題解決や魅力づくりに向けた施設間連携の取り組みに当センターが伴走的に関わり、区役所庁内や地域の多様な施設が連携するきっかけとなる情報交換会などがスムーズに開催できるようサポートしました。

Ⅱ．個別の事業報告

1．相談事業 ～体系的な支援体制づくりに向けた相談の取り組み～

成 果

本年度は、様々な相談に対応できる体制・仕組みづくりに取り組み、他のマネジメント支援事業などを含め、団体の成長段階に合わせて体系的に団体をサポートできる仕組みを整備しました。また、新たに責任者・副責任者による予約制相談を実施したことで、専門的な相談について重層的な対応ができるようになりました。

その結果、「専門相談＝当センター」という認知が進み、相談件数が増えました。

課 題

専門相談は、業務として会計・総務・労務を長年担当している、NPO 運営に長年携わっている、という経験値の高さによる対応力という面があり、他の職員が同席していっしょに話を聞けば、対応できるようになるとは限りません。

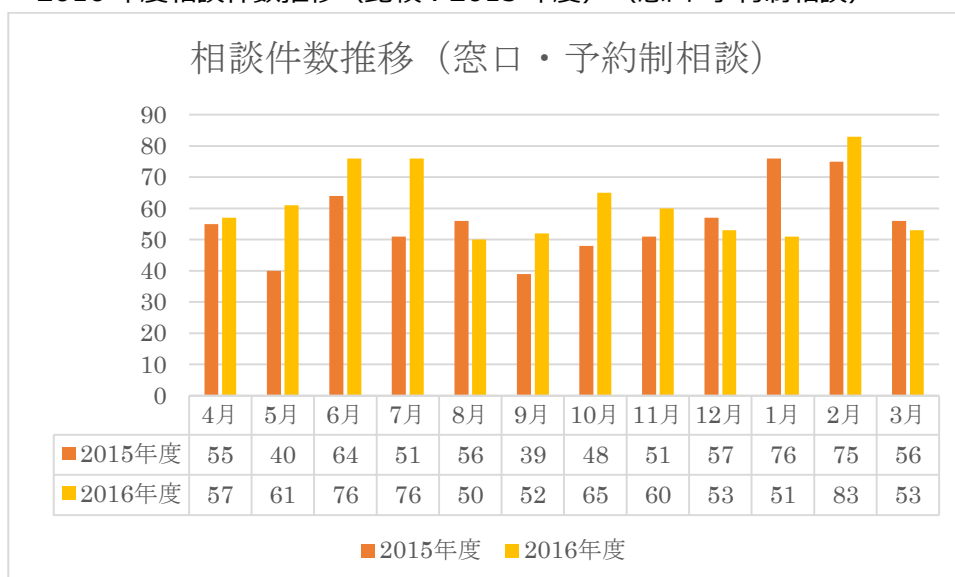
職員がより経験を積み、専門相談に対応できるようになることを意識した職員育成が必要になっています。

実施したこと

1) 日常的な相談対応

これまで蓄積した相談データベースを生かしつつ、団体運営の悩みや、こうありたいという想いに寄り添い、日常の相談に対応しました。職員間で相談内容を共有することで、よりよい情報の提供・相談対応につながるよう努めました。(2) ①の予約制相談のチラシを情報紙発送の際に同封するほか、メールマガジン等で広報する事で、支援センターの相談機能に関する認知が向上し、相談件数が昨年度より、69 件（月平均 5.75 件、3 月末時点）増加しました。

2016 年度相談件数推移（比較：2015 年度）（窓口・予約制相談）





その他、税理士無料相談会 24 件、資金調達応援チーム 7 件、アドバイザー派遣 8 件を加え、支援センターとしての相談の延べ総数 776 件（3 月末日時点）となりました。

2) その他予約制相談

①管理者による予約制相談の実施【新規】

複雑な状況の運営相談について、責任者・副責任者が対応する相談日を設定しました。チラシやメールマガジンにて広報し、電話にてあらかじめ相談内容を伺うことで、より具体的に的確な相談対応をおこなうことができました。

また、新たに活動を立ち上げる団体の相談については、先行している団体の紹介等、団体の抱えている課題に応じ、コーディネートを行いました。

組織運営・協働・まちづくりに関する相談 担当： 吉原明香	相談実施日	相談件数：33 件 実施日数：計 10 日（下記日程以外の予約相談も上記件数に含む） （6 月 30 日、7 月 21 日、8 月 11 日、9 月 7 日、10 月 5 日、11 月 17 日、12 月 13 日、1 月 17 日、2 月 24 日、3 月 23 日）
	主な相談事例	«企業 CSR» ・自社のスキル・技術を生かして、CSR 活動を行いたいと考えている。強みを活かした活動を展開するために、どのように今後取り組んでいけばよいか。（市内企業より） ・地域の中で認知症カフェを行いたい。地域の団体などとのつながりもなく、どのように活動を展開していけばよいか伺いたい。既に取り組まれている認知症カフェへ見学することはできるか。（地域の薬局より） «複雑な活動内容の団体立ち上げ» ・貧困家庭への支援に関する新規事業を立ち上げたいと考えている。活動にあたって、資金調達や、関係づくりなどについて相談したい。

		（任意団体（NPO 法人申請中）） «団体世代交代に関する相談» ・団体の世代交代ができておらず、団体をどのように継続していくか悩んでいる。新しい理事や次期リーダーをどう確保していけばよいか、どのように運営を考えていけばよいか、相談したい。（市内 NPO 法人）
総務・人事・経理・労務に関する相談 担当： 加世田恵美子	相談実施日	相談件数：21 件 実施日数：計 11 日 （6 月 16 日、7 月 7 日、7 月 28 日、8 月 22 日、9 月 20 日、10 月 18 日、11 月 24 日、12 月 15 日、1 月 20 日、2 月 9 日、3 月 10 日）
	主な相談事例	«NPO 法人特有の労務・会計・事務について» ・NPO 法人の給与、職員を雇用する際の手続きについて知りたい。 ・事業の大きさにしたが、会計の担当について見直したいと考えている。 ・NPO 法人を立ち上げたばかりで、寄付金をどのように会計処理したらよいか知りたい。また、認定 NPO 法人を目指す場合、どのような対応が必要か。 ・代表の引き継ぎに伴い、NPO 法人の事務を引き継ぐこととなった。NPO 法人の事務について伺いたい。 «他事業との連携・紹介» ・税理士の無料予約相談を利用し、今後取り組むべき課題が見つかったが、どのように処理を行えばよいか、分かるスタッフがおらず、困っている。

②税理士による無料予約相談会の実施【新規】（26 ページに再掲）

日常の会計処理、NPO 会計基準に則った決算書類の作り方など、会計に関する様々な疑問や悩みに気軽に相談ができる場として、7 月から毎月第 2 火曜日に、「税理士による無料予約相談会」を実施しました。年間を通じ、24 件の相談をいただきました。

③アドバイザー派遣事業（25 ページに再掲）

希望する団体に対し、税理士や社会保険労務士といった、専門アドバイザーを派遣しました。団体の事務所に訪問する特色を生かし、団体の悩みに細やかに応えることができました。年間を通じ、7 団体（8 件）から依頼をいただきました。

④「横浜市 NPO 法人資金調達おうえんチーム」による資金調達相談会の実施【新規】

日本政策金融公庫、横浜市信用保証協会、横浜市市民活動支援センターの 3 者で、資金調達応援チームを結成、融資制度に関する相談会を行いました。下半期 9 月より毎月 1 回相談日を設定し、7 件のご相談をいただきました（3 月末時点）。

3) 市民活動支援課 NPO 認証班との連携

市民活動支援課 NPO 法人認証班と役割分担をしながら、相談者の状況やニーズに沿った相談対応・情報提供ができるよう、両相談窓口の連携を行いました。

また、NPO 法の改正（平成 29 年 4 月 1 日施行）について、認証班から説明を受け、法律改正の詳細について理解を深め、窓口等での相談対応へ活かしました。

2. 情報の提供・発信事業 ～ 課題解決および地域の魅力アップにつながる活動の見える化～

2014 年度に行ったアンケート結果を活かし、情報紙、ホームページ、メールマガジン、ギャラリーコーナー等、すべての情報提供・発信ツールで、課題解決や魅力づくりにつながる活動を見える化し、市民の方が関心を持つ機会を広げ、活動団体には、より活動に応用できる情報を提供できるよう努めました。

実施したこと

1) 情報紙アニマートの発行

- ・ 2016 年度より、デザインをリニューアルしました。
- ・ 年3回発行し、特集テーマは、18号「僕たちは地球に住まわせてもらっていることを、忘れちゃいけない」、19号「キャリア・アンカーのままに生きる～無限の鉱脈との出会い～」、20号「自分らしく息がつける場所をつくる」としました。
- ・ 紙面には関連機関情報を積極的に盛り込みました。



- ・ 毎号、メイン担当を変えて作成することで、個性を持たせ、事前準備と発行後の活用に時間をかけることで、情報の拡がりネットワークの充実を図りました。

【animato18号】
8月15日発行

タイトル
主な内容

僕たちは地球に住まわせてもらっていることを、忘れちゃいけない

横浜市の自然環境の現状を伝える論説や体験記、活動を通じて自然の大切や自然との関わり方を伝えている団体・活動者の方の取材記事を掲載。

【2-3P】 特集：大岡川の源流を訪ねて

【4-5P】 「自然を敬う心」を取り戻したい（豊田 直之さん）

【6-7P】 自然が発するメッセージを受け取れるようになる手助け
（ハンミョウの会）

【8-9P】 自然での体験を通して、自分の居場所をみつけて欲しい
（山田 陽治さん）

【10-11P】 緑を守り育む ～身近な自然とおつきあい～
（NPO 法人 よこはま里山研究所）

	編集プロセス	横浜市の緑被率が 30%を切る危機的な状況にあるという話題が企画会で挙げられ、この現状を広く知ってもらいたいという問題意識から企画を立ち上げていきました。小さい頃から自然に親しむことが大切さである一方で、自然とのふれあいと現存する自然環境を保護していくことのバランスをとることは容易でないことから、今後に向けた「自然のたしなみ」を読者に感じてもらえるような内容としました。 ＜企画会議参加者（五十音順）3名＞ 事務局：吉原、薄井、関尾、宮澤 開催日：5/10（火）18:30～21:00 ・岩室 晶子 さん（NPO 法人 I LOVE つづき 理事長） ・豊田 直之 さん（NPO 法人海の森・山の森事務局 理事長） ・吉武 美保子 さん（NPO 法人よこはま里山研究所 理事）
	読者の反響	・表紙のデザインが、今までよりもずっと手に取りやすくなりました。 ・特集ページのやわらかい雰囲気もいいですね。 ・いつも楽しみにして読んでいます。 ・取材記事に執筆者の個性が出ていて面白いと思いました。 ・表紙を見ただけでは、どんな特集やテーマなのかわかりにくい。さらに工夫を。
【animato19号】 12月6日発行	タイトル 主な内容	キャリア・アンカーのままに生きる～無限の鉱脈との出会い～ キャリア・アンカー（職業などを選ぶ時に最も大切にしている価値観）を大切にしながら、ソーシャルな分野で活動されている3人の女性への取材と、社会教育学者の入江直子先生へのインタビュー記事で構成しました。 【2-3P】 パラレルキャリアが地域の未来を切り開く（肥後貴美子さん） 【4-5P】 大人も子どももみんなが集まれるコミュニティに（松本美佐さん） 【6-7P】 自分が自分らしくいられる場所（小栗ショウコさん） 【8-9P】 人間は「中年の危機」をどう生きるのか （社会教育学者 入江直子先生） 【10-11P】 ワークライフデザインのはじめ方、先達からのメッセージ、編集後記
	編集プロセス	40～50 歳代の女性をメインターゲットに、人生の後半期の生き方について考えるきっかけとなる号にしたいと思い、まずは企画会議を開催しました。企画会議では、40・50 代になると、豊かさの問い直しや人間の本質に気づくといった様々な議論がなされましたが、「無限の鉱脈」という言葉が全員の共感を呼び、19 号のキーワードとなりました。企画会議で候補に挙げた方々への取材・インタビューを行い、編集作業を進めていきました。企画会議参加者については、ソーシャル活動の先達という立場で誌面に登場していただき、連絡先を掲載することで、読者が気軽に相談できるようにしました。 ＜企画会議参加者（五十音順）5名＞ 事務局：吉原、薄井、関尾、宮澤 開催日：8/26（金）18:00～20:30 ・鈴木 智香子 さん（NPO 法人街カフェ大倉山ミエル 代表） ・谷川 みちる さん（横浜市市民局市民活動支援課） ・塚原 泉 さん（神奈川区地域子育て支援拠点かなーちえ 施設長） ・常光 明子 さん（男女共同参画センター横浜南 館長） ・治田 友香 さん （関内イノベーションイニシアティブ株式会社 代表取締役社長）

	読者の反響	・最初に登場された3人とも、三者三様で良かったです。活動内容、フィロソフィー、そしてライフストーリーが一体となっている、インタビューの構成が良かった。企画の意図が良く感じとれました。 ・それぞれのテーマ、フィールドで活躍する女性たちの、しなやかで粘り強いエネルギーが伝わってきました。読みながらなんだかエールをいただいたような感じがしました。 ・「無限の鉱脈」についてのコラムに感銘を受けました。市民活動や地域活動を実践していく中で、もちろん辛い事ある。けれども、生きている手応えを感じながら進んでいける道でもある。と思いました。それを共有したくて、活動している友人に冊子を届けました。
【animato20号】 3月31日発行	タイトル 主な内容	自分らしく息がつける場所をつくる 「自分らしく息がつける場所って、どんな場所だろう？」 人がある場所に関わり、そこが自分の居場所と感じ始める。 自分発で仲間を集め、多世代が集う居場所をつくった皆さんに取材し、その秘密を探りました。 【2-3P】 富岡サロン「ジュピのえんがわ」 ～一人一人の主体性が、居心地の良さを生み出す～ 【4-5P】 「シェア奥沢」 ～アートとコミュニケーションをテーマにした、居心地のよいコミュニティスペース～ 【6-7P】 ごはん屋「MOGU」 ～いただきますが聞こえる地域へ～ 【8-9P】 <対談>『必要な場をつくりだそう』 ・NPO 法人れんげ舎 代表理事 長田英史さん ・横浜市市民活動支援センター責任者 吉原明香 【10-11P】 居場所づくりを応援します！支援制度のご紹介 ◆ヨコハマ市民まち普請事業 ◆WAM 助成（社会福祉振興助成事業） ◆横浜市介護予防・生活支援サービス補助事業 ◆介護予防交流拠点整備事業 【12P】 蚯蚓のつぶやき 『はみだしているのに、入っている?!』 横浜市市民活動支援センター責任者 吉原明香
	編集プロセス	居場所づくりといっても、手法だけを伝えるのではなく、自分らしい場づくりを実践されている方々を特集し、「自分でもできる」「居場所を探したい」と思えるような情報誌を目指しました。 一歩踏み出したいという方向けに、居場所づくりを応援する「支援制度のご紹介」というページをつくり、対談ページでは、「必要な場をつくりだそう」というテーマで「場」と「人」の関係性について話されています。

読者の反響

- ・素敵な活動のご紹介で、私もささやかながら空き家活用による居場所の開設準備に関わっており、とても励まされる記事でした。ぜひ、見学の機会などあれば、仲間と一緒に伺ってみたいです。
- ・今回は、制度の中身まで踏み込んだ編集だったので、「animato」全体が「追い風」のような印象でした。

2) ホームページの運営

- ◆HPでの情報公開と同時に、管理運営団体（市民セクターよこはま）のHPやfacebookと連動させることで、当センターHPへのアクセス数を増加させることができました。
 - ・1日平均アクセスのべ613ページビュー（2015年度1日平均352ページビュー）でした。
- ◆全体構成を見直し、マイナーチェンジを図りました。
 - ・トップページの空スペース、そして掲示板を積極的に活用し、HPに訪れた方が迷わないよう配置を工夫
 - ・トップページの文字量を多くしてしまうと、読みにくくなってしまうので、トップ画面はシンプルに設計し、説明不足を防ぐために、興味のある方はリンク先に情報を掲載（PDF）しました。
 - ・当センターのお知らせやイベント情報等、新たに追加されたイベントがどれなのか等、分かりやすく発信することを心がけました。

3) メールマガジン「アニマートピコ！」の運営

- ・月に1回、年間計13件のメールマガジンを発行しました。7月は「地域支え合いフォーラム」の広報のため、臨時号を発行しました。
- ・登録数2168名（2017年1月21日時点）。
- ・市民活動支援センター事業と、掲載依頼のあったもの、当センターでピックアップした助成金情報、ボランティア・イベント募集情報等を配信しました。
- ・名刺交換した方を積極的に登録し、登録数を増やしました。
- ・各区の支援センター職員が登録しているメーリングリストにも転載し、情報を共有しました。

4) ギャラリーコーナーの運営

4階ギャラリーコーナーを情報発信ツールとして認識してもらえよう、5階入り口の情報掲示板「ズーミーイン」にて、紹介しました。ギャラリーコーナー利用実績は、15団体/年（3月末時点）でした。
また、団体の利用が無い期間に、センターの情報誌「アニマート」のバックナンバー等の掲示を行いました。



5) NPO 法人事業報告書閲覧コーナーの運営

NPO 法人を所轄する市民活動支援課と連携し、NPO 法人から毎年提出される事業報告書等を閲覧コーナーで公開し、助成金情報を調べられるコーナーを近くに設置することで、市民の方や利用登録団体の皆さまが、NPO 法人の活動や運営に対する関心を持つ機会を広げていきました。

- ・2016 年度の事業報告書閲覧者数 135 人、閲覧件数 340 団体(12 月末日時点)
(2015 年度の事業報告書閲覧者数 217 人、閲覧件数 330 団体)



6) 図書コーナーの運営

市民活動に関する雑誌を定期購読し、また、書籍を購入し、充実をはかりました。また、より手に取って頂けるよう、図書コーナーの表示、ラベル表示などを更新しました。

7) メディアの活用による発信

企業の情報発信サイトや中間支援組織のホームページなど、さまざまな情報発信の媒体を活用し幅広い人に情報を届けました。



※掲載していただいたメディアリスト

- ・ とくらく（東急）
東急電鉄が運営する Web メディア（東急沿線のヒト・コト・モノ・バの情報を掲載）
- ・ ソーシャルポートヨコハマ
横浜のソーシャルビジネス・社会起業に関する情報を発信する情報サイト
- ・ ローカルグッドヨコハマ
地域に暮らす市民や企業、団体が地域のことに意識を持ち、できる範囲で、サービス、モノ、カネ、ヒト情報の循環をつくっていくことを目指すウェブサイト

- ・ 関内フューチャーセンターメールマガジン
あたらしい「働き方」や「ライフスタイル」「価値観」と出会うコワーキングスペースのメールマガジン

3. 各区の市民活動支援センター支援事業

今年度も引き続き、さまざまな取り組みを通して、今後ますます各区の支援センターに求められる地域支援力・中間支援力の向上に取り組みました。

実施したこと

1) 各区の支援センターの持つノウハウを共有し、一緒に考えるネットワーク会議の実施

実施した内容

18区すべての支援センターと地域振興課職員を対象としたネットワーク会議を、年5回開催。各回完結型で、センター事業に関わる実務的なテーマを設定し、情報共有やワークなどを通じて、互いに学び合っていくスタイルで実施しました。

とくに、毎回行ったテーマに関する事前アンケート調査では、収集・分析に力を入れ、その結果をもとに情報共有・意見交換するなど取り組みました。

※ 第1回の会議は、18区の地域振興課職員のみを対象として、区版支援センターの運営について考える機会としました。

【第1回】 6月17日(金) 地域振興課職員： 25名(17区)		<テーマ：支援センターの運営> ねらい 区の取組状況や課題に応じた事業の企画・運営に向けて、センター事業の計画作成や体制づくりの進め方について考える 内 容 - ネットワーク会議 成果のまとめ（Q&A集より） - 横浜の生涯学習 - センター事業の運営について - 事前アンケートの集計結果の共有・情報交換
	事前調査の分析及び内容への反映	直営センター、民営センターそれぞれにおける、新規事業の導入や事業計画づくりなどの状況等、センター運営に関する現状と課題を把握しました。 センター職員の事業企画への参画状況などに違いが見られました。
	結果	「各区の一押し事業に関する情報が役に立った」というほか、各区での事業企画の進め方に違いがあることを知り、自区の参考にしたいなどの声が聞かれました（ふりかえりシートより）

第2回] 7月27日(水) 地域振興課職員： 16名（16区） センター職員： 17名（16区）	内容	<テーマ：支援センターの情報紙> ねらい 区民が活動につながるうえで、重要な媒体となる情報紙を、より効果的なものに改善していくための方法等について知ること 内 容 - 導入「情報紙ある？ある！」 横浜市市民活動支援センター：吉原 明香 - 事前アンケートの共有・ディスカッション - 個人ワーク／グループ内でのワーク共有・ディスカッション 事前調査の分析及び内容への反映 調査では、センター情報紙の、掲載内容・配布方法・企画編集プロセス等について詳細を把握したほか、実際の紙面を「区民目線」で見ると気づいたことを踏まえながら、「情報紙づくり5つの視点」を提示しました。 結果 各区で情報紙の配布先に特色が見られ、参考になったという声が聞かれました。また、届けたい情報をしっかりと読んでもらうために、掲載内容や配布先など、常にメインターゲットに相応しい方法を採用することの大切さを多くの職員が感じていました。
【第3回】 10月26日(水) 地域振興課職員： 11名（11区） センター職員： 16名（16区）	主な内容	<テーマ：団体支援> ねらい センターによる団体支援の対象としている層について、その方向性やアプローチ方法・関係づくりを検討すること 内 容 - 事前アンケートの集計・分析結果の共有 「団体支援を考える セカンドステップに向けて」 横浜市市民活動支援センター 吉原 明香 - 事例発表「泉区：団体活動支援講座～本気で作るNPO～」 泉区地域振興課 谷田 紗也佳 さん - 事例発表「戸塚区：とつかお結び広場」 とつか区民活動センター 中嶋 伴子 さん - 情報提供「NPO 法人について」 市民局市民活動支援課（NPO 認証班）坂田 弘太郎、野田 実

	事前調査の分析及び内容への反映	区版センターで団体支援の対象について、とくに力を入れている層や、関わりが進んでいない層などを集計・分析することで、各区の傾向を可視化する形でお互いに知ることができました。
	結果	多方面にわたる団体とのつながりを生み出している「おむすび広場（戸塚区）」や、事業評価・分析にもとづき企画運営している「NPO 入門講座（泉区）」の事例、そしてアンケート結果の共有から、センターとして関わりを深めたい団体に対して、どのようにアプローチするのかを考える機会となりました。

【第 4 回】 1 月 31 日(火) 地域振興課職員： 8 名 8 区 センター職員： 12 名 12 区	主な内容	<テーマ：相談対応> ねらい 区版センターにおける、個人・団体に対する相談対応に関する進め方や考え方、相談員としてのスキルアップについて、情報共有・検討すること 内 容 - 事前アンケートの集計・分析結果の共有 - 相談対応を考える～想いをくみ取り、寄り添う相談へ～ - グループワーク「団体支援に関する相談対応について」
	事前調査の分析及び内容への反映	各区の相談業務について、とくに個人に対する対応方法や進め方をまとめ、相談の流れに応じた 3 つのステップ「インテーク」「コーディネート」「クロージング」を提示することができました。また、相談員としてのスキルアップの機会や場面を、OJT・Off-JT 含め把握することができました。
	結果	個人からの相談への具体的な対応方法等を、事前アンケートの結果から共有することができました。また、個人に対する対応のステップを、団体からの相談に当てはめ、その対応方法や留意点について意見を出し合ったことで、個人と団体の両者を想定した相談対応のノウハウ・工夫をまとめることができました。

【第 5 回】 3 月 8 日(火) 地域振興課職員： 14 名 13 区 センター職員： 14 名 13 区	主な内容	<テーマ：まとめ> ねらい 2016 年度のまとめとして、ネットワーク会議での内容から区で活かしたことや、各区における施設間連携の取組み等について、情報共有・意見交換すること 内 容 今年度のネットワーク会議より、反映したこと活かしたこと／今後、反映する・活かす予定があること

		・ 施設間連携の取組みについて（神奈川区による発表・18 区の情報共有） ・ 18 区の情報共有・意見交換（担い手の発掘や育成の取組み、ボランティア活動したいという個人への支援について） ・ 横浜市市民活動支援センター自主事業紹介 －横浜市指定 NPO 法人アクションポート横浜 －横浜コミュニティカフェネットワーク
	結果	他区センターの取組みから参考情報を得られたという声が多かったほか、自主事業紹介での「若者とボランティアのマッチング」や「コミュニティカフェ」の取組みに対する関心が高く、自センター事業との連携等、新たな可能性を探るきっかけを得る機会にもなった。

成 果

- 会議を通じて、今後の方向性を考えたり、自分たちの区の取組みを見直すきっかけにつながりました（ふりかえりシートより）。事前調査の結果から各区の取組みや工夫を共有するだけでなく、分析した結果から見えてきたことをもとに情報共有・意見交換を進めたことが良かったのではないかと推察されます。
※例えば、第 2 回（テーマ：情報誌）・第 3 回（テーマ：団体支援）では、今後、メインターゲットを意識した取組みが重要であることを共有できました。
- アンケート結果を分析する過程で、市民活動支援課との両方で区版センターの現状を把握することができたり、区の現状に応じたネットワーク会議の企画を進めることができました。
※第 3 回では、NPO 認証班担当者とも一緒に企画を進め、各区の職員に対して、どのような内容で NPO 法人について説明するのか、議論をしました。
- これまで 4 年間のネットワーク会議の取り組みを通して、事業計画策定プロセスへの、センター職員の参画の重要性について共有してきました。今年度第 1 回の事前調査の結果から、17 区で、センター職員が事業計画策定プロセスに関わっていることが分かりました。

課 題

- ふりかえりシートを見ると、ネットワーク会議が、他区から具体的な取組み・ノウハウなどの参考情報を得ている場であることが伺えます。そのように、会議を通じた情報収集や気づきが事業改善・見直しにどのように活かされているのかを知る上で、継続調査が必要です。
- 職員の異動等で体制が入れ替わる中で、安定的・継続的なセンター運営に向けて、「支援センター Q&A 集」をより活用しやすい内容にするなどのことが課題となっています。

2) 各区の支援センターの地域支援力・中間支援力向上を目指した伴走支援（通年・希望区）

- ・ 施設間連携のための伴走支援（神奈川区・港北区・青葉区・金沢区）
区の支援センターがコーディネーター役となり、区内の区民利用施設が連携・協働し、地域の担い手づくり等に取り組んでいけるよう、情報交換会や連続講座、ワークショップ等の実施を支援しました。

神奈川区	実施内容	第1回（9/28）および第2回（2/1）の施設間連携会議 ほかに打合せ2回
		施設間連携会議が2回開催されました。第1回（9/28）では、講義「ネットワーク構築のメリットと可能性」の後、ワークショップでは、パーソナ的な人物に対して、地域の施設・団体と連携してどのようにアプローチするかについて、参加者同士で考え合いました。 第2回では、講義「ニーズや課題、スケジュールを共有し、セカンドステップへ」の後、エリアごとの各グループで事業実施内容とスケジュールを共有しました。フリータイムでは、連携を探る施設を指名し、その可能性について、話し合う時間を設けたところ、7事業について継続して話し合うをもつことにつながりました。
港北区	実施内容	4月～1月区役所の各部署が連携し、区内全施設ヒアリングを実施。2-3月でエリアごとに施設間連携会議6回実施予定。ほかに打合せ2回
		ヒアリング結果を共有し、エリアごとの施設間連携会議の進め方について検討、初回のエリア会議の際の講義とファシリテーターを務めました。そのほかのエリアについて区のセンター職員が講義やファシリテートができるようレクチャーを実施しました。
青葉区	実施内容	第4回（12/8）区民利用施設交流会 ほかに打合せ1回
		講義「サードステップへ向けて」で、個別支援の必要性を伝え、その後ワークショップで、パーソナ的な人物に対して、地域の施設・団体と連携してどのようにアプローチするかについて、参加者同士で考え合いました。また連携のツールとして、ビブリオバトルのやり方を実演で学びました。
金沢区	実施内容	（9/29）施設連携会議 ほかに打合せ2回
		金沢区がこれまで行ってきた取り組みをお聞きし、これからの施設連携会議のあり方について検討しました。また、「ネットワーク構築のメリットと可能性」について講義後、施設のもつ課題と解決策について相互にアドバイスし合うワークショップを行いました。

3) 教育委員会と連携した新任者研修およびフォローアップ研修

実施した内容

各区の支援センターに配属された新人職員向けの研修を、教育委員会と連携して実施しました。把握している区の状況や、教育委員会との意見交換を通じて、今後はさらに相談対応力を向上させていく必要があるとの認識から、生涯学習相談や生涯学級についての基礎について、留意して進めました。

新任者研修	内容
4月25日(水)	講義「生涯学習概論」
センター職員： 32名（15区+横	主な内容 教育委員会生涯学習文化財課 吉見江利さん 市民活動・生涯学習支援の実務について① なか区民活動センター 大谷 敦子さん

横浜市市民活動センター)		・ 講義「市民活動概論」 市民局市民活動支援課 宇野 紘子 ・ 講義「横浜市市民活動支援センターについて」 横浜市市民活動支援センター 吉原 明香 ・ 市民活動・生涯学習支援の実務について② とつか区民活動センター 中嶋伴子さん ・ ワークショップ
	結果	中区・戸塚区のセンター職員による実務のお話は、日頃の業務にあたるうえでの大事なポイントを学ぶうえで参考になったほか、他区の事例について知りたいという声が聞かれたことから、他区の事例を聞いたり、参加者同士の交流を通じて、他区センターの取り組みに対する関心が高まったものと思われます。

フォローアップ 研修	主な内容	内 容 - 講義「相談員 2 年目に向けて」／ワーク「ペルソナワーク」 横浜市市民活動支援センター 吉原 明香 - 講義「人材バンクについて」「事業の企画と運営について」 - ワーク「1 年間のふりかえり」 社会教育コーナー 福島 伸枝さん
	結果	新任者として、疑問や不安を感じていることが多い相談対応の業務に対しては、ネットワーク会議第 4 回での内容をもとに具体的な工夫・考え方を伝えることができました。また、1 年間のふり返りでは、ワークを通じて互いに悩みを共有する中で、自身における今後の課題を見据え、前向きな気持ちで終えることができました。

成 果

先輩職員からの話などから、業務の進め方・考え方について具体的に知ることができ、また、同期の職員同士で話し合い、考え合うことを通じて、日頃の業務の中で感じる不安や疑問の解消につながる機会となりました。教育委員会・市民活動支援課・市民活動支援センターの3者で、企画段階から十分に議論したことで、より目的に適ったプログラムとすることができました。

課 題

新任者に必要な知識やスキルについては内容が多く、参加者同士の学び合いが十分に深められない部分もあることから、研修時間やプログラムを見直すなどの改善が必要と考えられます。また、新任者が、経験年数に応じて、継続的に学んでいける研修機会をつくることも今後の課題です。

4) 中間支援力アップ研修

実施した内容

各区の支援センター及び各地域施設等の中間支援力が求められる施設職員を対象とした研修を実施しました。

11月10日(水) 13:30-17:00 参加者 30名	主な内容	テーマ：活動につなげるための相談・コーディネート理論と実践 講師：早瀬 昇さん（NPO 法人日本ボランティアコーディネーター協会代表） 内 容 ○講 義「活動につなげるための相談対応～コーディネートの理論と実践～」 ○ワーク「仮定の相談者への対応について考えるワーク」
	結果	<アンケート結果より> ・ 研修前後で、「相談・コーディネート」の取り組みに対する考え方は変わりましたか。 …「変わった：25名」「変わらない：3名」「まだ分からない：2名」 ・ 新たに得られた気づきや、印象に残った内容・言葉（自由記述） ・ （講義で印象に残ったことは）相談者の言葉の後ろに隠れているものを見つけるとのこと。ボランティアは自発的にやるものということ。相談者の言葉を聞くだけでなく、本人の気持ちを聞くことが一番大事ということ、ワークを通じて再確認しました。 ・ 「自発性は揮発性」本人のやる気はその日が一番ピークという言葉は、すごく納得しました。やる気が続かないのは、その人の問題ではなく、そういうものだということが分かりました。 ・ コーディネートすることの奥の深さを学びました。（印象に残ったのは）「ボランティア」の活動には無限の力があるということ。相談者に対して、私達も創造性をもって対応していこう！という気持ちになりました。 ・ 依頼者の夢・願いをボランティアとコーディネーターが共感することが重要であることを改めて感じました。

成 果

「本人の自発性・主体性を大事にする」「真に望んでいることは何かを深く探る」などのボランティアコーディネーションにおける考え方が、深く印象に残っていることが、ふりかえりシートから見受けられました。区版センター等に対して寄せられる「何か活動を始めたい・参加したい」といった相談対応においても当てはまる大切な基礎として学ぶことができました。

課 題

- 相談対応におけるコーディネート能力の底上げをねらいとして、基礎的な内容を学ぶ機会として対象・内容を企画したが、参加者の多くは中堅層の職員でした。
- ボランティアコーディネートの体系化された知識・スキルを身に着けるためには、単発での講座実施では限界があるため、今後は、センター職員の所属年数に応じて、継続的にスキルアップできる機会として、研修を企画していくことが課題です。
- 区における相談対応におけるボランティアコーディネートは、今後、さらに向上させていく必要がある部分です。個人のスキルアップはもちろん、来館者（相談者）がセンターに来た記録を残し、別の機会に活動につなげるための仕組みを共通化していくことで、より活動につながる機会が増えると考えられます。



5) 「センター運営 Q&A」の更新

2013 年度に基礎的な事項を作成し、その後ネットワーク会議の学び合いの成果を基に更新してきました。今年度も、ネットワーク会議で取り上げたテーマに関する内容を「センター運営 Q&A」に加えました。

市民活動支援センター 運営 Q & A 集 項目

- | | |
|---|----------------------------------|
| 1. 非営利性って、どういう意味？ | 10. 地域課題の解決に向けた支援ってどうしたらよい？ |
| 2. 公益性って、どういうこと？ | 11. 地域に出るための工夫は？ |
| 3. ミーティングルーム（利用登録の必要がない場所）は、誰が何をしてもいいの？ | 12. センターの効果的な空間づくりの工夫は？ |
| 4. 会議室の利用条件は？ | 13. 民間委託化におけるメリット、デメリットはなに？ |
| 5. チラシ等の配架基準は？ | 14. 現状、設置されている方面別拠点（ランチ）はどんなところ？ |
| 6. 区民のニーズを知るためにはどうしたらよい？ | 15. 団体支援の目的や具体的な取組方法は？ |
| 7. センターが行う情報提供ってどんなもの？ | 16. 施設連携の目的や具体的な取組方法は？ |
| 8. 個人情報の取扱いって、どこまで注意が必要なの？ | 17. 広報紙の目的や具体的な取組方法は？ |
| 9. 事業の振り返りってどうすればよい？ | 18. 相談対応（個人・団体）の手順や留意事項は？ |

4. 市民活動マネジメント支援事業

～体系的な支援メニュー、実践している団体との連携で力強くサポート～

一つの団体でも、立ちあげ期に発生する課題、組織が安定するまでの過渡期での課題、年数がたってからの変革期に現れる課題など、その時々で抱える課題が変わります。また、団体に属する個人としても、組織を引っ張るリーダーとして、また会計や労務の担当者としてなど、役割の中で様々な課題を感じ勉強したいと考える方がいます。

これらを踏まえ、2016年度は、学びの機会に相談の機会もあわせ、団体にも個人にも、より体系的に力強くサポートできる体制づくりに取り組みました。



実施したこと

1) NPO 運営基礎講座「NPO 法人知っとくセミナー」の開催（よこはま夢ファンド事業）

実施した内容

NPO 全体の基礎体力アップに向けて、団体運営の基盤強化を目的とする講座を開催しました。特に、団体立上げ後、運営に慣れていない、あるいは活動を継続しているが、まだ運営が安定していない団体を対象として、団体運営の基礎に関すること、および寄付の集め方（ファンドレイジング）の初級編をテーマにしました。

午前の部 『NPO 法人の事務編』 2017年3月6日(月) 10:00-12:00 ◆講師：加世田 恵美子 ／関尾 潤／薄井 智洋 (横浜市市民活動支援センター)	内容 ・ 法人事務の年間スケジュール ・ 総会の開催手順 ・ 所轄庁等への届出 ・ 日常的に発生する事務 ・ 寄付の集め方(ファンドレイジング) など 参加者：28名 とても参考になった 17名(63.0%) 参考になった 8名(29.6%) やや参考になった 2名(7.4%) 参考にならなかった 0名 <ふりかえりシートより> ・ 総会までの流れや、その後のことなど、細かな話でとても良かったと思います。事務についてのかみくだいた話の内容は、ありがたいと思いました。ファンドレイジングは大変興味深いです。 ・ 事業報告書に写真の添付が効果的なので取り入れたいと思いました。
午後の部 『組織・計画づくり編』 2017年3月6日(月) 13:15-17:00 ◆講師：呉 哲煥 氏 (NPO 法人 CR ファクトリー代表理事)	・ NPO・市民活動組織のマネジメントの基礎 ・ 新たな仲間の巻き込み方 ・ 年間計画のつくり方 参加者 21名 大いに活用できる内容だった 11名(57.9%) 活用できそうな内容がいくつかあった 8名(42.1%) 活用できるのではないかと感じた 0名 活用できるかまだ分からない 0名 <ふりかえりシートより> ・ "メンバースタッフに対して報酬を与えていたかどうか。どんな思いで働いているかを理解することの重要性を掴むことができました。 ・ スタッフのモチベーションをあげるための「愛着」「関係性」の大事さをもとに活用していきたいと思いました。年間計画のシートも活用したいですし、ポスティングを用いたワークショップも取り入れたいです。 ・ 人の巻き込み方。当事者意識を持てるようになるためにはどうしたらよいか、そのプロセスが分かりやすかった。

成 果

多くのNPO法人が総会準備や事業報告・計画の作成に取り掛かるタイミングで開催した今回のセミナー。今後、具体的にどのように作業を進めていけばよいのか理解することをねらいとしたところ、ふりかえりシートでは、総会までの

流れを整理して知ることができたという声が多く聞かれました。また、ファンドレイジングについても、関心を持つきっかけを提供することができました。

午後の組織・計画づくり編では、多くの団体が悩みとして抱える人の問題について、NPO における人材の特性を理解したうえで、仲間や支援者を増やしていくためのプロセスやポイントを解説していただきました。講義とワークを通じて、自分たちの団体なりにどのようなアプローチができるのか、それぞれにヒントを得ることができました。

課 題

NPO 法人の事務については、全体的な流れを伝えることができましたが、例えば総会に関して実際にどのような準備が必要となるのか、など、具体的に詳しい事務の方法を伝えるまでには至りませんでした。また、所轄庁に提出する事業報告書に写真を掲載することが可能であることを初めて知る方もおり、そうした細かい工夫やノウハウを、団体間で共有していくことで、今後、NPO 法人のさらなるブラッシュアップにつながるのではないかと思います。

2) 会計・税務に関する講座（よこはま夢ファンド事業）

※NPO 法人税理士による公益活動サポートセンターとの協働事業

実施した内容

2016 年度の「よこはま NPO 会計塾」は、昨年度同様、会計知識を身につけるのはこれからという会計初学者向け講座「簿記 基本のキ！」と、会計・経理担当をしているが活動計算書や税務をさらに学びたいという方向けの講座「テーマ編」を実施しました。

基本編「簿記 基本のキ！」 / 会計初学者向け / 3 回連続講座

【第 1 回】 7/6 (水) 14:00～17:00	主な内容	「仕訳の仕方を学ぼう」 ・簿記とは ・簿記一巡の手続き ・簿記特有の言葉 ・仕訳の仕方 講師：吉澤 寿朗氏、サポート講師：松本 理美氏
	結果	参加者数：23 名 アンケート平均点：87.6 <ふりかえりシートの声> ・簿記未経験者にとってもわかり易い内容でした。 ・複式簿記の必要性が理解できましたが、それをどのように管理、運用するか、Excel をどう活用するか、会計ソフトは必要かといった話を詳しく聞きたいです。
【第 2 回】 7/13 (水) 14:00～17:00	主な内容	「帳簿を作ってみよう」 ・帳簿の種類 ・仕訳帳から総勘定元帳へ 講師：吉澤 寿朗氏、サポート講師：松本 理美氏
	結果	参加者数：19 名 アンケート平均点：65.5 <ふりかえりシートの声> ・収益・費用勘定の締め切りが難しかったです。実際に演習問題をした方が理解しやすかったです。 ・演習を多く取り入れて欲しい。

第3回】 7/20（水） 14:00～17:00	主な内容	「決算整理を知り、試算表を作ってみよう」 ・決算整理（未収・未払、減価償却、棚卸など）とは ・試算表とは 講師：吉澤 寿朗氏、サポート講師：松本 理美氏
	結果	参加者数：20 名 アンケート平均点：79.0 ＜ふりかえりシートの声＞ ・机の配置を活かし、グループ作業があっても良いと思います。 ・全体が少しずつ見えてきました。繰り返し演習が必要ですね。

テーマ編 / 会計・経理担当者向け / 講義 4 回 演習 1 回

【第1回】 7/27（水） 14:00～17:00	主な内容	「NPO 会計の全体像を知る」 ・NPO 会計とは ・1 年間の流れ ・日々の処理、月次の処理 ・税金の種類 講師：勝間田 佳代子氏
	結果	参加者数：18 名 アンケート平均点：81.4 ＜ふりかえりシートの声＞ 難しい会計の方法をうまく説明していただき理解がすすみました。 たくさんの過程があり非常に難しく困難でした。ゆっくりと復習してみます。

【第2回】 8/ 3（水） 14:00～17:00	主な内容	「活動計算書について」 ・勘定科目の設定 ・決算に必要な準備 ・区分経理とその方法 ・活動計算書の作り方 講師：勝間田 佳代子氏
	結果	参加者数：18 名 アンケート平均点：78.3 ＜ふりかえりシートの声＞ はじめて会計塾に参加させていただきました。自分自身知識不足なところもあり、少し難しいところもありましたが、講座はあっという間で集中して聞けました。

【演習回】 8/10（水） 14:00～17:00	主な内容	「活動計算書を作ってみよう」 例題として、実際に活動計算書を作成してみる 講師：勝間田 佳代子氏、サポート講師：澤田 茂氏
	結果	参加者数：8 名 アンケート平均点：85.7 ＜ふりかえりシートの声＞ 数字の意味づけをもう少し理解できるように復習したい。決算振替仕訳の考え方が難しかった。

【第3回】 8/24 (水) 14:00~17:00	主な内容 「税務手続き その1 ～法人税～」 ・NPO 法と法人税法の会計区分 ・収益事業とは ・各種届出書 ・法人税申告書 講師：三浦 利彦氏
	結果 参加者数：21 名 アンケート平均点：88.3 <ふりかえりシートの声> 税について全く無知でしたので、少し理解でき、税理士さんに全面的に託すことなく、業務をしていこうと思いました。

【第4回】 9/ 7 (水) 14:00~17:00	主な内容 「税務手続き その1 ～消費税他～」 ・消費税の仕組み ・一般課税と簡易課税 ・源泉所得税の仕組み ・各種届出書 ・申告書 講師：三浦 利彦氏
	結果 参加者数：21 名 アンケート平均点：86.4 <ふりかえりシートの声> 届け出のポイントなど一番気になるところを教えていただけて良かった。



成 果

基礎編では、全ての回でサポート講師を配置したため、受講生に対する細やかな対応が可能となり、昨年度に比べ、全体的に理解度や満足度の高い講座となりました。講座の前後や休憩時間には、講師に積極的に質問をする受講生の姿が見受けられました。また、帳簿の作成など、受講生にとって最も難解な内容を第2回目に行なったことで、第3回目の講義が理解しやすくなり、受講生にとって講座の最後に達成感のあるプログラムとなりました。

基礎編・テーマ編ともに、会場レイアウトを昨年度までのスクール形式から島形式に変更し、グループごとに学び合い、相談し合う雰囲気生まれました。他団体の活動内容や会計の悩みを共有する貴重な機会となりました。

課 題

受講者数が減少した要因として、県民サポートセンターにおいても同様の会計講座（「講座名確認中」）を実施していることが挙げられることから、次年度に向けては、県サポートセンターおよび共催の「NPO 法人税理士による公益活動サポートセンター」と連携し、開催内容の改善、振り分け、広報の協力などを行っていくことが必要です。当センターとしては、基礎編のみの開催とし、開催回数を 3 回から 4 回に増やすことで、さらなる理解度や満足度のアップにつなげるプログラムについて検討しました。

【講師陣との会計塾振り返りと次年度プログラム検討会】

開催日：2016 年 10 月 3 日（月）14：00～16：00 参加者 8 名

全講座終了後、講師陣・事務局・市民活動支援課（認証班）が一堂に会し、2016 年度会計塾について受講者の視点、講師の視点、制度の視点からの振り返りを実施しました。

受講後に実施したアンケートの集計結果を元に、受講生の理解度や感想・気づきについて情報共有し、次年度に向けてより学びの進む講座について検討しました。特に、基礎編については、全ての回でサポート講師を配置したため、受講生に対する細やかな対応が可能となり、昨年度に比べ全体的に理解度や満足度の高い講座となりましたが、理解度が低い回があったことから、その回の内容を 2 回に分け、時間をかけて学ぶプログラムに改善できないか検討しました。また、少人数を想定したグループワーク形式の学びの可能性などについても意見交換しました。NPO の制度面においては、平成 27 年度「特定非営利活動法人に関する基礎調査報告書」（抜粋）を元に情報共有を行い、NPO 法人会計基準への移行割合や、そのための広報について意見交換しました。

3) アドバイザー等派遣（よこはま夢ファンド事業）

実施した内容

希望する団体に対し、税理士や社会保険労務士といった、専門アドバイザーを派遣しました。「よこはま NPO 会計塾」や「よこはま NPO 労務塾」を受けて得た知識を、実際に組織内で取り入れる際のフォローアップとして活用できることも、積極的に周知しました。

【専門家種別】 税理士	派遣回数	7 団体 8 回
	主な 相談内容	・NPO 法人として初めての決算を迎えるにあたり、会計処理に誤りがないかを確認するため。また、法人税等の税務処理及び申告書作成に問題がないか。 ・横浜市からの委託事業が新規に始まったが、収益事業に該当するかどうか。該当する場合、法人税の算出方法や申告方法についてアドバイスをいただきたい。 ・「貸借対照表」「財産目録」を提出するにあたり、法人化前の財務を会計上どのように取り扱えば良いか。 ・NPO 法人としてふさわしい会計方法を専門家にご指導いただきたい。 ・今の会計方法が NPO 法人として適正なのか疑問があり、活動計算書の様式に変更したい。その場合、活動計算書の勘定科目に現在の使用している科目

社会保険労務士		をどう振り分けたらよいか、専門家にアドバイスしていただきたい。 ・NPO 法人用会計ソフトを購入し、NPO 会計基準に則った会計処理へと変更したが、勘定科目や部門設定を正しく行えているか不安があるので、専門家に相談したい。
	主な相談内容	・変形労働を踏まえた給与計算方法になっているか、また、給与ソフトを用いた方が良ければ、どの給与ソフトが良いのか。就業規則についても確認してほしい。

成果

「税理士による無料予約相談会」で基本的なことを相談し、さらに相談したい内容がある場合はアドバイザー派遣を利用していただくという流れを構築することができました。アドバイザーが団体の事務所に直接出向き、約 2 時間かけて丁寧なアドバイスを行なうため、団体の様々な悩みや困りごとにも対応できる貴重な相談の機会となっています。

また、今年度からセンターへの委託事業となり、申請から派遣決定までをセンター内で行うことができるようになったため、申込み団体へのスピーディーな対応が可能となりました。

課題

税理士による無料予約相談会とアドバイザー派遣の違いや、それぞれのメリット・デメリットを一覧表にするなど、専門アドバイザーを必要としている団体がいつでも気軽に相談できるように工夫することが必要です。

4) 税理士による無料予約相談会【新規】

※NPO 法人税理士による公益活動サポートセンターと共催

実施した内容

日常の会計処理、NPO 会計基準に則った決算書類の作り方など会計に関する様々な疑問や悩みに気軽に相談ができる場として、7 月から毎月第 2 火曜日に、「税理士による無料予約相談会」を実施しました。

※ 1 日当たり 3 団体の相談を受け付けました。

(1 団体あたり 40 分)

※相談対応団体合計数：24 団体



【7月12日】	対応団体数 担当税理士	3団体／勝間田 佳代子氏
	主な 相談内容	・委託事業収益に係る一般管理費相当額の収益額はどのように処理すればよいか。 ・講師派遣料収入と、電話相談の委託収入は課税事業になるか。 ・事業内容が収益事業に該当するか否か。
【8月9日】	対応団体数 担当税理士	2団体／板倉 幸子氏
	主な 相談内容	・帳簿など会計書類について。給与・報酬に対する源泉。 ・会計のまとめができる人材を育成したい。
【9月13日】	対応団体数 担当税理士	2団体／荒井 枝美氏
	主な 相談内容	・現在の決算書形式が活動計算書として通用するか。 ・任意団体から法人化を検討中、税務面で留意することは。
【10月11日】	対応団体数 担当税理士	3団体／宮原 牧子氏
	主な 相談内容	・国税、県税、市税、法務局、市役所等への提出書類のチェック。 ・収益、非収益の按分について。
【11月8日】	対応団体数 担当税理士	3団体／澤田 茂氏
	主な 相談内容	・無償ボランティアの会計処理について。 ・財務諸表の見方について。 ・勘定科目の体系、納税負担について。
【12月13日】	対応団体数 担当税理士	3団体／柳澤 泰子氏
	主な 相談内容	・職員給与の記帳方法、社会保険の処理、職員の所得税。 ・月一回のバザー開催は物品販売として収益事業の扱いになるか。 ・不動産取得税、固定資産税の減免について。
【1月10日】	対応団体数 担当税理士	3団体／近藤 千冬氏

	主な 相談内容	・スタッフ、ボランティアについての源泉徴収方法について ・各事業所の財務諸表の合算、金融機関への対応方法について ・NPO 法人の税金について
【2月14日】	対応団体数 担当税理士	2 団体／三宅 啓之氏
	主な 相談内容	・委託事業費の精算、消費税について ・NPO 会計への移行について
【3月14日】	対応団体数 担当税理士	3 団体／羽石 一夫氏
	主な 相談内容	・使用している会計ソフトの使い方、勘定科目の付け方などについて ・放課後デイサービス事業が収益事業に該当するか ・寄付金と協賛金の違い、サッカー大会を運営した収支はどうなるか

【同席】 横浜市市民活動支援センター職員：加世田恵美子・宮澤勝子

成 果

税理士による無料予約相談会で解決できない内容に対しては、アドバイザー派遣をお勧めすることで、団体の会計を正しく確実なものとするための支援体制を構築することができました。

また、税理士による無料予約相談会への問合せ内容を詳しくヒアリングすることで、内容や希望日時によっては、「管理者による予約制相談会」などをご案内することもあり、団体にとってはセンターの相談事業全体を知っていただく機会となり、センターとしては相談件数全体の増加につながりました。

さらには、当センター職員が同席することで、活動団体が会計のどこをつまづきやすいのかを詳しく知る機会にもなりましたので、今後の講座運営や相談対応に活かします。

課 題

次年度に向けては、相談会を利用された団体にアンケートを実施するなど、共催の「NPO 法人税理士による公益活動サポートセンター」とさらに連携し、満足度の高い相談会となるよう検討していく必要があります。

また、会計に関するよくある悩みについて、職員全体で共有し、団体からの簡単な質問や相談などに対応できる体制づくりについても検討が必要です。

5) 税理士有志との勉強会への協力

開催日：2016 年 10 月 11 日（火）13：00～16：00 参加者 25 名

NPO 法人の中にも、税理士に相談したり、顧問契約を検討する団体が増えてきました。しかし、実際に NPO 法人の会計に関わり、実態を理解している税理士はまだ少数のため、「NPO 法人税理士による公益活動サポートセンター」の会員税理士に対し、NPO 会計の理解促進と NPO 法人の実状把握のための勉強会を開催しました。

6) 労務実践者講座（よこはま夢ファンド事業）

実施した内容

開催日：2017年2月23日（木）10：00～16：00

組織は“人”からできています。その“人”がいきいきと働ける職場づくりをめざし、昨年度に引き続き、労務管理の基礎を学ぶ講座と、働き方の工夫をしている法人の事例紹介を行う講座である「よこはまNPO労務塾」を開催しました。

【開催日】 2月23日(木) 10：00～16：00	主な内容 講師	「労務管理の全体像」編 10:00～11:30（90分） 労働保険、社会保険など雇用側がすべきこと。いつ、どこに、何を提出するのか。必要な規則、規程とは。 講師：飯田剛史氏 （社会保険労務士法人・Dフロンティア代表／特定社会保険労務士） 「様々な労務規程、手続き」編 13:00～15:30（60分） 雇用契約、勤務時間管理、有給休暇等管理、服務規程等に関する考え方や整備の仕方とは。 講師：飯田剛史氏 （社会保険労務士法人・Dフロンティア代表／特定社会保険労務士） 「実際の労務管理を知る」編 14:00～15:30（90分） ～NPO 法人事例紹介～ 労務管理上で特に苦労したこと、工夫したこと。労務管理の整備と法人の成長の関係 など <発表者> ・關 富美子氏（認定 NPO 法人ワーカーズ・コレクティブ 樹 理事長） ・服部 恵津子氏（認定 NPO 法人だんだんの樹 理事長） <コーディネーター> 横浜市市民活動支援センター 責任者 吉原 明香（認定 NPO 法人市民セクターよこはま） <アドバイザー> 飯田 剛史氏
	結果	参加者数：午前の部 29 名、午後の部 30 名 アンケート平均点：午前の部 90.2、午後の部 90.6 <ふりかえりシートの声> ・まだ職員が少ないのですが、労務既定を手直ししながら作っている所です。本日の研修を参考にもう一度見直してみたいと思います。 ・労務トラブルの件、就業規則の件把握できて良かったです。



成果

午前・午後の講義で、具体的な労務管理の仕方や必要な手続きを知り、パネルディスカッション形式の事例紹介で、現場の生の声を聞くというプログラムは、アンケート結果（午前の部 90.2、午後の部 90.6）からも、非常に満足度が高く、「また開催して欲しい」「年に数回開催して欲しい」などの感想をいただきました。

また、疑問点や確認点が明確になったとの感想があり、その後の相談対応からアドバイザー派遣事業をご紹介します、団体の労務管理の整備に大いに貢献することができました。

課題

次年度に向けては、今年度のプログラムを踏襲しつつ、アンケートに記載されていた「質問時間がもう少し欲しい」「パネルディスカッション 3 団体の生きたお話は参考になった」などの感想を参考にしながら、労務を身近に感じてもらえるような講座となるようさらなる工夫が必要です。

7) NPO 法人設立講座の共催

いずみ区民活動支援センター、市民活動支援課 NPO 法人認証班と NPO 法人設立講座を共催し、設立に関する事務手続きの説明の際に併せて、NPO 法人の共通理念の大切さと事務の流れを説明する機会を設け、NPO 法人の共通理念を理解していただく機会を設けました。

実施した内容

◆ 開催日：2016 年 6 月 3 日（金）9：30～12：00

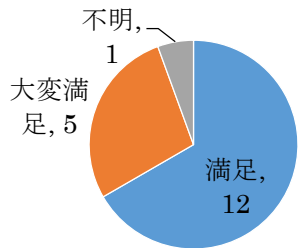
なぜ NPO 法人になるのか、法人としての義務、法人の目的・名称の定め方、仲間の集め方や役員の決め方、総会の開催方法、運営に必要な労務や会計の準備など、ワークを踏まえて学ぶ機会としました。

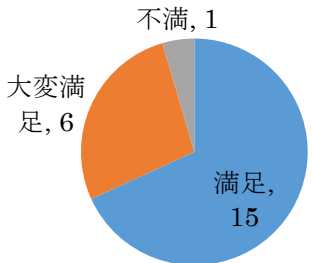
◆ 開催日：2016 年 6 月 10 日（金）9：30～12：00

市民活動支援課認証班の職員を講師に、NPO 法人設立の流れを知り、実際に使用する申請書類の書き方ワークを実施。泉区の NPO 法人をゲストにお招きし、申請時の苦労などを振り返っていただきながら、NPO 法人の運営の難しさややりがい、法人としての未来をお話いただきました。

「本気でつくる NPO」 ～NPO 法人設立に必要な準備と手続き～

対象：NPO 法人の設立を考えている、泉区在住、在勤、在学者 / 2 回連続講座

【第 1 回】 6/3（金） 9:30～12:00	主な内容 「想い」を「カタチ」にする NPO 運営方法 ・法人としての義務、法人の目的・名称の定め方、仲間の集め方や役員の決め方、総会の開催方法、運営に必要な労務や会計の準備など、ワークを踏まえて実施。 講師：吉原明香（横浜市市民活動支援センター 責任者）									
	結果 参加者数：20 名 アンケート評価 <table border="1"> <tr> <td>満足</td><td>12</td></tr> <tr> <td>大変満足</td><td>5</td></tr> <tr> <td>不明</td><td>1</td></tr> <tr> <td>やや不満</td><td>0</td></tr> <tr> <td>不満</td><td>0</td></tr> </table>  ＜ふりかえりシートの声＞ ・本気で作ろうと思っていないで参加したが、講義もグループワークもとても興味深く参加できた。 ・NPO に対しイメージが全く持てていなかったのが、少し持てるようになった。 ・楽しかったし自分のやりたいことが整理できた。 ・自分の考えがまとまっていなかったので、もう少し具体的に考えをまとめてから参加した方が良かったかなと思った。	満足	12	大変満足	5	不明	1	やや不満	0	不満
満足	12									
大変満足	5									
不明	1									
やや不満	0									
不満	0									

【第 2 回】 6/10（金） 9:30～12:00	主な内容 手続きの概要と申請書類の書き方、ミニシンポジウム NPO 法人設立の流れを知り、実際に使用する申請書類の書き方ワークを行いました。ミニシンポジウムでは、泉区の NPO 法人をゲストにお招きし、申請時の苦労などを振り返っていただきながら、NPO 法人の運営の難しさややりがい、法人としての未来をお話いただきました。 【登壇者】 ・泉 直子氏（NPO 法人 ちょこつといずみ（泉区緑園）理事長） ・武井 麻衣子氏 （NPO 法人 総合教育サポート グレースファミリー（泉区中田北）理事長） 【コーディネーター】 吉原明香（横浜市市民活動支援センター 責任者）					
	結果 参加者数：22 名 アンケート評価 <table border="1"> <tr> <td>満足</td><td>15</td></tr> <tr> <td>大変満足</td><td>6</td></tr> <tr> <td>不満</td><td>1</td></tr> </table> 	満足	15	大変満足	6	不満
満足	15					
大変満足	6					
不満	1					

＜ふりかえりシートの声＞

- ・手続きや申請書類の書き方など大変わかりやすくて良かった。
- ・具体的な話が聞けたシンポジウムの内容がとても良かった。
- ・NPO 設立のステップ・アプローチが見えてきた。
- ・NPO 法人した 2 人の話が聞けたのがとても良かった。定款の書き方などはすごく難しく、引き続き相談したいと思った。

成 果

講座では「NPO って何だろう」というポイントも含む NPO 法人設立手続きまで、受講者の 8 割以上の方から「大変満足」「満足」という評価をいただきました。いずみ区民活動支援センターと共催することにより、区民の方々へ直接声をかけることが出来たため、関係性を築けている状態で講座を始めることができました。

課 題

講座の満足度については、受講者のほとんどから「大変満足」「満足」の結果をいただいたが、「大変満足」と回答した受講者が「満足」を下回った理由の 1 つには全体の時間不足、講座内容の消化不足が考えられます。NPO について漠然とした知識がついたという利点はあるものの、申請書類の書き方等を含め実用的で難しい内容も含まれており、理解を深められなかった部分もあるため、個別相談の時間を設けるなど、対策を考える必要があります。

NPO 設立のステップが簡単にわかる！

本気でつくるNPO

NPO 法人設立に必要な準備と手続き

NPO 法人化を考えているけれど、具体的にどう動けばいいかわからないという区民の疑問におくる NPO 法人設立講座。今の動向をより実証させ、更なる社会貢献を考えている方へこの講座で法人化への一歩をいっしょに踏み出しましょう。

第1回 平成28年6月3日（金）9時30分から12時
「想い」を「カタチ」にするNPO 運営方法
 なぜNPO 法人になるのか、法人としての義務、法人の目的・使命の定め方、仲間の集め方や意思の決め方、資金の調達方法、運営に必要な役割や役割の準備など、ワークを通して具体的に学んでいきます。

第2回 平成28年6月10日（金）9時30分から12時
手続きの概要と申請書類の書き方、ミニシンポジウム
 NPO 法人設立の流れを知り、実際に使用する申請書類の書き方を学びます。また、選定の NPO 法人をゲストにお招きし、申請時の苦労などを語り交わっていただきます。NPO 法人の運営の難しさとやりがい、法人としての未来を話し合います。

【会 場】 東区民会館 4F 会議室
 【期 間】 NPO 法人の設立を考えている、東区在住、在勤、在学等、希望者 20 名
 応募希望の場合は抽選を行います。抽選結果は 5 月 8 日（月）までに知らせます。
 ※1 回講座と懇談会を併催します。懇談会により、ご希望の希望が可能です。
 また、すでに NPO 法人で、運営方法について改めて考えたい方も参加してください。

【一 覧 表】 あら（区民から申込者まで参加します。応募希望の場合は抽選を行います。）
 【受 取 料】 無料（一 般 社 会 団 体）
 【申 込 日】 平成 28 年 5 月 26 日（木）まで（日、電話、FAX、Eメール又は郵送受付）
 いずみ区民活動支援センター 504 窓口まで、申込書（すでに印刷されている団体の場合は、団体名）を、住所、電話番号、一 般 社 会 団 体の名称を記入してください。

【お 合 計】 いずみ区民活動支援センター 電話 3300-2333
 FAX 3300-2518
 Eメール is-senwa@city.yokohama.jp
 いずみ区民活動支援センター 横浜市市民活動支援センター 横浜市市民活動支援センター 2 階



8）認定・指定 NPO 法人との連携したマネジメント支援

横浜市内の認定・指定 NPO 法人と連携することで、市民活動団体の運営・活動をより実践的に支援するべく、具体的には、市民活動マネジメント支援事業の 1) 6) 7) の事業を中心に、認定・指定 NPO 法人が持つ強みや実践的なノウハウをお話していただく機会を設け、支援につなげる企画を立ち上げました。

労務実践者講座では、認定 NPO 法人 2 団体（「認定 NPO 法人ワークス・コレクティブ樹」「認定 NPO 法

人だんだんの樹」)によるパネルディスカッション形式の事例発表の時間を設けました。実際に今までにどのような苦労があって、今どう運営しているのかについて、お話ししていただくことで、受講された方が労務を身近にとらえることができるようになりました。

animato19号では、「認定 NPO 法人あっとほーむ」代表の小栗ショウコさん取材し、法人の活動内容や法人立ち上げに至るまでの経緯などを掲載しました。

9) PRO NPO (第5期) (よこはま夢ファンド事業)

NPOの社会的価値を高めるとともに、組織や自分自身のレベルアップを目指し、NPO法人等で実務を担う役員・スタッフの方々を対象とした全6回の連続講座を実施しました。

実施した内容

カリキュラムは、昨年度の重層的な視点からNPOを考える構成「組織マネジメント(1・2回)」「個人のスキルやキャリア(3・4回)」を踏襲しつつ、一部講師・テーマを見直しました。また例年実施している現地見学会においては、横浜を飛び出し他都市で活動しているNPO団体を訪問しました。

【第1回】 9月21日(水) 13:30~17:30 @横浜市市民活動支援センター	主な内容 「想い」を「カタチ」にする NPO 経営戦略① ～何のために存在するのか？組織使命(ビジョン・ミッション)を考える～ ※社会課題の解決に取り組む上で欠かせない戦略的な考え方について、1～2回の講義で学び合いました。 講師：山元 圭太氏(株式会社 PubliCo 代表取締役 COO)
	結果 参加者数：11名 アンケート平均点：85.0 <ふりかえりシートより> 組織の活動目的が大きく、漠然としていること(組織使命が明確化されていないこと)が、活動意欲の低下や団体としてのエネルギー欠如の原因になっていることがわかり、その解決の道を考えて行くきっかけとなりました。
【第2回】 10月19日(水) 13:30~17:30 @横浜市市民活動支援センター	主な内容 「想い」を「カタチ」にする NPO 経営戦略② ～社会的インパクトを創出するロジックを考える～ ※社会課題の解決に取り組む上で欠かせない戦略的な考え方について、1～2回の講義で学び合いました。 講師：山元 圭太氏(株式会社 PubliCo 代表取締役 COO)
	結果 参加者数：13名 アンケート平均点：92.1 <ふりかえりシートより> ロジックモデルを作成することで、自分が漠然と考えていたことや、その考えをどのように行動に移していくかが明確になると感じました。

【第3回】 11月16日（水） 13:30～17:30 @BUKATSU DO	主な内容	「場づくり®」というアプローチ ※「場づくり」について、理論（哲学）と実践方法（技術）について学び、自分が本当にやりたいことの本質に迫りました。特に組織運営の肝である会議の進め方について着目し、自分の内面と活動の現場をどうリンクさせていくか考え合いました。 講師：長田 英史氏（NPO 法人れんげ舎 代表理事）
	結果	参加者数：14 名 アンケート平均点：94.3 ＜ふりかえりシートより＞ 会議とは出会いの場であり、意思決定の場である。会議は団体としての意思決定の場である認識はあったが、これが出会いの場であるためには、団体としての意思決定をするためには、相互理解のための出会いの場である認識も必要だと思った。そのためにも会議のステップの内 ②質問や③意見のプロセスは大切。
【第4回】 12月21日（水） 13:30 ～ 17:30 @BUKATSU DO	主な内容	“自分”再発見 ※自分自身の過去を振り返りながら、自分らしさ（自分の軸）を認識し、未来につながるマイヒストリーをワークを踏まえて考え合いました。 講師：吉原 明香（横浜市市民活動支援センター責任者/認定 NPO 法人市民セクターよこはま事務局長）ファシリテーター：関尾 潤（同職員）
	結果	参加者数：9 名 アンケート平均点：85.0 ＜ふりかえりシートより＞ NPO の活動には想いとエネルギーが必要。共有する想いはあっても、そこに至る過程、人生の経験は様々であり、みんな同じ想い・・・で始めた活動がうまく行かない時には、立ち止まってそれぞれの“自分”を再発見し、相互に語り、理解しあうことが解決につながることもあった。
【第5回】 1月18日（水） 11:00～17:00 @世田谷区	主な内容	他都市 NPO 団体見学ツアー ※コミュニティづくりの視点で、世田谷区（自由が丘～二子玉川）の注目事例をフィールドワーク形式で学びました。見学場所：地域共生のいえ 2ヶ所（「シェア奥沢」「ぬくぬくハウス」）、NPO 法人 ら・ら・ら
	結果	参加者数：12 名 アンケート平均点：90.5 ＜ふりかえりシートより＞ 皆さんの、エネルギーというか、気持ちのパワーの大きさを感じました。自分のモチベーションがあがりました。

【第 6 回】 2 月 15 日 (水) 13:30～17:30 @横浜市市民活動 支援センター	主な内容	未来は変えていける ～社会通念の相対化“常識を疑え”～ 講演では、ものの見方・視点をいつもと変えて、常識を疑いながら自分自身を見つめ直すことなど、新たな日常を創造するために大切な気づきを学び合いました。また、成果発表では、第 1 回から第 5 回までの内容を踏まえて、これからの団体の活動について考えた内容を発表し合いました。 講師：長田 英史氏（NPO 法人れんげ舎 代表理事）
	結果	参加者数：11 名 アンケート平均点：96.7 <ふりかえりシートより> NPO の活動のみならず、日ごろの行動でも、思い込みや憶測から不安がひとり歩きし始めた時には、その懸念の根拠を見直し、早い段階で、一緒に行動をする仲間でその思いを共有することが、無駄な遠回りを回避できると思った。一緒に仲間だけに、言わなくても分かり合える関係ではなく、常にお互いの思いを確認しあえる関係の構築が組織としては大切であると思った。

成 果

社会的課題に対するアプローチ方法や、ニーズを知り、社会のしくみをつくるための方法について、受講生同士で学びあい、育ち合うことのできる講座となりました。特に第 1～3 回の講座では、講義やワークを通じて、団体運営の具体的なスキルを学ぶことができました。日々の活動についてふりかえる機会となり、団体運営の改善策を見つけていくために必要な力を身に付けることができました。

また、第 1 回目と第 2 回目の間に、組織全体で考える宿題を設定したため、受講生が中心となり自団体のミッション・ビジョン・インパクトについて各組織で問い直す貴重な機会を作り出すことができました。

課 題

「PRO NPO」は今年度で 5 期目が終了し、毎年受講生の満足度が大変高い講座です。次年度に向けては時代の要請を踏まえ、対象やコンセプトなどを見直すなど、将来を見据えた企画の検討が必要です。



5. ネットワーク構築事業

さまざまな社会的問題・地域課題の解決に取り組む市民活動や地域活動の団体と、そこにつながる多様な主体（企業・大学・行政など）とのネットワークづくりの土台をつくるための、協働についての基礎調査を実施しました。多くの団体から回答をいただき、内容については、今後さらにヒアリングなどで補完していきます。

実施したこと

1) よこはま市民パブリック★スクールとフォーラムの実施

2014年度に横浜市内の全NPO法人を対象として行った調査結果を受け、2015年度から「介護保険改正に伴う地域支え合いのしくみ再構築」をテーマに取り組んできました。今年度は、引き続き当テーマに関する取り組みを進めるとともに、2つ目のテーマとして「今後の市民活動支援の在り方について」を新たに設定し、取り組みを始めました。

<介護保険制度の見直しに伴う地域支え合いのしくみ再構築>

実施した内容

介護保険制度の見直しという節目にあって、活動のスタイルも世代も変化の兆しが見えてきた中で、他都市や横浜から注目の事例を学び合い、地域活動のこれからを考える機会として、地域支え合いフォーラムを開催しました。

■介護保険制度の見直しに伴う地域支え合いフォーラム

7月22日（金） 18:00～20:45 @横浜市情報文化 センター6階 ホール	主な内容	プログラム 「団塊の世代が75歳以上となる2025年に向けて」 横浜市健康福祉局 実践報告 ～横浜及び他都市の事例紹介～ 事例1:介護保険事業と「様々なインフォーマル活動に取り組んでいます」 認定NPO 法人じゃんけんぽん(群馬県高崎市) 報告者:井上 謙一 氏(認定NPO 法人じゃんけんぽん 理事長) 事例2:「プラチナ世代ならではの」活動があります NPO法人グループたすけあい(青葉区) 報告者:清水 雅子 氏(NPO法人グループたすけあい 理事長) 事例3:支え合いのまちは「お互いの元気を引き出す」あったかいまちです 千丸台地区社会福祉協議会(保土ヶ谷区) 報告者:南出 俊男 氏(千丸台地区社会福祉協議会 会長)
---	-------------	--

		事例4:「これからどんな暮らしがしたいか・・・」の先に、Cafeがありました Cafeハートフル・ポート(旭区) 報告者:五味 真紀 氏(Cafeハートフル・ポート 店主) ディスカッション 実践報告者の方たちと会場の参加者を交えて、ディスカッションを行いました。 コーディネーター 清水 洋行 氏(千葉大学文学部 地域社会学・都市社会学専攻) 吉原 明香(横浜市市民活動支援センター 責任者)
	結果	参加者数：220 名 アンケート平均点：86.8 ＜アンケート（参加者の声）より＞ ・これからの時代に向けて、少しイメージが持てました。また自分が何ができるか、より何がしたいかを考えるよいきっかけとなりました。 ・最近生活支援コーディネーターとなりましたが今日発表された方たちがまさに、それにあたると感じました。地域の方からいろいろ学んでいきたいとあらためて感じました。 ・モチベーションがあがりました。ありがとうございます。行政は支援という立ち位置ではなく、パートナーとして同じ視線で協働すべきと改めて思いました。一方で・・・「2 時間半の中で詰め込み過ぎ。」「活動の様子が映像でみられるともっと良かった。」という声もいただきました。

＜市民活動支援編＞

実施した内容

「社会的問題解決に向けた調査研究（2014 年度実施）」、および「みんなの協働フォーラム」に先立って行われたアンケートの結果から、今後の市民活動支援の在り方や具体策について検討する必要性が挙げられました。そこで、パブリックスクールとして以下のテーマおよび論点を設定し、3 回の意見交換会を実施しました。

今年度は、2020 年に横浜市役所移転に伴い、市役所内に設置される「市民協働スペース」に市民活動支援機能が備わることから、「新市庁舎における市民協働スペースについて」を論点にして、市域・区域の中間支援系組織の方たちと一緒に意見交換会を行いました。

- 2016 年度の取り組み 各回、内容に応じた、ディスカッションを実施しました。

12月12日（月） 18:30-20:30 @横浜市市民活動支援センター 11 名（オブザーバー、事務局含む）	主な内容	● 趣旨説明 ● 総務局より説明 ・ 新市庁舎における市民協働スペースについて ● 関連・参考情報の提供 ・ 大阪ボランティア協会「ポスト 50 年」行動宣言 ● 意見交換会 ・ 横浜市の未来予想図と想定・期待される市民活動の姿について ・ 市民活動支援において求められる機能について
12月27日（火） 16:30-20:30 @横浜市市民活動支援センター 14 名（オブザーバー、事務局含む）	主な内容	● 関連・参考情報の提供 ・ 横浜市市民協働推進委員会より「新市庁舎における市民協働スペースについて」「新市庁舎における市民協働スペースに関する意見書（素案）」 ・ 市民協働条例施行 3 年に伴う、市民等へのアンケート調査の結果について ● 意見交換会 ・ 市民活動支援において求められる機能について ・ 市民活動支援で求められる機能から考える市民協働スペースの在り方について
1月11日(水) 15:00～19:00 @横浜市市民活動支援センター 14 名（オブザーバー、事務局含む）	主な内容	● 意見交換会 これからの社会に向けて期待される市民活動支援の取組みについて、第 1 回・第 2 回の意見交換会の結果や、現状の市民活動支援センターの取組を踏まえて作成した枠組みをたたき台にして、議論を行いました。

成 果

横浜市では、区域単位や地区単位で活動する活動団体が多く、また、区内の NPO をはじめ様々な団体・機関のネットワークが広がっている中で、一層区域での支援体制の構築が今後の課題とされる一方、現行の市民活動支援センター機能を引き継ぐ予定の「市民協働スペース」においてどのような機能が必要とされるのか、多くのアイディア・意見が出されました。（意見交換会での内容をもとに、事務局で報告書を作成しました。）

課 題

現行の市民活動支援センター機能を引き継ぐ予定の「市民協働スペース」について議論する中で、各区の市民活動支援センターをはじめ区域の中間支援団体・機関やネットワークと市域の中間支援機関・団体が、

いかに連携を図っていくかということが、重要な課題として挙がりました。次年度は、それらの議論を引き継ぎながら、各区の市民活動支援センターのあり方について検討していくことが課題です。

2) 認定・指定 NPO 法人のネットワークづくり【新規】

横浜には認定・指定 NPO 法人が約 60 団体ありますが、それらの団体が有機的につながり合えるような関係づくりを行ない、多様な主体とつながり合うことの必然性を理解できるよう、それぞれの団体のネットワークのきっかけをつくるべく、企画を検討しました。

認定・指定 NPO 法人ネットワークづくり 企画検討会

【開催日】 9 月 23 日 (金) 14:00～17:00 @横浜市市民活動支援センター5 階会議室	主な内容	① 企画会趣旨説明 ② 当センターに実施してほしい講座について意見交換 ③ 今後の関係づくりについての意見交換 参加者・参加団体 ・小栗昭子さん（認定 NPO 法人あっとほーむ） ・厚地美香子さん（認定 NPO 法人あっちこっち） ・伊吾田善行さん（認定 NPO 法人地球市民 A C T かながわ） ・池畑博美さん（認定 NPO 法人エンパワメントかながわ） ・瀬上倫弘さん（認定 NPO 法人国際連合世界食糧計画 W F P 協会）
	結果	【参加者の声】 ・相互に補い合えるような（目的を達成するため）異業種交流できる場が欲しい。 ・様々な業種の方のお話を聞いてみたい。CSR・CSV を理解するには、まずは企業の業務を理解しなければ難しい。 ・社会へのインパクトを考える講座を開催してほしい。なぜ繋がらなければならないのか、先が見える関係づくりではなく、よりお互いが活きる関係になるために。 ・認定法人が抱えている問題は、分野が違えど関係ないことはない。相互に考え合い、学び合う機会がほしい。 ・メリットをしっかりと打ち出さないと、講座には参加しないと思う（忙しいので）、例えば人材育成の場として、団体複数人で参加する場などは良いのでは。 ・NPO 法、認定制度の認知度が低いので、一般市民に伝えるような場が必要 ・信頼関係が大事なので、継続して関係をつなげる場づくり。  【成果】

		様々な主体とつながることの必然性を理解してもらう講座が良いのではと、貴重な意見をいただく事ができました。団体に足りないものを明確にすることで、セクターを超えた関係を築き、相互に補うことの大切さに気づき、社会的インパクトについて考える講座を実施することになりました。 【課題】 セクターを超えて協働することが大切だと、理解している一方で、NPO 法、認定制度の認知度が低いために、協働が進まないという意見もありました。
--	--	---

ロジックモデル講座の実施

【開催日】 2月27日(月) 9:30~17:30 @横浜市市民活動支援センター	主な内容	ロジックモデルを極める ～社会的インパクト評価時代に向けて～ 法人のミッション・ビジョンの再整理やロジックモデルの作成を通じて、社会的インパクト評価に対応した具体的な成果につながる事業計画の作成に役立ち、様々な主体とつながることの必然性を理解する講座を開催しました。
	結果	9 団体、14 名の方にご参加いただきました。 【参加者の声】 ・「ミッション」「ビジョン」の違いがこれまで分かりにくかったのですが、ビジョン＝イメージできる状態という説明はとても分かりやすかったです。 ・ペルソナ分析は、何度かやっていますが、とてもいい復習になりました。 ・今日一番の学びは、「コレクティブインパクト」でした。企業、NPO、大学、行政の連携の機運は感じていましたが、その名称と米国での事例は初めて知りました。 ・団体として、「受益者が明確にならない」ありがちなパターンに当てはまっていたが、手段と目的を分けて考えることは大変参考になりました。

3)「これからの時代にふさわしい協働のあり方」について【新規】

※市民活動支援課協働班と協働事務局

横浜市市民協働条例の施行（2013 年）から 3 年ごとに行う条例の施行状況の検討に際し、さまざまな協働の主体や市民が、これからの時代にふさわしい協働のあり方について考え話し合う機会を創出しました。

◆市民協働条例に関する検討ワーキングの開催

条例の施行状況の検討に際して必要な視点、アンケートやフォーラムの内容を話し合うためにワーキングを開催しました。

第 1 回	5月2日(月) 14:00~17:00	(1) 条例の施行状況の検討に際し、必要な視点や現状の課題に関すること (2) アンケートの実施に関すること (3) フォーラムの実施に関すること
第 2 回	6月3日(金) 18:30~21:00	(1) 条例の施行状況の検討に際し、必要な視点や現状の課題に関すること

		(2)アンケートの実施に関すること (3)フォーラムの実施に関すること
第3回	6月14(火) 18:00~21:00	(1)アンケートの実施に関すること (2)フォーラムの実施に関する打合せ
第4回	7月1日(金) 18:30~21:00	(1)アンケートの内容検討 (2)フォーラムの実施に関する打合せ、日程確定
第5回	7月26(火) 18:00~21:00	(1)アンケートの内容検討 (2)フォーラムの実施に関する打合せ、日程確定
第6回	9月27(火) 18:00~21:00	フォーラム開催に向けた打合せ
第7回	11月7(月) 18:00~21:00	(1)フォーラムの振り返りについて (2)アンケート回答結果について (3)意見交換
第8回	12月5(月) 18:00~21:00	「条例の施行状況の検討報告書」に関する意見交換
第9回	2月7日(火) 18:30~21:00	条例の3年ごとの施行状況の検討を踏まえた今後の取組などについて 意見交換

【構成メンバー】(五十音順)

伊藤 真知子さん (NPO 法人いこいの家夢みん)
 内海 宏さん (NPO 法人横浜プランナーズネットワーク/新しい協働を考える会)
 永岡 鉄平さん (NPO 法人フェアスタートサポート 代表理事)
 中嶋 伴子さん (NPO 法人くみんネットワークとつか)
 中島 智人さん (産業能率大学経営学部 准教授)
 原 美紀さん (NPO 法人びーのびーの/新しい協働を考える会)
 治田 友香さん (関内イノベーションイニシアティブ株式会社 代表取締役)
 松岡 美子さん (NPO 法人グリーンママ 理事長)
 松村 正治さん (NPO 法人よこはま里山研究所 NORA 理事長)
 三輪 律江さん (横浜市立大学学術院国際総合科学群 准教授)
 山根 誠さん (松見2丁目西部町内会 会長)

事務局：横浜市市民局市民活動支援課、横浜市市民活動支援センター



◆みんなの協働フォーラム満員の会場風景

◆みんなの協働フォーラムの開催

「協働」を取り巻く環境の変化や成果などを振り返り、改めて市民活動や 協働、条例についての意見交換を行い、今後の「市民協働」のあり方や横浜らしい「協働」の姿を模索することを目的にみんなの協働フォーラムを開催しました。

『みんなの協働フォーラム』 ～市民の力が横浜のあったかい未来を創る！！～

～社会的インパクト評価時代に向けて～

【全体会Ⅰ】『協働に進化の兆しアリ』

横浜市には、地域の特性に応じて、市民の知恵により多様な協働が行われ、「協働の風土」が培われてきました。それらが生まれた背景や最新事例を共有し、協働の進化の兆しを捉えました。

■コーディネーター：内海宏さん（NPO 法人横浜プランナーズネットワーク）
中島智人さん（産業能率大学経営学部 准教授）



【開催日】

10月10日（祝・月） 12:30 ～ 17:00

@横浜市情報文化センター6階 ホール

主な内容

【分科会Ⅰ】『市民からの提案、その先の未来』

分科会Ⅰでは、提案制度を「市民の自由な発想に基づく事業展開」や「地域・市民を笑顔にするコトづくり」に繋げるため、市民やNPO・企業・地縁団体・行政など多様な主体が参加・連携し、地域のプロジェクトを実現するためのプロセスや、必要な支援について考えました。

■事例①：条例第10条による提案事業第1号

★事例発表者：

・近藤博昭さん、兼弘彰さん（ほどがや 人・まち・文化振興会）
・田並静さん（元保土ヶ谷区区政推進課 担当係長）

■事例②：公民連携による課題解決型公募モデル事業

★事例発表者：

・石塚淳さん（三菱地所レジデンス株式会社 横浜事業部）

★質問と参加型の共有タイム

■事例③：ヨコハマ市民まち普請事業の挑戦者たち

★事例発表者：

・前田未来さん、岩間千秋さん（街の家族）

・都市整備局地域まちづくり課

★企画メンバー：

- ・治田友香さん（関内イノベーションイニシアティブ(株) 代表取締役）
- ・三輪律江さん（横浜市立大学学術院国際総合科学群 准教授）
- ・永岡鉄平さん（NPO 法人フェアスタートサポート 代表理事）
- ・伊藤真知子さん（NPO 法人いこいの家夢みん 理事長）

【分科会Ⅱ】『地域の中の「私」「共」「公共」』

分科会Ⅱでは、地縁組織として、テーマ型の団体として、市民が連帯してまちをつくってきた中で培われた自治のスピリットを生かした、これからの地域づくりを考えました。

■事例①：「一人の中学生と私のおせっかいから始まるこの5年のお話し」

★事例発表者：

・栗林知絵子さん（NPO 法人豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク理事長）

■事例②：「自分探しと地域デビュー 「とつか宿場まつり」開催までの道のりとこれから」

★事例発表者：

・根岸正夫さん（戸塚見知楽会 代表/ とつか宿場まつり実行委員会 委員長）

■参加型ワーク

★企画メンバー：

- ・松村正治さん（NPO 法人よこはま里山研究所（NORA）理事長）
- ・山根誠さん（松見2丁目西部町内会 会長）
- ・中嶋伴子さん（NPO 法人くみんネットワークとつか 職員）
- ・吉原明香（認定 NPO 法人市民セクターよこはま 事務局長）



【分科会Ⅲ】『やっぱり肝！？条例&契約再考』

分科会Ⅲでは、協働契約を締結している事例（契約の甲乙の立場から）から、契約や評価の際に必要な視点、契約のあるべき姿や可能性などを考えました。

■市民協働条例の可能性

★事例発表者：

・森田明弁護士（法律事務所 横濱アカデミア）

■事例①：とつか区民活動センター

★事例発表者：

・田辺由美子さん（とつか区民活動センター センター長）

■事例②：18区の地域子育て支援拠点

★事例発表者：

・横田美和子さん（南区子育て支援拠点 はぐはぐの樹 施設長）

・「アンケート結果の共有」

・「会場からの発信」

・「今後に向けた提案」

★企画メンバー：

・原美紀さん（NPO 法人びーのびーの 理事）

・松岡美子さん（NPO 法人グリーンママ 理事長）

【全体会Ⅱ】『協働 Next ステージ』

各分科会からの報告を踏まえ、今後の協働をさらなる進化に“つなげる”ために欠かさない、「環境づくり」について考えました。市民の力がより生きる提案制度、一人の人のニーズや気づきからはじまるまちづくりの新しいカタチ、進化の礎となる市民協働条例のあり方について、ライブセッションを実施しました。

★登壇者：

・山根 誠 さん（松見2丁目西部町内会 会長）

・石塚 淳 さん（三菱地所レジデンス株式会社 横浜事業部）

・治田友香 さん（関内イノベーションイニシアティブ（株）代表取締役）

・原 美紀 さん（NPO 法人びーのびーの 理事）

・吉原明香 さん（認定 NPO 法人市民セクターよこはま 事務局長）



参加者数：181 名

アンケート平均点：83.6

<アンケート（参加者の声）より>

・コーディネーターの話も大変説得力があり、参考になりました。もう少しじっくり聞きたいと思いました。

結果

- ・どの事例も大変興味深く、引き込まれながら聞かせていただきました。また活動の経緯も詳しく紹介していただき、参考になりました。
- ・協働の歴史や条例の成り立ちから学べて、分科会では事例も伺ってとても興味深く参加できました。
- ・引きこもりのお年寄りが、やりがいを見出して元気に活動されている例を伺い、一步を踏み出しやすいきっかけ作りや、地域のコミュニケーションづくりの参考にしたいと思いました。
- ・内容がもりだくさんで、市民協働についてあまり詳しく知らなくても、とても分かりやすい内容だった。
- ・地域のことは地域で解決する大切さを、再認識しました。
- ・制度の周知、受け入れる側の体制が十分でないと考えさせられました。
- ・評価について改めて NPO の評価手法がガラパゴス化している気がしました。なぜ NPO が担うのか、原点に立ち戻る必要がありそうです。
- ・条例、契約についてもっと勉強した方がいいのかなと感じました。

【成果】

- ・告知の際に facebook を活用することで、企画委員の皆さまにシェアしていただき、より多くの方に情報を届けることができました。（1800 リーチ）
- ・市民（自治会町内会、NPO、企業、大学等）や市職員 181 名が参加し、様々な角度から活発な意見交換を行い、今度の市民活動や横浜らしい協働の姿を共有する場を作ることができました。

【課題】

- ・協働への理解がバラバラだったため、既実践している人から見たら物足りないという意見もあった。時間も限られていたため、意見交換できる場を設けるなど、さらなる改善が求められます。
- ・フォーラムを通じて得られたご意見から、今後、多様な主体がつながり、連携していく場がますます求められることがわかりました。これらの場づくり、環境作りに向けて支援センターとしても次年度取り組んでいきたいと考えています。

4) 横浜市社会福祉協議会横浜市ボランティアセンターとの連携

2017 年 1 月 31 日に定例会議を実施し、情報交換や互いの事業の広報協力、関東圏で震災が起こった際の市民活動団体の連携や当センターの役割などについて話し合い、信頼関係を積み上げ、相互補完関係をさらに進めるべく、意見交換しました。

また 2 月 5 日に開催された災害ボランティアネットワーク会議主催の DIG 訓練に参加しました。



5) 企業・NPO・大学パートナーシップ・ミーティング in 横浜の開催 ※神奈川県との共催

神奈川県による企業・NPO・大学のパートナーシップ支援事業の一環である、マッチング事業の実現に向けたきっかけづくりの場であるパートナーシップ・ミーティングを神奈川県と共催しました。

実施した内容

2015 年度に引き続き共催した本事業では、基調講演とマッチングワークショップの二本立てのプログラムを企画しました。ワークショップでは、エントリーシートの冊子作成・配付や、参加者全員によるプレゼンタイムを設けるなど、参加者同士がより深く知り合え、マッチングのチャンスが、当日限りにならないよう、新たな工夫を試みました。

2016 年 8 月 4 日 (木)

13 : 30-17 : 30

会場：みなとみらい

Innovation & Future
Center (株式会社富士
通エフサス)

参加者：73 名

(NPO:45 名／企業:21
名／大学:5 名／行政:2
名)

パートナーシップ・ミーティング in 横浜

～いろいろなものが集まってプロジェクトは実現している～

●基調講演

「いろいろなものが集まってプロジェクトは実現している」

並河 進 氏

(電通ソーシャル・デザイン・エンジン代表)

●マッチングワークショップ

事前に作成したエントリーシートをもとに、参加者全員による全体へのプレゼンを実施。プレゼン後には、興味を持った団体に対して名刺を投票する仕掛けを用意し、マッチングに向けたきっかけづくりをしました。

マッチング実績

神奈川県と県内中間支援機関との協働による企業・NPO・大学パートナーシップ支援事業を通じて、これまでに実現したマッチング事業は、2012 年度 14 件、2013 年度 19 件、2014 年度 21 件、2015 年度 25 件となっており、単発イベントや企業提供型事業から、継続的なつながりへと、企業ニーズが変化してきました。

課 題

どのような団体が参加するのか当日まで分からないため、事前にマッチング事業を提案するのが難しいという意見や、参加団体のテーマ・分野や所属（企業・NPO・大学）に偏りが見られるなどの課題が出たことから、プログラムの企画・広報にあたってさらなる改善が求められます。

6) つながりのまちづくりフォーラム 2017 に向けた準備と企画

過去3回の積み上げを発展的に活かして、今後のフォーラム2017の企画につなげるため、2016年度は幅広い地域の事例を知るための団体訪問・ヒアリング等の調査を行いました。

実施した内容

下記、3団体のヒアリング調査を行いました。

<団体訪問・ヒアリング先>

ハートフルポート (横浜市旭区) 6月21日(火) センター職員3名・市民活動支援課職員1名	個人宅を改築したコミュニティカフェ。ランチ提供のほか、住民参加型の各種イベントを実施。ランチ等でカフェにきた人とのコミュニケーションの中で聞かれる当人の希望や持っているスキルを団体や活動につなげています。 情報が集まる場としての機能を持つとともに、住民同士というフラットな関係の中での相談機能も果たしており、地域レベルでの中間支援機能を発揮している特徴が見られました。
ジュピのえんがわ (横浜市金沢区) 6月24日(金) センター職員3名・市民活動支援課職員2名	改築した空き家で、サロン活動や駄菓子屋を開いている「ジュピのえんがわ」。サロンには、幼児を連れてお母さんたちや、体操系の活動に参加する年配の方、駄菓子屋に来る小学生と、幅広い年代が集う場です。 店主をはじめ6名と少人数で形をつくりつつ、ボランティアの方たちにも関わってもらいながら、無理のない活動を展開しています。 整備にあたっては、区民活動センターを通じて、金沢区の「空き家等を活用した地域の『茶の間』支援事業」を活用した経緯があり、区の施設・制度を活用したという点も見られました。
カフェ&取手アートプロジェクト拠点「いこいの+Tappino」 (茨城県取手市) 8月8日(月) センター職員3名・市民活動支援課職員1名	高齢化率約70%(2,000世帯)の団地の一角で拠点「いこいの+」を運営し、運営法人の専門分野であるアートの切り口で、まちづくりに取り組んでいます。 特徴的な活動である「とくいの銀行」は、各人が持つ得意なことを仮想銀行に預け、その得意(または特異)を他の人が引き出すことで利用することができる仕組みです。ハードル低い形で、それぞれの持っているものを出し合うことで、地域の中での出番が生まれ、また、交流が生まれる仕組みであることが分かりました。

企画に向けて

- 新たな視点や手法で地域の中に「つながり」を生み出している事例を調査する中で、個人宅を開放し、少人数グループでの取組みでありながら、地域の中での中間支援的な機能を果たしているという形や(ハートフルポート)、公設の中間支援組織(区民活動支援センター)がつなぎ役となって構想が形となった事例(ジュピのえんがわ)など、区域や地区における民間・公設の中間支援組織が果たす役割が見えてきました。

- 他方、例えば、社会的な活動への関心の高まりから、企業との連携・協働による取組みが期待されるなど、「つながり」によって生まれる取組み、「つながり」が期待される取組みは、益々広がっていくことが予想されます。今後は、「つながり」の対象を広げ、さらに検討を深めながら、企画を進めていきます。

6. 共同オフィス事業 ～学びあい・育ちあいの進む場づくりを目指して～

入居する団体同士の学びあい・育ちあいが進む場づくり・自治的な運営をコーディネートしつつ、互いに刺激し合い高め合う共同オフィスを目指しました。また市民活動支援課と連携して、今後の共同オフィスのあり方についても検討を進めました。

1) 交流の促進

実施した内容

- ・ 入居団体「ニーズ調査」を実施し、入居団体が共同オフィス事業に何を求めているのかを把握しました。その結果を入居団体と共有しつつ、各団体の個別の支援に活かし、共通課題については交流会で共有し、課題の解決につなげました。
- ・ 新旧入居団体の交流を深める場として、年度初めの「オープンミーテ」と、年度の間際の「秋のオープンミーテ」、年度終わりには「活動報告会 & 卒業発表会」を実施しました。
- ・ 気軽に誰でも参加し情報交換できる場として、「定例ランチミーティング（交流会）」を毎月 15 日におこないました。毎回 2 ～ 3 団体が参加し、じっくりと互いの団体について話し、課題について検討する充実した時間となりました。

5 月 10 日（火） 18:00～19:30 オープンミーテ・懇親会 10 名（8 団体）	主な内容	・ 自己紹介（出身・GW の思い出など） ・ 共同オフィス利用のルールについて ・ ちょこっとワーク（今年の団体の目標・どんな共同オフィスにしたいか）
8 月 24 日（水） 19:00～21:00 【夏の懇親会】 9 名（3 団体、うち事務局 3 名）	主な内容	改めて、互いの自己紹介・団体紹介を行い、「好きな〇〇について」といったテーマで盛り上がりました。普段より近い距離感で、お互いの団体について話しあい、懇親を深めることができました。
11 月 8 日（火） 18:00～19:30 【秋のオープンミーテ】 7 名（3 団体、うち事務局 4 名）	主な内容	・ 活動の状況共有 & ちょこっとアドバイス ・ 共同オフィスの使い方について意見交換 （ズーミールーム利用の一般利用者の方について、互いの机・椅子の使用方法についての確認）

2017年3月13日(月)

@BUKATSUDO

【共同オフィス卒業式・報告会】

18:00~21:00

20名(9団体、うち事務局8名)

主な内容

- ・卒業団体4団体(NPO 日本キャリア・コンサルタント協会、GISTERS、cure with aroma、横浜市民アーティスト連絡協議会)による活動報告
- ・懇親会では、自由交流のほか、新規団体・継続団体による自己紹介を行いました。

成 果

- ・入居団体同士のランチミーテをきっかけに、子ども支援団体が演劇活動団体を招き、イベントの実施に繋がりました。
- ・PRO NPO、パートナーシップミーティング等のセンターの他事業をご紹介し、参加いただきました。

課 題

- ・ズーミールームを一般の利用者が利用していると、共同オフィスにまで声が響き、活動に差し障りがあると、利用団体からご意見をいただきました。来年度の入居状況をみながら、レイアウトの変更等を市民活動支援課と検討を進めます。

2) 広報の支援

- ・入居団体の紹介パンフレットを発行し、横浜市内の各施設へ送付しました。
- ・大規模発送の際に、団体のチラシやリーフレットを同封することで、広報の支援を行いました。



3) 日常的な相談対応・情報提供

- ・相談対応や日常的な窓口での情報提供を行いました。ランチミーテや日常の会話・つながりの中で、支援センター・他施設・他団体に関するイベントや、助成金に関わる情報をお伝えしました。



成 果

- ・入居団体に対して、支援センターに届いた助成金情報のうち適合するものをご案内し、応募につながりました。
- ・センター職員が参加したイベント等で入居団体に関係のある内容や情報をお伝えしました。

7. 施設管理事業 ～箱（ハード）と機能（ソフト）の両面を活かして～

より多くの方が訪れ活動しやすく居心地の良い場（ハード面）であると同時に、活動について相談し、発見やつながりを得られるなど、市民活動の拠点となる場（ソフト面）でもあるよう、機能の充実に力を入れました。

実施したこと

1) 職員の対応力・接遇力のさらなる強化

さらなるサービスの向上のために、職員の接遇に関する研修を行いました。

9月27日（火）
「マナー研修」

主な内容

・接遇対応に関する動画の視聴後、窓口や電話での接遇について、アサーションについて意見交換を行いました。

1月10日（火）
「感染症予防研修」

主な内容

・ノロウイルスに関する危機意識と職員の体調管理について確認したのち、施設内で嘔吐があった場合の対応についてシミュレーションを実施しました。



2) 場の提供

利用者にとっての使いやすさ・使い心地よさの視点で、自己評価・利用者評価を実施しながら、下記の点について引き続き見直し、改善を行いました。

- ・ 利用者アンケートの実施：実施期間：2016年9月1日～30日、回答者数：615
アンケートで頂いたご意見は、掲示物の改善、備品の整備等に反映しました。
購入物品例：カラープリンター機、USBメモリを直接映写できるプロジェクター 等
- ・ ワークショップ広場をより活発に利用いただくよう、活用方法を検討しました。
- ・ ギャラリーコーナーは、支援センター情報発信事業と連携し、市民活動に関する情報発信する場として活用しました。情報紙アニマートのバックナンバーや掲載写真を掲示しました。
- ・ 助成金コーナー・配架ラック等の整備
助成金コーナーは、情報をより手に取りやすく調べやすい環境となるよう、レイアウトを変更しました。
- ・ 「お気づき箱」や利用票いただいた利用者意見への取り組み
頂戴したご意見に可能な限りすぐに対応し、回答を掲示しました。また、ご要望いただいたロッカースペースに設置する物品一時置き用キャリーワゴンを購入しました。
- ・ 「利用のご案内」や「センターパンフレット」の更新
センターの講座の紹介では、マトリックス図を使用して、分かりやすい紹介を心掛けました。

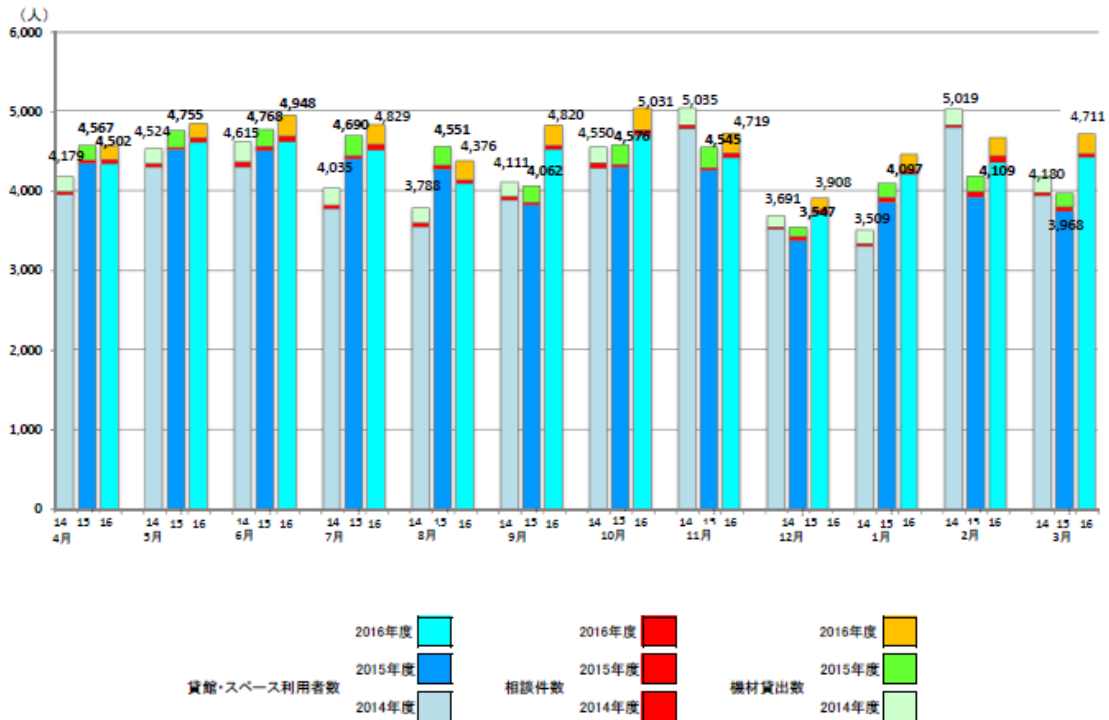
- ・ 館内掲示
お手洗いのご案内、コピー機の利用案内、利用者 PC の表示案内をより見やすく更新し、掲示しました。1 階エントランスのホワイトボードに利用者さんが利用できる「みんなの伝言板」を作成し、利用者がイベントチラシの掲示、参加者同士の伝言ができるよう整備しました。
- ・ 施設内清掃
スタッフの会議の時間を使い、空調の吹き出し口、椅子の座面、貸出用パソコンデスクの蓄積した汚れなどの、普段手をつけられないところ・気になる箇所について 2 か月に一回程度、清掃を行いました。
季節にあった花や置物を飾ることで、温かな空間づくりに努めました。
- ・ 5 階入り口の掲示「ズーミーイン」にて、支援センター事業の紹介や、新着の助成金情報について、ご案内を作成しました。情報に興味のある方・立ち止まってじっくりチラシ等をご覧になっている方に、お声かけし、具体的にご案内をすることで、利用者と職員の交流のきっかけと情報提供の機会となりました。



年間利用者数の推移

横浜市市民活動支援センター 施設・設備利用数

2014年4月～2017年3月



- ・ 利用者目線に立った接遇：利用者アンケート接遇評価（４段階評価）3.6（前年度 3.6）
- ・ 施設・設備利用数 **55,866 名（月平均 4655.5 名）**
- ・ 貸し室（セミナールーム・ディスカッションルーム）利用実績 平均 231.5 件
- ・ ワークショップ広場 利用実績 平均 21.0 コマ/月（目標値:19 コマ以上）
- ・ ギャラリーコーナー 利用実績 15 団体/年（目標値:19 団体/年）

※3月末時点

3) 危機管理 ～マニュアル見直し～

横浜市の防災計画に基づいて、危機管理体制を検討して実地訓練を行いました。災害時対応、救命救急対応に対する職員研修や実施訓練を実施するとともに、防災マニュアル、帰宅困難者一時滞在施設開設時マニュアル等を見直し、誰でも的確な対応ができるよう更新しました。

日常の危機管理としては、個人情報保護、セキュリティ管理について、研修のほか全員会議等で新聞記事の共有を行い、職員全員が意識して職務に取り組みました。事故が起こった場合は、速やかにその原因を究明し、手順表やチェック表を確認・改訂し、全員に周知、再発防止に努めました。

■一時滞在施設に関する研修

4月26日（金） 一時滞在施設研修	主な内容	横浜市危機管理課の方にお越しいただき、災害時の一時滞在施設開設について、マニュアルを見直し、検討しました。研修を基礎に、マニュアルを改訂し、次回以降の研修にて、気付いた点をさらに盛り込み、災害時の行動について検討を重ねました。
6月5日（日） - 6月6日（月） 常勤職員宿泊研修	主な内容	常勤職員 6 名で市民活動支援センターに宿泊し、センターにて宿泊する場合の実際の想定を行いました。新たに購入する物品について検討を行いました。 【新たに購入した物品】 ・毛布 ・簡易枕 ・ベビー用品（オムツ、アレルギー除去ミルク、ミルク、離乳食、おしり拭き等） ・携帯の充電器、ライト
9月13日（火） 風水害による災害時の対応研修	主な内容	全員会議にて、中区の担当職員の方にお越しいただき、風水害の災害時の手順を確認しました。また、複数人数で、4 階ワークショップ広場の一時滞在施設開設準備のシミュレーションを行いました。 ・実際に段ボールを敷き、収容人数を想定しました。また、災害時即時に対応ができるよう、防災備品の備蓄場所を検討しました。

■救命救急に関する研修

2月28日（火） 15:00～17:00 救命救急、 AED 研修	主な内容	NPO 法人 JAEA 石津さん、河波さん、松田さんにお越しいただき、AED の使用方法、心肺蘇生法等について学びました。支援センターの 4 階で利用者が心肺停止になったらどのように対応すべきか、実際の対応方法、記録方法などについて学びました。
--	------	---

8. 横浜市との協働 ～協働の検証を協働で行う～

管理運営における市民活動支援課との協働、各区役所・地域施設等の協働の側面支援をさらに進めました。また、2016年度は、「これからの時代にふさわしい協働のあり方について」の検証や「認定・指定 NPO 法人ネットワーク」においても、より対等な協働が各セクター間で進むよう、積極的に問題を共有し、課題解決に向けて動きました。

実施したこと

- 1) 市民活動支援課と定期的な会議を開催するとともに、事業ごとに担当者を複数配置し、報告・連絡・相談に漏れや齟齬が生じないようにしました。
- 2) 市民協働推進部長、市民活動支援課長、係長と当センター運営法人の理事などが参加する組織同士の会議を8月17日（水）に開催し、協働の意義や当センターの今後のあり方について意見交換し、共有しました。
- 3) 協働事業に対する意識を一層醸成するため、協働に関する研修などを、市民活動支援課および地域活動推進課と連携して進めました。

【協働入門研修】

- 6月29日（水）
@都筑区民活動支援センター
- 7月15日（金）
@横浜市市民活動支援センター
- 8月25日（木）
@港南区役所

主な内容

① 協働ってなんだろう？

協働ってなに？なぜ協働が必要なの？どんな効果があるの？という基本的なことや、知っておきたい「協働の6原則」を御伝えしました。

② 協働のすすめ方

認定NPO法人市民セクターよこはま（横浜市市民活動支援センター）

吉原 明香・薄井 智洋

立場の違う人と協力しながら課題解決に取り組む魅力とポイントを、実例を基に講義しました。

③ 事例紹介

地域子育て支援拠点「かなーちえ」施設長 塚原 泉氏

「子育て期の悩みを相談したい…」「子育て中の疲れを解消したい…」

子育て中の方を地域の皆さんとサポートする活動の現場で感じた、協働による取組の効果や、すすめ方について実践者の生の声を伺いました。

④ グループワーク

- 4) 協働の基本知識と、地域や現場で役立つノウハウを学べるeラーニングのカリキュラム制作を市民局地域活動推進課と連携して進めました。
- 5) 認定・指定 NPO 事業報告書サポートミニ講座を5月13日、6月22日に市民活動支援課と連携して行いました。

9. 自主事業団体との連携および協力 ～強みと特徴を理解し合う関係を構築～

自主事業団体と運営事業団体がお互いの経験・事業・ノウハウを理解し合い、企画や実施段階から協力・共感できる信頼関係を築くために、対話の場を設け事業全体の質と認知度を向上させる取り組みを行いました。

<2016 年度実施事業>

提案事業名	団体名
「地元企業を核とした地域課題解決力を高め合うコミュニティづくり」	特定非営利活動法人 ETIC
みんなで作る！「Spice+」 ～若者の参加による活動体験データベースの作成とマッチングと協働の仕組みづくり	特定非営利活動法人アクションポート横浜
カフェ型中間支援機能の創出・強化・普及 「市内コミュニティカフェ運営者の相互交流ネットワーク」	横浜コミュニティカフェネットワーク(YCCN)

実施したこと

- 1) 運営事業団体と自主事業団体間で、事業の進捗や情報を共有するため、意見交換会（ランチミーティング）を10月6日（金）12:00～13:00に開催いたしました。
- 2) 広報支援として、以下の取り組みを実施しました。
 - ・当センター発送物への自主事業に関する広報物の同封
 - ・当センターホームページ、メールマガジン「animato pico」、情報誌「animato」に自主事業の内容について掲載
- 3) 各区の支援センターが情報共有を行うネットワーク会議への参加を呼びかけ、各区の支援センターとの協力関係を構築する機会を提供しました（3月8日第5回ネットワーク会議で実施）。
- 4) 2月12日（日）に開催されたフォーラム「コミュニティカフェの価値とは？～カフェ型中間支援機能について深めよう～」（横浜コミュニティカフェネットワーク・横浜市民局主催）に参加し、2年目の事業報告及び今後について情報収集しました。



にしく市民活動支援センター
にしとも広場

2016（平成 28）年度 事業報告書

管理運営：認定特定非営利活動法人市民セクターよこはま

目次

I. 運営方針	- 2 -
II. 重点事業	- 2 -
III. 事業報告	- 3 -
1. 相談	- 3 -
2. 情報提供・発信	- 4 -
3. 活動ステップアップ・ネットワーク支援	- 7 -
4. 地域支援	- 14 -
5. 地域人材ボランティアバンク（生涯学習ボランティア「西区街の名人・達人」）	- 16 -
6. 区民利用施設等との連携による活動支援	- 16 -
7. 場の提供・活用の周知	- 19 -
8. 職員の育成および研修の取組	- 22 -
9. 区役所との協働	- 23 -

I. 運営方針

区民や活動団体、地域施設等が、つながるきっかけを豊かに作り、互いの力を活かしあい、地域の課題解決や魅力アップに、より取り組みやすくなるよう、地域協働を進めました。

II. 重点事業

●区内施設と連携した地域力アップに向けた仕組みづくりに取り組みました。

- ・昨年度まで実施していた施設連携会議の見直しを行いました。
- ・区内にある施設等が、顔の見える関係をさらに一歩進め、情報を共有し、地域の課題解決や魅力アップにつながる取り組みを、一緒に検討したり実施する会議を目指しました。各施設の所管課や関係機関とも連携しながら事前ヒアリングを実施しました。（地区センター2カ所、コミュニティハウス4カ所、図書館、スポーツセンター、地域ケアプラザ3カ所）
- ・3月に施設連携会議を実施し、区内22施設にお声掛けし、13施設が参加しました。

●地域活動に関わるきっかけづくりや、地域づくりの具体的なスキルアップに取り組みました。

- ・地域の具体的な課題解決や魅力アップにつながる事業を実施するスキルを学ぶ西区地域づくり大学校では、地域ニーズに沿ったテーマ「居場所づくり」に取り組みました。（区政推進課地域力推進担当との協働）
- ・生涯学習・市民活動支援講座「わが町、西区を知る」について、企画や当日運営の協力を行いました。（地域振興課生涯学習担当との協働）

Ⅲ. 事業報告

1. 相談

◆相談者の背後にあるニーズを引き出す力の向上

相談対応の際には、相談者自身が課題の本質を見つけ、その解決に取り組むことができるような支援を目指しました。また相談者が、地域活動や市民活動の少し先を行く先輩とつながりをつくり、相談しあえる関係ができることを目指し、職員の相談対応力やコーディネート力を強化しました。

実施したこと

1) 相談できる場であることの周知、および情報の集約

- ・相談件数実績は、448 件となりました。(前年度 456 件)
- ・主な相談としては、「家にいることが多いので、近くに出かける先がほしい」「ボランティアを始めてみたい」「〇〇が得意なので何かに活かしたい」「イベントのチラシを置きたい」などがありました。
- ・2017 年 2 月には、区役所内の区民ホールにて、パネル展示と庁内モニターでの放映を行いました。にしとも広場の活用方法のお知らせに加え、「よくある相談」などを掲示し、どのようなことを相談できるのかも具体的に周知しました。
- ・近くのお出かけ先としては、地区センターや地域ケアプラザでのイベントを紹介することがよくあるため、施設の情報をまとめたラックを新たに設置しました。このラックは、入り口付近に置き、手に取りやすいように工夫したほか、ラック上に地図を設置し、行動に移すための情報を得やすくなるよう工夫を行いました。



<区民ホールでの展示の様子>



<西区内の施設情報と地図の設置>

2) 活動団体ヒアリング(および現場訪問)

- ・情報紙の取材や施設連携会議(p.16 掲載)の事前ヒアリングで、延べ148 カ所を訪問しました。
- ・積極的に地域に出向き、活動現場を知り、顔の見える関係づくりを心がけました。地域で開催されるお祭りやイベント、「地域のつどい」などを訪問し、実際の活動を知ることで、相談があった際にも担当者とスムーズに連絡が出来たほか、活動の様子を具体的に案内することが出来ました。



<第6地区子ども食堂の様子>



<第4地区 みんなのまつりの様子>

3) 相談力の向上のための取組の実施

- ・職員全員で行う会議で、特に気になる相談事例を選び、対応について検討しました。
- ・相談力向上のため、西区内の施設の方を講師に招き、障がいのある方への対応研修を行いました。障がいのある方を取り巻く現状や症状についての知識を得るとともに、障がいのある方から相談があった場合に、連携し支援していく体制づくりにつながりました。

日時・場所	内容
2016年10月25日(火) 10:30~12:00 にしとも広場	「精神障がいのある方への相談対応」 講師：永瀬 誠 氏(生活支援センター西 所長) ・精神障がいの基礎知識・関わりで気を付けている点など ・ケース検討(にしとも広場に相談のあった3事例) ・質疑応答

・他の市民活動支援センターの活動を参考とするため、3つのセンターの視察を行いました(2016年10月14日実施。戸塚区、藤沢市、藤沢市六会地区)。とつか区民活動センターでは、相談をきっかけに新規事業を始めた事例や、藤沢市民活動推進センターでは、登録用紙の項目を工夫し、団体運営のステップアップのきっかけとした例などを学びました。このことは、様々な場面で相談につなげるためのきっかけを作っていこうという相談対応に対する意識の統一につながりました。

2. 情報提供・発信

◆多様な主体と連携した情報提供・発信

地域で活動する際に必要な情報や、ステップアップにつながる情報を誰にでも手に取ってもらえるよう、紙媒体やホームページを用いて発信しました。

実施したこと

1)ホームページでの情報発信

・今年度のトータル閲覧数は 20,559 となりました。最も閲覧数が多いページは、『街の名人・達人をさがす』(1,851 件)、『センターのご案内』(1,423 件)、『グループ団体をさがす』(1,400 件)で、活動している団体を探すのに活用されていることがわかりました。

2) ホームページの改修

① デザインの改訂

- ・アクセス件数の多い「街の名人・達人を探す」「グループ・団体を探す」について、トップページにバナーを表示し、検索ページがわかりやすいように掲載しました。あわせて、「街の名人・達人」「グループ・団体」では、「探す」「登録する」などニーズに合わせたページを作成し、ニーズに合わせた閲覧がしやすいように変更しました。
- ・ホームページのタブへ「アクセス・お問合せ」を追加し、センターへのアクセシビリティの向上に努めました。
- ・トップページ画面上部に、ホームボタンを設置し、サイト内の移動をわかりやすくしました。
- ・スライドショー画像の管理ページを修正し、手続きを簡易化することで、日々更新しやすくなりました。

② コンテンツの拡充

- ・よく閲覧されている「街の名人・達人」「グループ・団体」について、検索ページを改訂し、複数分野をまたいだ検索ができるよう変更しました。
- ・「何かを始めたい」という方向けのページを作成しました。あわせてトップページへバナーで掲載しました。
- ・「にしとも広場のご案内」のページに「書式ダウンロード」の項目を設置し、利用に関する書式について、ひとめでわかるようにしました。
- ・「街の名人・達人を探す」「グループ・団体を探す」について、
- ・「リンク集」にて、区内施設に限らず、西区の近隣施設を追加したほか、「助成金を探す」「NPO 法人の申請をする」など、活動に役立つ情報もあわせて掲載を行いました。



<トップページ画像>



<検索ページ画像>

2) 情報紙『にしとも広場』の発行

- ・「個人の関心から広がる市民活動」をコンセプトに、年3回各 6000 部発行しました。
- ・掲載団体数を増やし、記事内容の一層の充実を図るためにページ数を 6 ページから 8 ページに増やしました。
- ・主に区内の活動団体や地縁組織、施設・学校などの取組みについて丁寧に取材し、活動の工夫や魅力的な点、課題などをわかりやすく発信しました。また、先進的な取り組みを行っている他区の取り組みも掲載することで、新しい視点や工夫への取り組みを提案しました。

①特集内容

第7号:「食べることは生きること。～食べることでつながるまちづくり～」

誰にとっても関心のある「食」を通して、世代を超えた地域の人たちが楽しく集える場づくりを行っている事例を取り上げました。

第8号:「人と本が生み出す出会いのはなし」

読書推進条例ができたことでも話題の「本」をテーマに、本を活用したボランティア活動や、本を用いた集いの場づくりを行っている事例を取り上げました。

第9号:「音楽が力になる」

コミュニケーションツールとしての「音楽」をテーマに、お子さんと一緒に演奏する活動、障がいがあってもなくても楽しめる活動や、誰でも定期的に参加できる集いの場の事例などを取り上げました。



<第7号>



<第8号>



<第9号>

②連動企画

第8号の連動イベントとして「本から始まる出会いの場づくり～本と本でつながろう～」を実施しました。

(p.12 掲載)

③配布先

- ・自治会町内会を通じた班回覧、生涯学習ボランティア、登録団体、西区内のNPO法人への発送の他、西区内の各施設および、駅構内のPRボックスに配架しました。
- ・西区民まつりなどで配布の他、地区ごとに行われる「地域のつどい」や「さくらフェスタ 2016」など区の事業とも連携し配布を行いました。
- ・西区子ども会育成連絡協議会、民生委員児童委員協議会、西区シニアクラブ連絡会、地区社会福祉協議会分科会にて配布を行いました。
- ・情報紙8号に有隣堂の方にコラムを書いていたことをきっかけに、有隣堂横浜西口ジョイナス店、有隣堂ルミネ横浜店に情報紙を置かせていただくことになりました。
- ・当センター事業「ツール・ド・にしく」に参加して下さったことが縁になり、横浜デザイン学院、また西区役所横にある喫茶店「クレオール」にも情報紙を置かせていただくことになりました。
- ・みなとみらい地区の3つのマンション(MM Towersフォレシス、ブリアグランデみなとみらい、みなとみらいミッドスクエア ザ・タワーレジデンス)にも配架をお願いすることができました。



<有隣堂横浜西口 ジョイナス店の様子>

3)近隣商店や自治会町内会を活用した情報提供

- ・「西区地域づくり大学校」については、自治会町内会設置の掲示板で、その他の講座やイベントのチラシについては、「まちの掲示板」やサミット岡野店の掲示板を活用して広報しました。

4)展示スペースの活用

- ・情報紙などを用いて活用方法を周知したほか、活用方法の紹介の意味も兼ねて、当センターで行うイベントの案内をパネルで掲示しました。
- ・2016年7月18日～24日には、「横浜・藤棚シネマアートフェスタ2016」の一環として、映画ポスターを掲示しました。これらのポスターは商店街の店舗・近隣施設にも掲示しており、にしとも広場もスタンプラリー所のひとつとして、イベントに協力しました。
- ・西区民まつりでは、イベントに参加する「西区街の名人・達人」の紹介パネルを掲示しました。出演者の方にとっても、改めて活動紹介を見直すこととなり、終了後は作成したポスターを手元に置きたいという希望がありました。そのほか、情報紙第8号で取材した「よこはま布えほんグループ」の情報紙の記事と共に、実際に布絵本であるコーナーも設置しました。
- ・2017年3月22日～4月上旬には、戸部小学校5年1組による総合学習の発表として「えがお広がれ とべまちポスター展」(戸部大通り商店街のポスター展)を掲示しました。



＜横浜・藤棚シネマアートフェスタ2016
スタンプラリーの様子＞



＜西区民まつりでの掲示の様子＞

5)広報よこはま西区版の活用

- ・2016年7月号に「西区地域づくり大学校」と「NPO 法人入門講座」の受講生募集の記事を掲載しました。
- ・2017年1月号に、「本から始まる出会いの場づくり」の参加者募集の記事を掲載しました。

3. 活動ステップアップ・ネットワーク支援

◆活動者や団体の次のステップに向けた支援

日々活動する団体に対して、ステップアップの機会や情報を提供しました。

実施したこと

1)「NPO 法人入門講座—ちょっと気になるNPO—」講座の開催

- ・横浜市市民局市民活動支援課との協働で開催しました。

- ・20 名定員のところ、27 名の応募がありました。西区を中心に、保土ヶ谷区、神奈川区など他区からも申し込みが多く、NPO 法人化に関する関心の高さが分かりました。
- ・お子さん連れでも参加できるよう、NPO 法人はぐっと「コアラの会」に依頼し、託児スペースを設けました。2 組 3 名の利用がありました。
- ・講座アンケートでは 21 名の方にご記入いただきました。講座の内容について「大変満足」12 名、「満足」9 名となり、満足度が高い結果となりました。特に、丸山氏より事例紹介をいただいたことで、「運営についての具体的な話がきけてよかった。」「丸山さんの話が聞けて参考になった」という声が多くありました。

日時・場所	内容
2016 年 7 月 29 日(金) 9:30~12:00 にしとも広場	・アイスブレイク:3 人 1 組で自己紹介 ・第 1 部:NPO 法人制度の概要／市民局市民活動支援課 奥村未緒 ・第 2 部:NPO ってなんだろう？ (1)NPO 法人よくある疑問／にしとも広場 小山紳一郎 (2)設立 & 運営の体験談／認定 NPO 法人地球学校 丸山伊津紀 氏 ・質疑応答



<NPO 法人入門講座の様子／写真左：丸山氏>

2)地域づくりの人材を養成する講座「西区地域づくり大学校(以下、西区地域大)」の開催

- ・本講座は、①講座後もつづく仲間づくり、②少人数制の連続講座、③講座終了後も、にしとも広場が継続的に受講生を応援することを特徴とし、全 6 回で実施しました。
- ・昨年度のアンケート結果で、多世代交流への関心が高かったこと、また、日頃より身近な地域でつながる必要性が高まっていることを背景に、今年度は「いろんな居場所のつくり方」をテーマとしました。そこで、26 年間子どもの居場所・あそび場づくりの活動に携わっている、NPO 法人れんげ舎代表の長田英史さんを講師にお招きしました。
- ・受講生同士のつながりや、受講後のフォローアップ体制を密にするため、今年度は 15 名定員としました。定員を上回る応募があり、抽選の結果、17 名の方が参加しました。
- ・参加者の年齢は、30 代から 70 代と、幅広い年代の方にご参加いただきました。内訳は下記の通りです。(30 代 2 名、40 代 4 名、50 代 4 名、60 代 4 名、70 代 3 名)
- ・区政推進課との協働で開催しました。



<2016 年度募集パンフレット中面>



<第 3 講 紅梅気楽カフェ見学の様子>

①講座内容

	日時・場所	テーマ・内容
1	2016 年 9 月 3 日(土) 13:00-17:00 にしとも広場	『テーマ:どんな「居場所」をつくりたい?』 ・講義:「居場所ってなんだろう?」講師:長田英史 氏(NPO 法人れんげ舎代表) ・ワーク:①自己紹介タイム、②「思いの棚卸:生きているうちにやりたいこと 100 ・ガイダンス (終了後、懇親会)
2	2016 年 10 月 8 日(土) 10:00-16:00 にしとも広場	『テーマ:地域でつくる、居場所のいろいろ』 ・講義:「自分の体験、身近なつながりの場をふりかえる」 講師:吉原 明香(認定 NPO 法人 市民セクターよこはま 事務局長) ・ワーク:「自分のこれまでをふりかえる」 ・第 3 講の見学先紹介および、希望票記入
3	2016 年 ①10 月 23 日(日) ②10 月 28 日(金) ③10 月 31 日(月) ④11 月 9 日(水) ⑤11 月 11 日(金) ⑥11 月 27 日(日)	『テーマ:実践者に聞く!運営のキモ』 各回 2 時間程度。見学を行ったほか、活動についてのお話、質疑を行いました。 ①「紅梅気楽カフェ」(西区) ②「Café ハートフル・ポート」(旭区) ③「朝市サロン・野外サロン」(南区) ④「さかみち文庫」(南区) ⑤「芝の家」(東京都港区) ⑥「藍染子ども広場」(東京都文京区)
4	2016 年 12 月 10 日(土) 10:00-16:00 にしとも広場	『テーマ:これからどうする?活動のステップ』 ・ワーク「第 3 講ふりかえり 見学先での体験を共有しよう!」 ・講義 場づくりのステップ(前半):どんな組織で活動していく? 場づくりのステップ(後半):コミュニケーションとしての会議のやり方 講師:長田英史氏(NPO 法人れんげ舎 代表)
5	2017 年 1 月 14 日(土) 13:00-17:00 にしとも広場	『テーマ:実行プラン応援します』 ・講義「実行プランの活かし方」 講師:吉原 明香(認定 NPO 法人 市民セクターよこはま 事務局長) ・助成金情報ほか 西区社会福祉協議会 事務局次長 三木渉 氏 ・実行プラン作成・グループで共有

6	2017 年 2 月 25 日(土) 13:00-17:00 にしとも広場	『テーマ:実行プランの発表&修了式』 ・実行プラン発表会 ・修了式 ・講座を振り返っての感想共有
---	--	---

②受講生アンケートより

来年度の計画・運営に反映させていくための基礎資料とするため、卒業式終了後にアンケートを実施しました(回答数:13 名)。

講座の平均点は 93.77 点※となり、受講しての感想では「講座に参加したことで、想いは形にできる事を知り、自信につながった」「ここでの出会いは貴重だった、地域に出向いて活動はしていたが、『あの親子ふれあい会のサンタさんはこの方だった』などと西区をさらに深く知るきっかけとなった」「仲間に恵まれた」「自分の思いを文字に、スケジュールにし、何とかしなければという思いとなった。これからが大切」という声がありました。(※120 点と回答した 3 名の方を 100 点に換算して計上)

また、「今回の講座はどのように活かそうでしょうか」という問いでは、「今まで自分の中で沸々としていた想いが実現できるかもしれないという実感に変わった」「実際の居場所づくりに平行しての学びだったため、会議のやり方、提案の仕方、そもそも活動するには何が必要か等が参考になった。すべて活かせるようにしたいと思う。」「どうにか一歩踏み出して勉強会をスタートした。今後どうやってネットワークを広げていくか課題が山積み」などの声がありました。

今後のサポート体制の強化として、講座後、受講生のプランを一覧化し、区役所にて課を横断する会議で共有を行いました。卒業生のサポートについては、今後の課題として検討を進めていきます。

3)生涯学習・市民活動支援講座の運営支援

- ・2014 年度より地域振興課が実施している生涯学習・市民活動支援講座「男子厨房に入る会」の自主グループ化(グループ名:ぐるめ・にし)に際し、2016 年度中の自主運営に向けて、年間8回の定例会ならびに会全体の運営に関する支援を行いました。
- ・今年度の活動目標の一つに「子どもとの料理交流で、地域に貢献する」ことを掲げ、浅間台小学校放課後キッズクラブ(5 月 16 日)、西前小学校放課後キッズクラブ(12 月 15 日)、戸部小学校放課後キッズクラブ(3 月 11 日)との協働事業を実施し、当センターはその運営をサポートしました。



〈ぐるめ・にし 7 月定例会〉



〈西前小学校放課後キッズクラブとの料理交流〉

- ・今年度新規で開催した生涯学習・市民活動支援講座「わが町、西区を知る」講座(全 8 回)について、横浜シティガイド協会とも連携しながら、企画から実施までの協力を行いました。

4)活動者や団体をつなぐ、ネットワークづくり

・分野を超えた活動者(団体)のつながりづくりを行うため、下記の講座を実施しました。

①「認知症になっても地域でイキイキと暮らせる西区(まち)になあれ～(認知症サポーター養成講座)」

- ・同じグループで活動している方が、認知症になっても活動し続けられる様に、厚生労働省の「認知症サポーターキャラバン」事業として行われている、「認知症サポーター養成講座」を実施しました。
- ・平日午後、土曜午後、平日夜と、働いている方も参加できる日時も設定し、同内容で3回実施しました。
- ・うち1回は、認知症のご本人の方に日本舞踊の披露をしていただき、ご家族からは「ご家族のお気持ち」をお話しいただきました。
- ・実施に当たっては、認知症キャラバン・メイトの方にご協力いただきました。認知症キャラバン・メイトのうち1人は、当センターで毎月認知症カフェ(わたぼうしカフェ)を開かれている方で、講座参加者の中には後日ご家族とともに、この認知症カフェに参加した方もいらっしゃいました。
- ・このエリアにある戸部本町地域ケアプラザの方にも来ていただき、相談場所の紹介や、参加者からのお悩み相談への対応にもつながりました。
- ・元々は活動団体向けに実施した講座でしたが、個人の方の参加が多く、団体のネットワーク作りにはつながりませんでした。その一方で、認知症キャラバン・メイトになったまま活動の機会がなかった方への活動機会の提供になりました。

日時・場所	内容
①2016年6月27日(月) 13:30～15:30	・認知症サポーターキャラバンとは(DVD) ・自己紹介タイム
②2016年9月4日(日) 13:30～15:30	・「認知症という病気を知ろう」(テキストと紙芝居を用いた講座) ・西区在住の認知症のご本人による踊りの披露
③2016年11月17日(木) 18:30～20:30 いずれも、にしとも広場	・認知症の人の気持ちと接し方 ・ご家族の体験談 など 協力: 西区内で活動する認知症キャラバン・メイト 参加者数:①11名、②12名、③5名



<認知症サポーター養成講座>

② 「技術よりも思考力！？デジカメでイ写真を撮る！」講座

- ・活動を魅力的に伝えることを目的に、撮影するにあたっての考え方や気をつける点を学びました。
- ・アンケートでは、「他の写真教室では教えていただけないようなテクニックが聞けて勉強になりました。イベントの際に役立てたいと思います。」「良い写真を撮るためには、事前の情報・準備がものをいうことが分かりました。条件をそろえて成功率を上げる努力をしたいと思います。」という感想がありました。
- ・参加者の多くは、活動団体に所属していたり、町内会活動で広報の活動をしている方でした。講座終了後には、カメラのグループで活動されている方から、講座参加者への活動参加の呼びかけがされたりもしました。

日時・場所	内容
2016 年 10 月 21 日(金) 13:30～16:30 にしとも広場	講師：小菅聡一郎 氏 ・前半「考え方編」：写真を撮るうえでの準備について ・後半「実践編」：撮影依頼を仮定して、撮影のシミュレーションから実践で気を付ける点について学びました。 ・ミニレクチャー：写真の保存方法、集合写真の撮り方、天井バウンスとは 参加者数：18 名

<技術よりも思考力！？
デジカメでイ写真を撮る！講座>



③ 「本から始まる出会いの場づくり～本と本でつながろう～」講座

- ・情報紙 8 号のテーマと連動した企画として実施しました。
- ・情報紙で紹介した方や活動の担い手をゲストに招き、情報紙には掲載しきれなかったお話を伺うことができました。またこのことは、情報紙に掲載した団体同士の出会いの場にもなりました。
- ・グループワークでは、区内で本を活用した場づくりをしたい方と区内で既に本を用いた活動をしている方が、出会い、一緒に話し合う場面を作ることができました。
- ・区内で活動するコーヒーボランティア「ほっと一息、コーヒータイム」を招き、コーヒーを提供していただいたことで、講座参加者の活動との連携を提案することができました。
- ・商店街に店舗を持つカフェの方からは、「持っている絵本を活用して何かを始めたい」、地域に拠点がある団体からは、「大人への絵本の読み聞かせやブックトークをしたい」というお話も出されました。

日時・場所	内容
2016 年1月 22 日(土) 14:00～16:30 にしとも広場	・講演「マイクロライブラリーの楽しみ方」 磯井純充 氏（「まちライブラリー」の提唱者） ・本を用いた集いの場づくりを実践している方々による座談会 中嶋伴子 氏（ふらっとステーションとつか） 五味真紀 氏（Café ハートフルポート） 小林圭子 氏（雀文庫みたか） ・参加者交流会「本から始まる出会いの場をつくろう！」 参加者数:25 名 ＜協力＞横浜中央図書館



＜本から始まる出会いの場づくり～本と本でつながろう～ 当日の様子＞

5) 西区民まつりへの参加

- ・すべてのプログラムを合わせて、205 名の方に来館いただきました。
- ・西区内の活動者(La Seed、Yomyom!、米岡泰氏)との協働でプログラムを実施しました。企画、広報、当日のチラシ配布・宣伝、進行、実演を、「生涯学習を活用して地域のつながりづくりをめざす」というコンセプトを共有しながら、協働で行いました。
- ・事前準備や、当日のプログラムの実施では、総勢 10 名の地域の方にボランティアとしてサポートしていただきました。顔合わせ会や振り返り会などお互いを知る機会を設けたことで、ボランティア同士のつながりも生まれました。
- ・来館者の方に関係者と分かる目印とするため、ボランティアの方とスタッフの全員がバッジを身に付けました。ボランティアとの一体感にもつながりました。バッジは、西区にある就労継続 B 型作業所「さらい工房」にお願いし、作成してもらいました。

日時・場所	目的・内容
2016 年 11 月 6 日(日) 10:00～15:00 にしとも広場 および	目的:にしとも広場を知ってもらい、西区で活躍する方やグループを知ってもらい、活躍の機会・地域貢献の機会を広げてもらうこと 内容: ①ミニコンサート(参加総数:98 名) ・「懐メロ広場」(合唱・体操。シニア世代対象) ・「ちびとも広場」(パネルシアター、ダンス、音楽。親子対象)

にしとも広場前(屋外)	・La Seed、Yomyom!、米岡泰氏と一緒に企画から実施を行いました。 ②折り紙コーナー ・米岡泰氏と、ボランティアのみなさまにご協力いただき、7 変化の折り紙や、かぶとなど、年齢に合わせて一緒に折り紙を行いました。 ・来館者の当センター滞留時間が増え、来館者とのコミュニケーションを図ることができました。 ③展示コーナー ・ミニコンサートの出演者の紹介パネルを掲載しました。 ・情報紙第 8 号で取材を行った、「よこはま布絵本グループ」の方より、布絵本を 3 点お借りし、実物を展示しました。 ④スタンプラリー ・4 団体共催(にしく名・達の会／西区地域子育て支援拠点スマイル・ポート/藤棚 1 番街協同組合／当センター) ・53 名の方に参加していただきました。
-------------	---



＜西区民まつりの様子＞

4. 地域支援

◆エリアを絞り、若手が参画する地域活動の促進に向けて

4ヵ年実施した西区地域づくり大学校で得た、修了生や講師の方々とのネットワークや、蓄積されたノウハウなどをもとに、西区全域を対象とした地域づくり大学校を実施するだけでなく、連合自治会町内会エリアなど小地域でも相互の学びの場を設け、地域課題やノウハウの共有と共に、人の交流が促進されるような取組を進めていきました。

実施したこと

1) 地域づくりの人材を養成する講座「西区地域づくり大学校(以下、西区地域大)」の開催(再掲 p.9)

2) まちを歩き、地域の資源を知る「ツール・ド・にしく」の実施

今年度は、地域振興課が実施する生涯学習・市民活動支援講座「わが町・西区を知る」と連動し、「商店街から見える暮らし・地域のつながりの歴史」をテーマに実施しました。

商店会長にご紹介いただいた、古くからお店を営む 2 軒の 3 代目にあたる、80 代の男性二人から、お店の歴史とこのまちの移り変わり(子どもの頃から見てきた、このまちの風景)について、そしてこのまちの一角にあり、このまちの生活にも深く根付いている岩亀稻荷の歴史についてお話を伺いました。

日時・場所	内容
2016 年 9 月 6 日(火) 14:00-17:00	「三代目が語るまちの記憶―戸部・岩亀横丁―」 ・「松本屋Yシャツ店」の歴史と岩亀横町の「講」のお話 お話:相澤義一 氏 ・岩亀稲荷をお参り ・「木村経師店」の歴史を通じて、横浜の生活史を知る お話:木村康夫 氏 案内人:大塚眞司 氏 (戸部大通り商店会 会長) 参加数:16 名



＜三代目が語るまちの記憶―戸部・岩亀横丁―＞

3) 「魅力的な地域活動を語ろう！～それぞれの力を活かすコーディネート～」講座

地域活動の大きな共通課題の一つである、これからの担い手について考える講座を実施しました。現役の地域活動の担い手である自治会町内会役員、民生委員・児童委員、テーマ型の活動者等にお声掛けし、40代～70代までの21名が参加しました。

日時・会場	内容
2017 年 3 月 18 日(土) 9:30～12:30 にしとも広場	<講義> 1. 自治会町内会活動・市民活動の意義と課題 2. 元気な地域活動の事例紹介 3. 市民の自発性(内発的動機付け)を高める鍵 4. テーマ型とエリア型の活動の特徴 5. 多様な住民が参加できる仕組みづくり <グループワーク> ワールドカフェ「地域活動に参加する住民を増やすにはどうしたらよいか」 講師:早瀬昇氏(社会福祉法人大阪ボランティア協会 常務理事) 参加数:21 名

5. 地域人材ボランティアバンク（生涯学習ボランティア「西区街の名人・達人」）

◆「自分の特技を地域のために活かしたい」という気持ちを大切に

身近にいる方々の経験やスキルが地域の中で活かされ、まちも人も相互に元気になることや、登録者の方々のスキルアップを図るため、当事業の活用方法の周知などに努めました。

実施したこと

1)生涯学習ボランティア「西区街の名人・達人(以下、「生涯学習ボランティア」)」のコーディネート

- ・47 件の依頼があり、そのうち成立は 36 件(成立率 76.5%)でした。
- ・「西区街の名人・達人ガイドブック」ダイジェスト版を更新しました。
- ・登録者の特徴を活かしたコーディネートができるよう、活動先に出向いた他、当センターでパフォーマンスしていただく機会を設けるなど、実演を知る機会を持ちました(今年度訪問件数:20 件)。
- ・西区民まつりでは、生涯学習ボランティアのコラボレーション企画としてコンサートを行いました。クラシック音楽の La Seed さん、折り紙と男声合唱の米岡泰さん、地域で活動する子ども向け読み聞かせ団体の Yom Yom! さんとともに、企画から当日の集客まで一緒に行いました。
- ・区役所内の区民ホールにて、生涯学習ボランティアのご紹介と共に、今年度の新規登録者のパネル紹介を行いました。同パネルの一部は、センター内の展示コーナーで展示したほか、「にしく名・達の会」主催の「西区街の名人・達人まつり」(2 月 25 日)でも展示を行いました。



＜登録者同士のコラボレーションによるコンサート
(西区民まつり)＞



＜あけぼの会主催のわたぼうしカフェでの実演＞



2)「生涯学習ボランティア」のホームページ掲載情報の更新

- ・新規登録者については、登録後速やかにホームページに情報を掲載しました。また、冊子のダイジェスト版として登録名と活動内容を一覧化し、配布を行いました。
- ・コーディネート事例および新規登録者のリストを、ホームページに掲載しました。

6. 区民利用施設等との連携による活動支援

◆施設連携を新たなステージへ

これまで年 2 回実施してきた施設連携会議を見直すため、複数の施設に改めて現状と、施設連携会議の持ち方についてご意見を伺うヒアリングを実施しました。また、以前より、共催していただいている西区社会福祉協議会や関係部署とも意見交換を重ね、役割の違うそれぞれの施設がどのような形で連携することが、地域の人が活躍できる場が増え、より一層豊かで充実した生活を送ることにつながるかを検討しました。それを踏まえ、年度末に施設連携会議(2017 年 3 月 10 日)を実施しました。

実施したこと

1)区民利用施設等へのヒアリングの実施

下記の通り、ヒアリングを実施しました。現在の各施設の現状や他施設との連携の様子を伺い、共通のテーマを検討しました。今年度から指定管理者が変わった施設や、新たな人材が配置された施設もあることから、顔の見える関係の再構築の必要性を感じました。また、福祉系の施設には地域活動の担い手や地域の人々が気軽に集える場を求める声がある一方、地区センターやコミュニティハウス等の施設には多くの団体や個人が訪れ活動している様子が分かりました。このことから、双方が持つ情報や人材を持ち寄ることで地域の人々が活躍できる場が増え、より一層豊かで充実した生活となる可能性が見えてきました。また、施設ごとに利用者の年代が異なる場合があることも分かりました。それぞれに利用が少ない年代にアプローチしていきたいことを考えると、連携事業をすることで、互いに利用者の掘り起こしにつながる可能性があることも分かりました。

日時	ヒアリング先
10月7日(金)	軽井沢コミュニティハウス
10月20日(木)	稲荷台小学校コミュニティハウス 藤棚地区センター
10月24日(月)	戸部コミュニティハウス
10月31日(月)	西地区センター
11月4日(金)	中央図書館 浅間コミュニティハウス
12月2日(金)	西スポーツセンター
1月16日(月)	戸部本町地域ケアプラザ 藤棚地域ケアプラザ
2月3日(金)	宮崎地域ケアプラザ
2月14日(火)	浅間台地域ケアプラザ

2)区民利用施設等との連携会議の実施

ヒアリングを経て、3月に連携会議を実施しました。区内22施設にお声掛けし、13施設が参加しました(地区センター、コミュニティハウス、集会所、地域ケアプラザ、福祉保健活動拠点、地域子育て支援拠点、図書館、スポーツセンター、老人福祉センター、地域活動ホーム、生活支援センター)。

当日は、講義や連携事例の紹介、グループワークで情報共有・意見交換をしました。また、茶菓子付きの休憩時間での交流や、当会議の名称を公募したことなどを通し、参加者が、より主体的に関われる工夫をしました。

アンケートからは、「他施設との情報交換が役立ちました。施設ごとの視点を聞けることは、連携する上で不可欠だと思います。」「日頃関わりのない施設の方と話をすることができた。自分の施設でできること可能性を考える良い機会となった。」という感想や、具体的な連携をつくるための取り組みを次回会議で期待する声が多く出されました。

日時・会場	内容
2017年3月10日(金) 13:00~16:30 にしとも広場	・趣旨説明 ・参加者自己紹介 ・講義「施設連携のメリットと可能性」 吉原明香（横浜市市民活動支援センター） ・区内の連携事例紹介「みんなで楽しもう！大人への読み語り」 横浜中央図書館・藤棚地域ケアプラザ・西区社会福祉協議会 ・グループワーク ・地域包括ケアシステムについて 参加者：19名(13施設) ＜共催＞西区社会福祉協議会



＜連携会議の様子＞

3)センター事業における区民利用施設等との連携

- ・「西区地域づくり大学校」の第5講では、西区社会福祉協議会から、助成金についてなどの支援制度の活用方法について話して頂き、受講生が活用方法を知る機会となりました。
- ・「認知症になっても地域でいきいきと暮らせる西区(まち)になあれ～」(認知症サポーター養成講座)では、戸部本町地域ケアプラザに来ていただき、相談機関の紹介や、参加者からのお悩み相談への対応にご協力いただきました。(再掲 p.11)
- ・職員研修として実施した「障がいのある方への相談対応研修」では、生活支援センター西の所長にお越しいた

だきました。(再掲p.4)

- ・図書イベント「本から始まる出会いの場づくり～本と本でつながろう～」では、中央図書館の協力をいただき、当日もご参加いただきました。また、西区社会福祉協議会の講座をきっかけに生まれたコーヒーボランティア「ホッと一息コーヒータイム」にお越しいただき、参加者にコーヒーを提供していただきました。
- ・区民まつりの際に作成したオリジナルバッジは、「よこはま障害者共同受注総合センター」に紹介していただいた、区内の就労継続 B 型事業所「さらい工房」で作成していただきました。(再掲p.12)



くにしとも広場
オリジナルバッジ>

4)にこまちプラン推進部会への参加

福祉保健課と社会福祉協議会が事務局となっている「にこまちプラン推進部会」について、下記 2 つの部会へ参加しました。

①ボランティア・市民活動部会(にこまちボランティアキャンプ)

- ・検討部会・見学を含め 4 回参画しました。部会の活動として、今年度は、団体の活動現場を訪問する「ボランティア体験ツアー」を企画・実施しました。ツアーの開催期間は、9 月上旬から 10 月下旬で、訪問団体は 6 団体。ツアーの実施報告は、広報よこはま西区版(2016 年 12 月号)と西区社会福祉協議会のウェブページに掲載されました。

②児童部会

- ・今年度は、検討部会および勉強会、現地見学会へ計 9 回参画しました。部会の活動では、活動者を対象とした勉強会 3 回、活動見学会 3 回を行った後、今後の取組に向けて、ネットワークづくりの話し合いの場を設けました。

7. 場の提供・活用の周知

◆様々な人が集い、つながることで進化する場に

“人が賑わい、情報が行き交う”、“誰にとっても身近で親しみがある”、“気軽に利用できる”、こうした「広場」というイメージを利用者の皆さまに持っていただけるよう、居心地の良さを向上させ、コミュニケーションが活発に行われるよう、掲示やレイアウトなどを工夫しました。その結果、今年度の利用者数(※)は、延べ 5382 人、月別利用者数は平均 449 人となり、昨年度より増加しました(昨年度延べ 4688 人)。

※利用者数には、来館者数、印刷利用者数、機材貸出し件数、生涯学習ボランティアコーディネート件数、相談件数を含みます。

実施したこと

1)誰もが立ち寄りたくなる場づくり

- ・居心地良く、ゆったりと情報収集や打ち合わせができるようキッズコーナーやカフェコーナーを設けました。
- ・入りやすい雰囲気になるよう、入口付近に「ウェルカムボード」や花を置き、外から見えるエリアにチラシラックを配置しました。チラシを手にとってゆっくり見られるように、新しくソファを設置しました。

- ・外にプランターを置き、種から育てたり、館内に季節にあわせた装飾品を置いたり講座案内のうちわを作成するなど、季節感を醸成しました。
- ・また外には掲示板を設置し、イベントのチラシを貼って、情報を提供するとともに、当センター内にはさらに情報があることをアピールして、当センターの利用を促しました。



＜ウェルカムボードの例＞



＜センター内の植栽＞



＜キッズコーナーとソファ＞



＜12月の季節の装飾＞

2)わかりやすいサイン掲示と居心地良さの向上

利用者の方々にとって、より活用しやすいセンターとなるよう、今年度は、下記のような工夫を追加で実施しました。

- ・センター内がやわらかい雰囲気になるよう、壁に木のイラストのウォールステッカーを貼りました。
- ・センター入口付近に、当センターの活用法やおすすめイベント情報などを掲載したボードを設置し、通行する方への周知に努めました。また、屋内、屋外に設置しているウェルカムボードには、当センターで出来ることや、機能が記載されたレイアウト図を掲示しました。
- ・助成金情報は従来の掲示板に加えてファイルを作成し、現在募集中の情報だけでなく、現在は募集期間でない情報も見られる様にしました。
- ・チラシラックの分類を見直し、特に相談の多い「西区内の地区・施設の情報の」ラックを新設しました(再掲 p.3)。毎月更新を行うため、各施設を訪問したりメールなどで連絡を取り合い情報収集をしました。このことは、顔の見える関係づくりにもつながりました。
- ・職員研修として他の3つの市民活動支援センター(戸塚区、藤沢市、藤沢市六会地区)を視察し、レイアウトやチラシの配架、掲示の方法などの参考にしました。(p.22 掲載)



＜ウォールステッカー＞



＜本棚と書籍＞



＜施設の情報のラック＞

3)設備や什器の定期チェックによる事故防止の徹底

- ・チラシ配架や回収の際に掲示物をチェックし、画鋏などが取れていないか常にチェックしました。
- ・月に 2 回の職員会議の際には、普段できないところまで清掃すると同時に、椅子のねじ等にゆるみがないかなど、定期的に安全面の確認をしました。

4)活用の周知

- ・西区に転入した方へ戸籍課が配布する資料(引越しセット)に、にしとも広場のパンフレットを同封しました。
- ・区民ホール前の庁内モニターにて、センターの案内の掲示を行いました。(2016 年 8 月 1 日～14 日、9 月 1 日～14 日、2017 年 2 月 1 日～16 日)
- ・「西区街の名人・達人まつり」(2017 年 2 月 25 日)にて、にしとも広場の紹介パネルを展示しました。(再掲 p.16)
- ・区民ホールを利用して、センターや相談事業について周知しました。(再掲 p.3)
- ・センター入口付近に、当センターの活用法やおすすめイベント情報などを掲載したボードを設置し、通行する方への周知に努めました。また、屋内、屋外に設置しているウェルカムボードには、当センターで出来ることや、機能が記載されたレイアウト図を掲示しました。(再掲 p.20)

5)利用者アンケートの実施

当センターの運営についてのご意見を集めるため、来館された方々とグループ・団体、生涯学習ボランティアとして登録している方々に郵送でアンケートを実施しました。

①利用者アンケート(来館者アンケート)

実施期間:2016 年 12 月 8 日(木) ～ 2016 年 12 月 27 日(火)

対象者:にしとも広場来館者(のべ 248 名)

回答数:86

配布・回収方法:来館者に手渡しし、その場で記入していただき回収。

②“にしとも広場”機能向上に向けたアンケート(グループ・団体向けアンケート)

実施期間:2016 年 12 月 8 日(木) ～ 2016 年 12 月 27 日(火)

対象者:当センターに登録しているグループ団体(126 団体)、「生涯学習ボランティア」(102 団体・個人)、

西区内に主たる事務所がある NPO 法人等(76 団体)

回答数:22

配布・回収方法:郵送にて送付(情報紙同封)。FAXまたはメールにて回収。

当センターの利用目的や使いやすさ、ホームページや情報紙についてのご意見を伺いました。その中で皆さんからのご意見を参考に、「休館日は今まで通り水曜日」、「情報紙は、今までのものとは別に、発行頻度を上げた簡易版を定期的に発行する」、「講座・イベントのさらなる充実」に向けて取り組んでいくことになりました。

8. 職員の育成および研修の取組

◆ 日頃からのコミュニケーションを大切に

にしとも広場の運営で大切にしている「仲間感」は、人と人との丁寧なコミュニケーションであると考え、接遇について見直すと共に、当事者性や相互性などをもとにした、職員の学びを深めました。また防災など安全面にも配慮した職員研修を行いました。

実施したこと

1)「活動団体ヒアリング」の実施(再掲 p.3)

・当事者性や現場性を大切に業務に取り組むために、活動団体ヒアリング(現場訪問)を実施しました。

2)相談力向上のための研修の実施(再掲 p.4)

・「障害のある方への相談対応」として、生活支援センター西所長の永瀬誠さんにお話を伺いました。あわせて、にしとも広場に相談のあった事例についてケース検討を行いました。

3)防災・減災、防犯、個人情報保護などに対応したマニュアル作りや実地研修の実施

- ・昨年度検討した内容を基に、「緊急時対応マニュアル」を作成しました。
- ・防災対策の備品を整備し、年1度点検する仕組みを整えました。
- ・個人情報保護に関する研修を実施するとともに、日々の業務の中における情報漏えいを起こさない仕組みを全員会議で点検しました。
- ・法人が実施したAEDや心肺蘇生法の研修に参加しました(2017年2月28日)。

4)他区の区版支援センターとの情報交換および交流、研修への参加

- ・横浜市市民活動支援センターが実施する研修およびネットワーク会議に参加し、他区の事例を学びました。
- ・相鉄沿線6区市民活動支援センター会議に参加し、共通する課題を検討するとともに連携を深めました。
- ・他区他都市のセンター(戸塚区、藤沢市、藤沢市六会地区)に見学に行き、他のセンターの状況や工夫を学びました。

5)外部研修への参加

- ・各職員が、外部研修に参加するなどしてスキルアップを図る機会を積極的に設けました。
 - ・常勤、非常勤合わせて合計26回の外部研修に参加しました。
- (参加例:中間支援力アップ研修、ローカルメディア講座、認知症カフェフォーラム ほか)

9. 区役所との協働

◆ 地域振興課および、関係課とのさらなる連携をすすめます。

センターが「区民のつながりを育み、力を活かし合う地域協働の総合拠点」となるべく、地域振興課を中心とした区役所との協働をすすめました。

実施したこと

1) 日常的な「報・連・相」や定例会議で成果や課題を丁寧に共有

毎月1回、定例会議を実施しました。事業の進捗状況の確認の他、懸案事項についての意見交換等を行いました。また、定例会議以外でも、気になったことは、お互いに相談し合うなど、丁寧に共有する機会を設けました。

2) 協働契約書を締結し、センター事業の目的の共有と双方の強みを活かした運営の実現

お互いの強みを活かした運営となるよう、役割を細かく話し合い、文言に齟齬がないかどうか話し合ったうえで、「にしく市民活動支援センター運営事業 協働契約書」を締結しました。

3) 区役所と当法人理事との組織同士の会議で、センター運営の方向性や共有のしくみを検討

地域振興課と当法人の事務局長および担当理事との会議で、当センターのよりよい運営のために、次年度より、定期的に運営全般について共有する等の仕組みについて話し合いました。

4) 西区役所関係課や他の支援機関との連携・協働の実現

- ・事業の企画や実施においては、地域振興課のみならず、関係課や他の支援機関と連携協働し、さらに充実した事業の実現につなげました。
- ・施設連携会議の実施については、西区社会福祉協議会、福祉保健課と連携を取りながら進めました。
- ・地域支援事業については、地域情報を多く持つ区政推進課や福祉保健課に相談し、情報収集しながら進めました。
- ・認知症サポーター養成講座では、高齢・障害支援課や戸部本町地域ケアプラザと連携しました。

5) にしとも広場運営に関する協働のふりかえりを実施

年度終了後には、事業報告をもとに「協働に関する相互検証シート」を作成し、にしく市民活動支援センター運営事業における西区との協働の取組を振り返りました。

認定特定非営利活動法人市民セクターよこはま

2016年度

決 算 書

1. 活動計算書
2. 貸借対照表
3. 財務諸表の注記
4. 財産目録
- (参考) 予算・決算比較表
5. 監査報告書

法人名： 特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

活動計算書

2016 年 4 月 1 日 ～ 2017 年 3 月 31 日 まで

(単位:円)

科 目	金 額		
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	264,000		
準会員受取会費	15,000		
賛助会員受取会費	30,000	309,000	
2. 受取寄付金			
受取寄付金	101,960	101,960	
3. 受取助成金			
助成金収益	913,333	913,333	
4. 事業収益			
自主事業収益	21,492,490		
受託事業収益	71,220,216	92,712,706	
5. その他収益			
受取利息	278		
雑収益	359,689	359,967	
経常収益計			94,396,966
II 経常費用			
1. 事業費			
(1)人件費			
給料手当	39,771,553		
賞与	7,649,925		
法定福利費	5,878,354		
通勤手当	2,466,838		
福利厚生費	350,287		
人件費計	56,116,957		
(2)その他経費			
講師謝礼金	6,346,246		
業務委託費(調査)	253,880		
業務委託費(報酬)	864,688		
ボランティア謝金	170,389		
旅費交通費	1,029,122		
通信・運搬費	2,266,865		
印刷・製本費	4,376,566		
消耗品費	1,679,044		
事務所家賃	1,634,190		
水道光熱費	103,714		
支払手数料	277,292		
リース料	1,453,802		
保険料	19,120		
会場費・イベント費	836,198		
研究・研修費等	346,008		
修繕費	321,408		
警備料	668,736		
広告宣伝費	86,400		
新聞図書費	1,460,765		
支払助成金	50,000		
租税公課	4,748,839		
雑費他	915,719		
減価償却費	223,195		
支払利息	10,377		
貸倒繰入額	30,500		
その他経費計	30,173,063		
事業費計		86,290,020	

2. 管理費			
(1) 人件費			
給料手当	60,184		
法定福利費	7,460		
通勤手当	209,864		
人件費計	277,508		
(2) その他経費			
業務委託費(報酬)	36,029		
旅費交通費	42,880		
通信・運搬費	94,453		
印刷・製本費	182,357		
消耗品費	69,960		
事務所家賃	68,091		
水道光熱費	4,321		
リース料	60,575		
保険料	11,300		
支払手数料	11,554		
会場費	17,216		
寄付金	75,000		
減価償却費	9,300		
雑費他	48,235		
その他経費計	731,271		
管理費計		1,008,779	
経常費用計			87,298,799
当期経常増減額			7,098,167
Ⅲ 経常外収益			
貸倒引当金戻入		45,743	
経常外収益計			45,743
Ⅳ 経常外費用			
固定資産除却損		0	
経常外費用計			0
税引前当期正味財産増減額			7,143,910
法人税・住民税および事業税			825,700
当期正味財産増減額			6,318,210
前期繰越正味財産額			19,300,030
次期繰越正味財産額			25,618,240

法人名： 特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

貸借対照表

2017 年 3 月 31 日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	28,639,697		
未収金	5,486,590		
貸倒引当金	△ 30,500		
棚卸資産	216,587		
前払費用	89,208		
仮払金	230,066		
流動資産合計		34,631,648	
2. 固定資産			
(1) 有形固定資産			
工具器具備品	1,445,829		
有形固定資産計	1,445,829		
(2) 投資その他の資産			
差入保証金	258,096		
長期前払費用	114,147		
投資その他の資産計	372,243		
固定資産合計		1,818,072	
資産合計			36,449,720
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	3,821,118		
未払費用	3,202,353		
預り金	494,209		
未払法人税等	825,700		
未払消費税等	2,488,100		
流動負債合計		10,831,480	
2. 固定負債			
長期借入金	0		
固定負債合計		0	
負債合計			10,831,480
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		19,300,030	
当期正味財産増減額		6,318,210	
正味財産合計			25,618,240
負債及び正味財産合計			36,449,720

財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産の評価基準は、原価基準により評価方法は最終仕入原価法によっています。

(2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定率法で償却をしています。

(3) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込経理方式によっています。

2. 固定資産の増減内訳

固定資産の増減は以下の通りです。

(単位:円)

科 目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
工具器具備品		1,577,124		1,577,124	△ 131,295	1,445,829
合 計	0	1,577,124	0	1,577,124	△ 131,295	1,445,829

3. 役員及びその近親者との取引の内容

役員及びその近親者との取引は以下の通りです。

(単位:円)

科 目	財務諸表に計上された金額	内役員及び近親者との取引
印刷製本費	4,558,923	821,944
活動計算書計	4,558,923	821,944

4. 支払助成金内訳(寄付金の使いみち)

皆様から寄せられた寄付金は、市民まちづくり応援ファンドとして、今期は1団体に計5万円を助成しました。

財産目録

2017 年 3 月 31 日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
横浜市市民活動支援センター小口	202,230		
にしく市民活動支援センター小口	32,755		
市民活動支援センター窓口	30,000		
その他小口現金	573,888		
横浜銀行 (管理通帳)	921,450		
横浜銀行 (支援センター)	7,899,382		
横浜銀行 (事業通帳)	9,607,206		
横浜銀行 (にしく支援C通帳)	8,145,681		
ゆうちょ銀行	1,227,105		
現金預金計	28,639,697		
未収金			
子どもの未来応援国民運動横浜フォーラム負担金	889,956		
横浜市神奈川区地域づくり大学校横浜市負担金	1,159,401		
横浜市小規模多機能居宅介護事業者連絡会 事務局業務	540,000		
横浜市認知症サポーターキャラバン事業等受託費用4/4	1,277,100		
横浜市都市整備局 まち普請運営費用	691,200		
横浜市危機管理室リーダー育成プログラム講座講師謝金	268,488		
福祉サービス第三者評価費用	153,900		
横浜あゆみ荘宿泊モニタリング実施料	280,800		
横浜市南区地域活動発表会 謝金	75,000		
横浜市専門アドバイザー派遣事業費(3月分)	34,560		
その他	116,185		
未収金計	5,486,590		
貸倒引当金	-30,500		
棚卸資産			
書籍在庫	216,587		
前払費用			
施設賠償保険料・印刷代 他	89,208		
仮払金			
経費未精算分	230,066		
流動資産合計		34,631,648	
2. 固定資産			
(1)有形固定資産			
工具器具備品			
電話設備2件	1,445,829		
(2)投資その他の資産			
差入保証金			
NGS横浜馬車道事務所 保証金	258,096		
長期前払費用			
NTTファイナンス割賦利息	114,147		
固定資産合計		1,818,072	
資産合計			36,449,720
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金			
市民活動支援センター 警備費・電話代等	292,415		
市民活動支援センター ルーター更改工事	147,960		

市民活動支援センター 印刷代	442,800		
市民活動支援センター 共同オフィス卒業式費用	104,422		
にしき市民活動支援センター 印刷費・消耗品費等	161,029		
法人事務所 電話代・水道光熱費等	68,430		
社会保険料 3月分	1,132,524		
モニタリング委託料	246,240		
報酬・謝金等	125,509		
健康診断・通信費 他	133,945		
未払金計	3,821,118		
未払費用			
給与 3月分	3,202,353		
預り金			
源泉所得税	292,009		
住民税	202,200		
預り金計	494,209		
未払法人税等	825,700		
未払消費税等	2,488,100		
流動負債合計		10,831,480	
2. 固定負債			
長期借入金	0		
固定負債合計		0	
負債合計			10,831,480
正味財産			25,618,240

2016予算・決算 比較表

(単位:円)

科 目	2016予算	2016決算	差異(予算-決算)
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	360,000	264,000	△ 96,000
準会員受取会費	24,000	15,000	△ 9,000
賛助会員受取会費	30,000	30,000	0
2. 受取寄付金			0
受取寄付金	100,000	101,960	1,960
3. 受取助成金			0
助成金収益	780,000	913,333	133,333
4. 事業収益			0
自主事業収益	16,090,000	21,492,490	5,402,490
受託事業収益	70,764,936	71,220,216	455,280
5. その他収益			0
受取利息	8,000	278	△ 7,722
雑収益	290,000	359,689	69,689
経常収益計	88,446,936	94,396,966	5,950,030
II 経常費用			0
(1) 人件費			0
給料手当(賞与・法定福利費・通勤手当含む)	54,457,000	56,044,178	1,587,178
福利厚生費	555,000	350,287	△ 204,713
人件費計	55,012,000	56,394,465	1,382,465
(2) その他経費			0
講師謝礼金	5,635,000	6,346,246	711,246
業務委託費(調査)	430,000	253,880	△ 176,120
業務委託費(報酬)	929,000	900,717	△ 28,283
ボランティア謝金	182,000	170,389	△ 11,611
旅費交通費	1,000,000	1,072,002	72,002
通信・運搬費	2,400,000	2,361,318	△ 38,682
印刷・製本費	4,000,000	4,558,923	558,923
消耗品費・備品費	1,500,000	1,749,004	249,004
事務所家賃	1,590,000	1,702,281	112,281
水道光熱費	125,000	108,035	△ 16,965
支払手数料	240,000	288,846	48,846
リース料	1,808,000	1,514,377	△ 293,623
会場費・イベント費	800,000	853,414	53,414
研究・研修費	380,000	346,008	△ 33,992
新聞図書・資料代	1,225,000	1,460,765	235,765
修繕費	200,000	321,408	121,408
警備料	669,000	668,736	△ 264
保険料	26,000	30,420	4,420
支払助成金	100,000	50,000	△ 50,000
租税公課(消費税等)	4,500,000	4,748,839	248,839
寄付金	0	75,000	75,000
減価償却	0	232,495	232,495
支払利息	0	10,377	10,377
雑費他	700,000	963,954	263,954

広告宣伝費	0	86,400	86,400
貸倒繰入額	45,000	30,500	△ 14,500
その他経費計	28,484,000	30,904,334	2,420,334
経常費用 計	83,496,000	87,298,799	3,802,799
当期経常増減額	4,950,936	7,098,167	2,147,231
Ⅲ 経常外収益			0
貸倒引当金戻入	38,000	45,743	7,743
経常外収益計	38,000	45,743	7,743
Ⅳ 経常外費用			0
繰延資産償却	0	0	0
固定資産除却損	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
税引前当期正味財産増減額	4,988,936	7,143,910	2,154,974
法人税・住民税および事業税	600,000	825,700	225,700
当期正味財産増減額	4,388,936	6,318,210	1,929,274
前期繰越正味財産額	19,300,030	19,300,030	0
次期繰越正味財産額	23,688,966	25,618,240	1,929,274

2016 年度（平成 28 年度）

監 査 報 告 書

2017 年 5 月 14 日

認定特定非営利活動法人
市民セクターよこはま
理事長 中野 しずよ 様

認定特定非営利活動法人
市民セクターよこはま

監事 西尾 敦史 
監事 大塚 宏 

特定非営利活動促進法第 18 条の規定に基づき、2016 年度（平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで）の認定特定非営利活動法人 市民セクターよこはま の業務及び財産の状況について監査を実施いたしました。

業務の執行については、理事会に出席して状況を把握するとともに、資料を閲覧するほか、理事・事務局から事業の進捗や報告を聴取し、監査を実施しました。また財産の状況については、証拠書類の閲覧、照合、質問等の合理的な保証を得るための手続きを行いました。

監査の結果、法人の業務の執行に関しては法令および定款に違反する重大な事実はなく、認定特定非営利活動法人 市民セクターよこはま の財務諸表は 2016 年度における収支ならびに年度末における財産の状況を適正に表示していることを認めます。

以上